キ分任規程ヲ定メ四月一日ヨリ實施スルコト、セリ

尋テ本行ハ國庫事務ノ取扱ヲ圓滑ニシ兌換券流通ノ道ヲ便ニシ且金融ノ疏通ヲ謀リ金利ノ平衡ヲ得セシムル目的ヲ以テ長崎、函館、新潟、神戸、横濱、赤馬關、名古屋、仙臺ノ八ケ所ニ漸次支店ヲ設ケタキ趣旨ヲ以テ明治十九年四月二十三日大藏大臣ニ許可ヲ請願シタルニ其筋ヨリ内話ノ趣モ有之タルニ付同年六月十六日更ニ案ヲ具シテ請願シタルニ同月二十三日ヲ以テ願ノ趣聞届ケラレ尚支店設置ノ場所幷事務細則等速ニ取調更ニ伺出ハキ旨ノ指令アリタリ右六月十六日ノ請願書幷ニ同書附屬ノ支店成規ハ左ノ如シ

當銀行事務之義追々擴張國庫金取扱事務、兌換券發行事務「コルレスポンデンス」事務等著シク增加致シ其關係全國ニ及ホシ候ニ付各地ノ情況ヲ斟酌シ其緩急ニ於テ一層注意ヲ加ヘ候義緊要ト被存候然ルニ當銀行支店ノ義ハ未タ大阪府下ニ一個所設置有之ノミニテ其他ハ各地國立私立ノ銀行ト「コルレスポンデンス」取組金融相計居候處地方ノ商況金融ノ消長等確視仕候ニハ右ノミニテハ當本店ヘノ通信向等兎角隔靴ノ嘆ヲ免レス懸念不尠候間追々樞要ノ地ニ支店ヲ設ケ國庫金事務ヲ始メ諸取扱向ヲシテ圓滑ナラシメ併セテ兌換券流通ノ道ヲ便ニシ且金融ノ疏通ヲ謀リ金利ノ權衡ヲ得セシメ候樣仕度尤支店設置ノ上ハ近傍ノ國庫金取扱代理店ヲ包含シテ區域ヲ定メ區域内各店ノ代理事務ヲ監督可致且營業事務ニ至リテハ勉メテ實著ヲ旨トシ收益ハ諸入費ヲ償フニ足ルヲ以テ第一着トナシ猥ニ業務ノ程度ヲ超ヘテ弊害ヲ來スノ恐ナキ樣十分ノ檢束ヲ施シ別紙ノ成規ニヨリ設置ノ都合ニ取計申度尤右御許可ノ上ハ設置ノ場所幷支店内規等ハ別ニ細則取調御届可仕積リニ御座候右ハ定款第六十五條ニ據リ銀行總會ニ於テ決議仕リ候間仝第二條ニヨリ此段請願仕候也

支店成規

第一條　本行支店ヲ三等ニ別チ一等支店ハ理事二等支店ハ支配役三等支店ハ支配役若クハ副支配役ヲ以テ長トス

第二條　一等支店資本金ハ豫メ之ヲ定メ置キ二等三等支店ハ營業ノ景況ニヨリ資本ヲ增減スヘキモノトス

第三條　支店營業ノ本務ハ左ノ如シ

一等支店	二等支店	三等支店
政府手形ノ割引及賣買	仝上	
商業手形ノ割引及賣買		
有抵當定期貸	禁	
有抵當當座勘定貸	仝上	
有利定期預金		
無利當座預金	有利ハ禁 無利足預金	
無利足振出手形		
無利足別段預金		
本支店及他店送金手形	本支店送金手形他店ハ禁	特ニ本店ノ指令スル事務ニ從事ス
代金取立手形	兼テ取引有之モノニ限ル	禁
公債證書及地金賣買	禁	仝上
貨幣交換	仝上	

但本店ヨリ命令スルキハ此他ノ事務ヲ取扱フコアルモノトス

第四條　支店資本金ハ前第三條ニ揭クル事業外ニ運轉スルヲ得ス尤其運轉金ハ取引先銀行會社又ハ壹個人ニ對スル制限ハ時々總裁指揮スルモノトス

第五條　支店諸預リ金ハ資本ノ補助トシテ總預リ高半額迄運轉スルヲ得ヘシ尤一等支店ハ前第三條各種取引ニ充テ二等三等兩支店ハ送金手形仕拂ノ爲メ一時辨用スルノ外他ニ使用スヘカラサルモノトス

但二等三等兩支店ニ於テモ定期預金ハ其期限內有期取引ノ爲メニ使用スルヲ得

第六條　支店定期貸及割引手形其他取引期限ハ一等支店定期貸ハ六ケ月割引手形ハ百日以內二等三等兩支店ハ定期貸割引手形共百日以內ノモノニ限ルヘシ

第七條　支店取引上抵當品ノ種類價格及利足手數料等ハ總テ本店ニ於テ定メタル制限內ニ取引ヲナスモノトス

但抵當品種類ハ諸公債證書及政府發行手形幷地金銀其他大藏大臣ノ認可ヲ經テ定メタル物品ニ限ル

第八條　支店日常經費ハ豫算書ヲ作リ半季毎ニ本店ノ認可ヲ受クヘシ而シテ右豫算外經費一等支店ハ百圓二等三等支店ハ五拾圓以上ノ仕拂ヲ要スル事故アルトキハ其都度本店ノ認可ヲ得ヘキモノトス但非常ノ際ハ此限ニアラス

第九條　支店役員ノ進退黜陟轉任及傭員ノ任免幷役員ヲ他府縣ヘ旅行ヲ命スルキハ其理由ヲ具狀シ本店ノ指揮ヲ受クヘシ

第十條　支店役員ハ本店ニ於テ定メタル成規ニ從ヒ取引上證書手形ニ調印スルノ外尤諸契約書ニ副印スルハ此外タルヘシ諸契約ヲ爲シ又ハ契約書ニ調印スルノ權ナキモノトス

第十一條　支店長及以下役員ハ行員ノ資格ヲ以テ諸集會員又ハ議員トナルヲ許サス

第十二條　每半季本店ヨリ役員ヲ派遣シテ支店事務ノ實況ヲ檢查スルモノトス但本店ニ於テ要用ノ場合アルキハ半季定例檢查ノ外臨時ニ檢查スルコアルヘシ

第十三條　前條支店其際設置ノ場合ニ於テハ別ニ內規ヲ設ケ御許可ヲ受クヘシ

明治十九年二月本行事務順序ヲ改定シ尋テ同年三月事務ノ分業法ヲ定メ本行事務ヲ分ツテ總理、國庫、兌換銀行券發行、營業ノ四部トナシ夫々分掌ヲ定メ且之ト同時ニ計算事務ノ分業ヲ定メタルニ當リ大阪支店ノ事務モ總テ本店事務ニ基キ取扱フモノトシ計算上兌換券發行部ヲ區別セス金庫課ノ內ヘ兌換銀行券發行係ヲ置キ其事務ヲ整理セシムヘキモノトセリ尙大藏省ヘ進達スヘキ國庫金及營業事務ニ關スル報告表モ同時ニ之ヲ改正セリ

明治二十年四月本店ニ於テ國庫局ヲ文書局ノ次ニ列スルコトヽナレルニ依リ支店ニ於テモ同樣同月十四日ヨリ國庫課ヲ文書課ノ次ニ列スルコトニ改定セリ

明治二十三年一月二十日本行ノ組織ヲ改正シタルニ依リ支店ノ組織モ亦之ヲ變更セリ今特ニ支店ニ關スルノミヲ抄出スレハ左ノ如シ

支店長
筆頭書記
金庫係
一　支店全般現金出納ノ事
國庫係
一　大阪本支金庫ノ事務取扱ノ事
營業係
一　割引貸付ノ事
一　預金幷爲替事務ノ事
一　造幣成貨拂渡ノ事
一　諸手形取立ノ事
公債係
一　諸保護預リノ事
一　諸公債元利拂及記名書換ノ事
文書係
一　支店全般ノ文書取扱ノ事
一　支店諸經費支拂及營繕ノ事
一　銀券交換元ノ取扱ヲ爲ス事

計算係
一　支店全般ノ計算ヲ掌ル事

右各係ノ分掌ト共ニ支店長其他ノ權限等ニ就テ規定スル所アリ支店長ハ總裁ノ命ヲ奉シ其支店全般ノ事務ヲ總理シ支店事務上總裁ニ對シ一切ノ責任ヲ有スルモノトシ支店筆頭書記ハ必ス文書係長ヲ兼務シ支店長事故アルトキハ其代理ヲ爲スモノトセリ又支店事務上行外ニ對スル往復文書ハ總テ支店長ノ名ヲ以テシ筆頭書記又ハ係名若クハ係長ノ名ヲ用フルヲ許サストセリ

右組織改正ニ關シ同年二月四日ヲ以テ大阪支店長ヨリ伺書ヲ提出シテ總裁ノ指令ヲ仰キタルニ對シ同月十日指令シタル大要ヲ擧クレハ

一　割引手形取立ノ際ニ於ケル領收證書
二　諸手數料等領收證書
三　割引歩合領收證
四　貸附金利息領收證
五　國庫金送納ニ對スル手形金領收裏書
六　國庫送納金ニ對スル假請取證書
七　送金手形到着通知書
八　割引手形期日通知書

ハ從來主務課名ヲ以テ發シタル處今後ハ支店名印ヲ以テスヘク

ハ從來主務課長ノ名印ヲ以テ發シタル處今後ハ支店長名印ヲ以テスヘク

九　地金銀買入事務

ハ從來金庫課ノ取扱ニ屬シタル處自今營業係ニ屬セシムヘク

十　政府紙幣交換消却事務

十一　諸手形現金取立事務

ハ金庫係ニ屬セシムヘキモノトセリ

明治二十三年三月國庫局事務規程ヲ改正シ四月一日ヨリ實施スルコトヽナリタルニ付大阪支店ニ於テモ同店國庫係事務假規程及金庫係國庫金取取假順序ヲ定メ四月一日ヨリ施行シタキ旨上申シ來リタルニ依リ三月三十一日之ヲ承認セリ假規程ハ左ノ如ク假順序ハ事務ノ細目ヲ規定シタルモノナルニ依リ便宜國庫編ニ揭クルコトヽセリ

大阪支店國庫係事務假規程

第一條　大阪支店國庫係ヘ左ノ二科ヲ置キ大阪本金庫ニ係ル事務ヲ分掌セシム

整査方

計算方

第二條　整査方ニ於テ取扱ヘキ事務左ノ如シ

第一　金庫係及各廳派出取扱人（金庫係ヲ經テ）ヨリ毎日送付スル所ノ計表ニ對シ現金收支濟ノ諸證票ヲ突合セ受取ルヘシ

第二　前項ニ據リ受取リシ諸證票ヲ精査シ計算方ニ回付スヘキ記帳材料ヲ調製シ即時之ヲ計算方ニ回付スヘシ

第三　大阪本金庫所屬支金庫ヨリ毎日送付シ來ル諸報告ヲ精査シ記帳ノ爲メ即時之ヲ計算方ニ回付スヘシ

第四　大藏大臣ノ仕拂令達ヲ受ケ計算方ヲシテ記帳ナサシメ之ヲ保存スヘシ但支金庫ニ係ル分ハ記帳濟直ニ之ヲ當該支金庫ヘ送付スヘシ

第五　歲出仕拂案內命令及雜部案內引出切符ヲ受ケ一葉毎ニ調査ヲ爲シ記帳材料ヲ調製シテ後直ニ該命令及切符ハ之ヲ金庫係ニ記帳材料ハ之ヲ計算方ニ回付スヘシ

第六　大阪本金庫ノ直扱ニ係ル諸證票ハ一ケ月經過ノ後金庫出納事務規程第十條第十九條第廿七條ノ合計書ヲ調製シ計算方ニ回付シ帳簿ト對査ノ上共ニ保存スヘシ又大阪本金庫所屬支金庫ヨリ送付シ來ル諸證票及合計書ハ精査ヲ爲シ本金庫直扱ノ分ト同樣ノ取扱ヲ爲スヘシ」

第七　各廳主任官吏ヨリ監守證ノ送付ヲ受ケシトキハ監守證記入簿ヘ記帳ヲ爲シ直ニ金庫係ニ回付スヘシ又中央金庫ヨリ乙號振替證書ノ送付ヲ受クルトキハ之レカ調査ヲ爲シ直ニ之ヲ金庫係ニ回付スヘシ

第八　計算方ニ依テ調製セシ諸報告表ヲ受ケ諸證票及諸證據書類ニ據リ精査ヲ爲シ直ニ發送ノ取扱ヲ爲スヘシ

第九　本金庫ヘ領收濟ノ監守證書ニシテ一ケ月ヲ經過シ尙爲換拂ニ爲シ能ハサルモノハ金庫係ト協議シ現金引替ヲ爲スノ手續ヲ爲スヘシ

第十　各廳ヨリ海外送金ノ請求ヲ受ケ該爲替ヲ中央金庫ニ請求スルノ取扱ヲ爲スヘシ

第十一　大阪本金庫事務ニシテ支店外ニ對スル諸往復文案ノ起草ヲ爲スヘシ

第十二　中央金庫各地本金庫大阪本金庫所屬支金庫ヨリノ回金領收及大阪本金庫ノ現在金ヲ各地ヘ回送ナスヘキヲ金庫係ニ通知スヘシ又大阪本金庫直扱各廳派出支拂金ノ概算報告ヲ得テ同シク之レヲ金庫係ニ通知スヘシ

第三條　計算方ニ於テ取扱フヘキ事務左ノ如シ

第一　金庫出納事務規程第四十六條若クハ金庫出納役ヨリ通達ニヨリ大阪本金庫ニ設置シタル計算諸帳簿ヲ管理シ其整理ヲ爲スヘシ

第二　整査方ヨリ回付ニ係ル記帳材料ニ據リ諸帳簿ノ記入ヲナシ該材料ニ記入濟ヲ記ルシ之レヲ保存スヘシ但整査方ニ於テ追テ整理上必用アル書類ハ之レヲ同方ニ返付スヘシ

第三　金庫出納事務規程ニ據リ成規ノ期日ニ於テ成規ノ諸報告ヲ調製シ之ヲ整査方ニ回付スヘシ

第四　計算方ノ誤謬ニ係ル記帳上ノ更正認可ヲ得ルノ手續ヲ爲スヘシ

第五　國庫金出納ニ係ル日表ヲ調整シ國庫係首席書記ノ檢印ヲ捺シ毎日之レヲ支店長ニ報告スヘシ

岐阜縣下及和歌山縣下ノ國庫幷公債事務ハ從來三井銀行ニ委託シ來リシカ明治二十四年ニ至リ岐阜市(同市大字小熊下鐵屋町百九十二番戸)及和歌山市(同市本町二丁目十一番地)ニ本行出張所ヲ設置シ同年四月一日ヨリ國庫金ノ保管出納幷諸公債ノ事務ヲ取扱ヒ且爲換業務ヲ營ミタキ旨同年三月二日ヲ以テ大藏大臣ニ稟請シ尚明治二十二年勅令第百二十六號金庫規則中支店トアルハ總テ出張所ト通視シタキ旨追申シタルニ同月五日認可アリタルニ付直チニ出張所長ヲ任命シ且出張所長職務權限幷ニ出張所事務假規程ヲ編成シ三月十一日之ヲ兩出張所長ニ達セリ其全文左ノ如シ

職務

一　出張所長ハ出張所全般ノ事務ヲ綜理シ書記以下ヲ監督シ總裁ニ對シ一切其責ニ任スル事

一　出張所長ハ二十二年勅令第百二十六號金庫規則第八條ニ據リ金庫出納役代理人トシテ其事務ヲ取扱フ事

一　出張所長ハ諸公債事務ヲ取扱フ事

一　出張所長ハ十錢紙幣交換ニ係ル事務ヲ取扱フ事

一　出張所長ハ公衆ノ請求ニ應シ相當ノ手數料ヲ徵シ送金ノ事務ヲ取扱フ事

一　出張所長ハ金庫ニ封緘ヲ施シ其鎖鑰ヲ管守シ及本金庫印出張所印ヲ保管スル事

但金庫封緘ニハ金庫係首席ノ者ヲシテ加印ヲナサシムル事

一　出張所長ニ於テ諸手形證書類等ヘ記名捺印スルハ各其式ニ據ルト雖モ必ス出張所長ノ實印ヲ押捺スル事

權限

一　納稅ノ期ニ際スル歟或ハ公債元利拂ノ爲メ事務輻湊スルキハ出張所限リ臨時傭員ヲ使用スルヲ得ルモノトス

但臨時傭員ノ命免ハ其都度姓名給額ヲ詳悉シ總裁ニ具申スルモノトス

一　金庫事務ニ就キ金庫出納役ヨリ令達ノ範圍内ニ於テ出張所長ハ所屬支金庫ヘ其取扱方ヲ訓示スルヲ得ルモノトス其場合ニ於テハ出張所長即チ金庫出納役代理人ノ署名ヲ以テスルモノトス」

一　出張所書記手代ノ進退賞罰ハ出張所長ヨリ總裁ニ具狀シ臨時傭員ノ進退ハ出張所長之ヲ專行スルモノトス

但臨時傭員ノ給額ヲ增減セシキハ其都度總裁ニ具申スルモノトス

一　出張所書記以下ノ歸省願又ハ轉地療養除服等ハ出張所長之ヲ專行スルモノトス

一　出張所ノ營業時間ハ土地ノ狀況ニ從ヒ便宜ヲ旨トシ出張所長ニ於テ適宜伸縮スルヲ得ルモノトス

但金庫開閉時間ハ此限リニアラス

一　出張所ニ必要ナル土地家屋倉庫什器ノ購入又ハ不要トナリタル土地家屋倉庫什器ヲ賣却セントスルキハ總裁ニ其事由ヲ具狀シ許可ヲ乞フモノトス但家屋倉庫ノ修繕及什器ノ購入修繕等ニシテ其費用百圓未滿ノ分ハ出張所長ニ於テ之ヲ專行スルモノトス

一　出張所書記以下ヲ他ノ地方ヘ派遣セシムルキハ出張所長ヨリ總裁ニ具狀シ許可ヲ乞フモノトス

但所管ノ支金庫ヘ派遣セシムルキハ出張所長之ヲ專行スルモノトス

一　出張所ニ要スル經費ハ每月精算報告書ヲ製シ翌月十日迄ニ總裁ニ提出スルモノトス

一　出張所員ノ俸給及派出旅費賄料等日本銀行本店ノ規定ニ依リ支給スルモノトス

一　出張所長事故アリ執務爲シ難キキハ上席書記ニ命シ其出張所內部ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得ルモノトス但出張所長其在職地ヲ離レ出張所全般ノ事務ヲ代理セシムルトキハ其旨ヲ總裁ニ具狀シ代理者ノ姓名印鑑ヲ本店及取引先ヘ送致スルモノトス

一　出張所金庫護衞ノ爲メ巡査ノ配置ヲ必要ト認ムルキハ出張所長ハ其人員ヲ定メテ其筋ヘ要求スルコトヲ得ルモノトス

一　出張所ニテ使用スル諸帳簿ノ體式ハ總テ日本銀行本店ノ規定ニ依リ設置スルモノトス但シ取扱ヒ便宜ノ爲メ設置スル補助簿ハ本文ノ限リニアラス

日本銀行出張所事務假規程

第一條　日本銀行出張所ニ左ノ四係ヲ置キ其事務ヲ分掌ス

第一　金庫係
第二　國庫係
第三　營業係
第四　文書係

第二條　金庫係ハ現金ヲ保管シ其收入金ハ鑑定シテ之ヲ領收シ其支出金ハ證還書引換ニ之ヲ現金ヲ交付スルモノトス

出張所ニ於テ管守ニ係ル公債證書及諸證券ハ金庫係ニ於テ保管シ之レカ出入ヲナスモノトス」

國庫收入金トシテ領受セシ損傷紙幣及交換トシテ領受セシ十錢紙幣ハ金庫係ニ於テ成規ニ從ヒ印章ヲ打貫キ本店ヘ回送ノ順序ヲナスモノトス

出張所ヨリ他ヘ現金ヲ遞送セントスルキハ金庫係ニ於テ之ヲ處辨シ遞送ノ順序ヲ爲スモノトス

第三條　國庫係ハ金庫出納事務規程ニ據リ本支金庫ニ係ル事務ヲ處辨シ計算ヲ整理スルモノトス」

各廳ノ請求ニ據リ歲出金ヲ他ノ地方ヘ送付スルキハ成規ニ從ヒ振換拂證書ヲ調製シ之カ送付

ノ順序ヲナスモノトス

出納官吏身元保證公債證書ニ係ル事務及供託規則ニ據ヲ有價證券ニ係ル事務ヲ處辨スルモノトス

第四條　營業係ハ諸公債事務順序及雜則ニ依リ公債ノ書換等ニ係ル事務ヲ處辨スルモノトス

中央金庫ノ傳達ニヨリ國庫金ヲ他ヘ回送シ又ハ公衆ノ請求ニ據リ他ヘ爲換ヲナスヤハ送金手形ヲ調製シ送付ノ順序ヲナシ且送金手形ノ支拂ハ振出店ノ通知ニヨリ支拂ノ順序ヲナスモノトス」

營業部ニ關スル一切ノ計算ヲ整理シ每日收支日計表及每半季ノ報告書ヲ製シ本店ヘ送付スルモノトス

第五條　文書係ハ凡ソ出張所ヘ接受スル文書ヲ領收シ之ヲ主任ノ係ヘ配賦シ又出張所ヨリ發遣スル文書ニシテ所長檢印濟ノモノハ之ヲ淨書シ發遣ノ順序ヲナスモノトス

出張所ニ係ル經費ハ文書係ニ於テ管理シ其收支ヲ執行スルモノトス

各係ニ屬セサル事務ハ文書係ニ於テ處辨スルモノトス

尋テ兩所長協議ノ上假ニ事務細要ヲ定メ且創立ノ際ニ付事ノ一定シ得ヘキモノハ可成一樣ニ處理シタキ旨ヲ以テ申合書ヲ作リ三月十六日決裁ヲ經タリ其全文左ノ如シ

事務細要

金庫係

收支ノ事

一　徵稅令書納入告知書拂込書ヲ調査スル事

一　按內仕拂命令及案內引出切符ヲ保存シ仕拂命令及引出切符ト照査スル事

一　集合命令ニ對スル領收證書ヲ調製スル事

一　金額氏名表ヲ保存シ規定領收證書ト照査スル事

一　翌年度八月卅一日未渡ニ係ル案內仕拂命令未渡額ヲ大藏省ヘ報告ノ爲中央金庫報告ヲ調製スル事

一　雜部保管金證書ヲ調製スル事

一　納人直納金申込書ヲ調査シ直納金領收證書ヲ調製スルコ

一　返納告知書ヲ調査スル事

一　仕拂命令及引出切符亡失屆ヲ取扱ヒ之レカ領收證書ヲ調製スル事

一　損傷紙幣交換ノコヲ調理シ傳票ヲ調製スル事

一　天保通寶拾錢紙幣交換ノコヲ調理シ傳票ヲ調製スル事

一　預金拂込書ヲ調査シ預金通帳ヲ記入スル事

一　預金ヲ公債證書ニ交換ノ請求書ヲ調査スル事

現金ノ事

一　金庫開閉ニ從事スル事

一　現金手形類ヲ鑑定シ之ヲ保管スル事

一　公債證書及利札ヲ鑑定シ之ヲ保管スル事

一　現金手形類公債證書及貴重物品ヲ保管シ諸證憑書ヲ得テ之ヲ收支スル事
一　收支濟諸證憑書ヲ區別シ合計表ヲ貼付スル事
一　贋造貨紙幣ヲ處分スル事
一　現金證書類現送ノ節荷造ノ取扱ヲナス事
一　引揚濟紙幣ノ大藏卿印章又ハ數位ヲ打拔ク事
一　國庫金ト營業部トヲ區別シ現金受拂簿ヲ整理スル事
一　國庫金現金細種類別簿ヲ整理スル事
一　毎日國庫金ト營業部ト區別シタル現金殘高表ヲ調製スル事

國庫係

整理ノ事

一　金庫ニ關スル成規定例ヲ研究シ且必要ナル金庫出納役ノ通達ヲ所屬支金庫ニ傳達スル事
一　振換送金ニ係ル仕拂命令ヲ處理スル事
一　振換證書ヲ調製スル事
一　振換送金ニ係ル規定領收證書ヲ受授スル事
一　支金庫在金受授ノコヲ調理シ收支傳票ヲ調製スル事
一　監守證書ヲ保管シ之レカ振換取付ノ順序ヲナス事
一　陸軍臨時召集旅費送金ノコヲ調理スル事
一　仕拂命令及引出切符等ヲ保存スル事
一　派出收支取扱ニ係ル諸文書ヲ調理スル事
一　派出取扱ニ屬スル支拂基金受授傳票ヲ調製スル事
一　供託物寄託請求書ヲ調製スル事
一　供託物分割又ハ拂戻請求書ヲ調査シ傳票ヲ調製スルコ

報告ノ事

一　本金庫取扱ニ係ル諸計算報告ヲ精査シ記帳材料ヲ調製スル事
一　所屬支金庫ヨリ接受セシ諸計算報告ヲ精査シ記帳材料ヲ調製スル事
一　定規ニヨリ各廳又ハ中央金庫ヘ差出スヘキ計算報告ヲ調査シ之レカ順序ヲ履行スル事
一　配賦令達ヲ接受シ之レカ傳票ヲ調製スル事
一　定額戻入ニ係ル大藏大臣令達ヲ接受シ之レカ傳票ヲ調製スル事
一　大藏大臣ノ令達又ハ事故アルモノニ付現金收支ニ關スル訂正議案ヲ起草シ及之レカ傳票ヲ調製スル事

簿記ノ事

一　記帳材料ニヨリ日記簿原簿及補助簿ヲ整理スル事
一　定規ニヨリ各廳及中央金庫ヘ差出スヘキ諸計算報告ヲ調製スル事
一　會計檢查院ヘ差出スヘキ出納內譯書ヲ調製スル事

一　記帳材料ニヨリ預金部及預金拂戻部所屬帳簿ヲ整理スル事
一　記帳材料ニヨリ供託物所屬帳簿ヲ整理スル事
一　歳出金案内仕拂命令ヲ接受シ照査スル事
一　雜部金案内引出切符ヲ接受シ照査スル事
一　預金拂戻ノ請求書ヲ調査スル事
一　預金通帳ニ對シ利子算出ノ預金局通知書ヲ接受スル事

營業係

爲換ノ事

一　爲換取組ノ諾否ヲ處理スル事
一　爲換ノ爲受入金ノ帳簿ヲ整理スル事
一　本店及大阪支店ヨリ振込爲換金ノ支拂ヲ調理シ之レカ帳簿ヲ整理スル事
一　爲換受入金ヲ回送スル事
一　爲換金ニ對シ收入ノ傳票ヲ調製スル事
一　爲換手數料ヲ調理スル事
一　每日ノ收支日計表及每半季報告ヲ調理スル事

公債ノ事

一　各種公債記名證書記名簿ヲ整理スル事
一　債主印鑑簿ヲ整理スル事

一　記名公債證書ヲ無記名ニ變換シ及之レカ反對ニ係ル請求書ヲ取扱フ事
一　各種公債證書及利札紛失屆ヲ處理スル事
一　紛失屆アル公債證書及利札記號番號帳ヲ整理スル事
一　各種公債證書ニシテ汚染毀損ノ分幷ニ舊公債金祿公債證書ノ交換ヲ取扱フ事
一　各種公債利賦金仕拂方ノ事
一　各種公債利賦金仕拂基金計算報告ノ事
一　償還ニ係ル公債證書及償還金ノ取扱幷ニ之レカ計算ノ事
一　公債部一切ノ收支ニ對シ金庫勘定ノ爲總計傳票ヲ調製スル事

文書係

往復ノ事

一　諸文書接受發遣ヲ取扱ヒ件銘簿ヲ整理スル事
一　臨時ニ起ル事件ヲ處理シ及之レカ諸文書ヲ起草スル事
一　行外發遣ノ文書ヲ淨寫スル事
一　諸文書ヲ編纂スル事
一　本金庫及出張所印章ヲ保管スル事

雜務ノ事

一　家屋什器ヲ保管スル事
一　諸雜費ノ計算報告ヲナス事

一　倉庫家具ヲ修繕スル事
一　物品ヲ購買スル事
一　不用品ヲ賣却スル事
一　電信郵便切手ヲ保管スル事
一　諸雑費ヲ收支スル事

通則

一　總テ議案ハ分擔ノ首席員ニ於テ發スル事
一　他ニ發遣スヘキ文書計表類ハ校合又ハ精算ヲナシタルモノ欄外ニ調印ノ上所長ノ檢印ヲ受クル事
一　金錢收支ノ證憑トナルヘキ傳票振換證書領收證書爲換手形類ハ校合又ハ精算ヲナシタルモノ金員ニ調印シ所長ノ檢印ヲ受クル事
一　記簿材料ハ(年月日要簿記)ノ捺印ヲナシ主任調印シ所長ノ檢印ヲ得テ記帳ニ付スル事
一　凡接受セシ文書ニシテ三日以上ニ渉リ取調ヲ決了セサルモノハ所長ノ證認ヲ受クル事

申合書

一　家屋什器等現今所有者於テ差支ナキ限ハ其儘引繼ヲ受ケ地方相當ノ評價ヲ付シ目錄ヲ以上申シ其代價ハ本店於テ御取引被下度候
一　支金庫代理店ハ本店於テ契約可相成儀ニ候得共其代理人ノ能否ハ出張ノ上相試ミ何分ノ儀上申候儀モ可有之候

一　現今本金庫ニ詰合候者ハ不都合ノ聞アルカ用立サルモノヽ外ハ可成使用ノ方便宜ト存候ニ付人名俸給見込等申上候積ニ付出張所書記手代見習又ハ雇被命度候
一　前項行員被命候迄ハ當分雇ニ致シ三井銀行於テ身元及故意ノ危險ヲ擔保候樣本店於テ御契約相成度尤貨幣函ハ取扱人二人以上合封ノ上爲取締所長立會印可致積ニ御座候
一　出張所定員ハ實際經驗ノ上上申可致候得共先本金庫若干現員ヲ目途トス支金庫一ケ所二人ツヽ日々派出一ケ所二人ツヽトシ繰回シ使用ノ積ニ御座候
一　小使ハ是迄ノ例ニ隨ヒ使用シ適宜出張所限リノ雇トシ土地相應ノ給料ヲ支給ノ積リ
一　諸經費ハ費目ヲ概別セシ帳簿ヲ置キ計算ノ上日々報告可致積リニ御座候
　但本文帳簿報告御定ノ上御渡相成度候
一　本金庫警備ヲ必要トスルトキハ晝夜二人ツヽ巡査定詰ノ儀地方廳ニ出願シ相當ノ費用ヲ辨候積
一　出火出水等非常ノ場合ニ充テ豫メ相當ノ駈付人足ヲ約束致置六月十二月ニ於テ土他相當ノ手當ヲ給シ置可申候
一　出張所ニ出勤簿ヲ備ヘ出勤ノ時ニ捺印シ且遲刻所勞忌引祭日休暇等ヲ區別シ毎半季勤惰表ヲ製シ上申可致積リ
一　毎日止宿ハ書記手代雇ノ内一人及小使一人トス
一　止宿員心得方ハ本店心得書ニ準シ出張所限リ相設ケ但賄料ノ外別ニ手當ヲ給スルコトナシ
一　所長自カラ支金庫ヲ巡回致候節ハ其時々上申可取斗積

一　支金庫ハ隔月一回ツヽ巡回スルヲ以定度ト致置臨機伸縮可致積リニ御座候

一　金庫事務ニ付テハ出納役ニ宛候ハ勿論ナリト雖モ營業上等ニ付テハ事ノ重要ナルハ直ニ總裁ニ具申シ他ハ主任ノ局長ニ宛文書ヲ發行可致候

一　金庫係ニハ成規ノ外國庫金ニ屬スル受拂簿細種類別簿營業ニ屬スル受拂簿ヲ置キ整理可致心得ニ御座候

一　損傷兌換券ノ交換ヲ請フ者アル時ハ成規ニ隨ヒ便宜有合ヲ以交換ヲ爲シ本店亦ハ大阪支店へ遞送金ノ内へ込メ差送候

一　送金手形用紙ハ本店仕用ノ分ニ準シ新規調製可致候

一　前項營業爲替ノ爲受入及本店及大阪支店ヨリ爲換振込ニ係ル勘定ハ計算局打合適宜ノ帳簿ヲ置整理シ雜勘定ヲ以テ同局ニ報告取計可申尤其體裁ハ同局ノ撰ム所ニ隨ヒ可申候

一　三等郵便局經費遞送方ハ是迄本金庫代理店於テ直ニ内國通運會社ト契約有之右者追テ何分ノ見込可申上候得共此際ノ處引續所長ノ名ヲ以契約可致ト存候

一　出張所開店日限ハ左ノ明文ヲ以地方ノ新聞紙ニ相掲候積

來四月一日ヨリ何地何町何番地ニ於テ國庫金諸公債及送金ノ事務ヲ取扱致候

右廣告ス

日本銀行何地出張所

尋テ同年三月十九日出張所職員幷ニ事務分掌ヲ左ノ通定メ尚内規等ハ追テ取調上申スヘキ旨大藏大臣ニ届出タリ

日本銀行出張所職員幷事務分掌

職員

一　出張所長　一　人

一　書記　若干名

一　手代　若干名

事務分掌

一　金庫係

一　國庫係

一　營業係

一　文書係

兩出張所創立ノ當時別ニ運用資本金ヲ定メサリシニ依リ爲替基金ニ充用スル爲メ金若干、經費ニ充用スル爲メ金千圓ヲ國庫金ノ内ヨリ振替兩出張所ヘ交付セシカ（營業續爲替ノ部參照）明治二十四年五月六日以後兩出張所ニ於テ貸付擔保品付手形割引ノ取次及銀行手形買入ノ道ヲ開クコトヽナリタルヲ以テ兩出張所ニ各極度金七萬圓ノ營業基金ヲ置キ國庫金配賦金ハ先ツ送金手形ヲ以テ東京大阪ニ送納シ其現金ハ營業基金ニ振替ヘ營業基金ハ專ラ送金手形爲替手形ニ使用シ傍ラ東京大阪本支店ノ貸付金取次ノ用ニ供スルコトヽセリ

明治二十四年十月二十八日ヨリ數日ニ亘ル岐阜地方大地震ノ際本行岐阜出張所ハ一時震火災ノ憂ナキ御料局出張所内ニ避難シ鎭火後ハ出張所内ニ小屋掛ヲナシテ所員詰合警衛シ二十八日ヨリ引

續キ數日間臨時休業ヲナシタリシモ仕拂金ハ請求次第仕拂タリ該出張所附近ハ比較的損害少キ方ナリシモ金庫ニ用ヒ居タル土藏ハ大破損ヲナシ店向モ亦多少ノ破損ヲナシタリ又出張所々轄ノ笠松支金庫ハ燒失シタルカ其他ノ各金庫ハ總テ事ナキヲ得タリ

越エテ明治二十五年岐阜出張所ハ都合ニ依リ三月三十一日限リ廢止シ其旨大藏大臣ニ屆出タリ

同年四月一日以降和歌山出張所ヨリ岩出橋本兩支金庫並派出所ヘ行員ヲ派出セシムルコトニ內定シタルニ付同出張所長ニ於テ派出員ノ職務權限ヲ定メ同年三月十二日ヲ以テ總裁ニ上申セリ其全文左ノ如シ

派出員職務權限ヲ定ムル左ノ如シ

職務

一　派出員首席者ハ出張所長ノ指揮監督ヲ受ケ派出一切ノ事務ニ從事シ出張所長ニ對シ一切ノ責ニ任ス

一　派出員首席者ハ廿二年勅令第百二十六號金庫規則第八條ニ據リ金庫出納役代理人トシテ其事務ヲ取扱フヘシ

一　派出員首席者ハ諸公債ノ事務ヲ取扱フヘシ

一　派出員首席者ハ金庫ニ封緘ヲ爲シ其鎖鑰ヲ管守ス但金庫封緘ハ次席者ヲシテ加印セシムヘシ

一　派出員首席者ハ支金庫印ヲ保管ス

一　派出員首席者ノ文書等ニ記名スルハ各其式ニ據リ必ス實印ヲ押捺スヘシ

權限

一　金庫事務ニ就キ金庫出納役ヨリ令達ノ範圍內ニ於テ諸官衙等ニ往復スル文書ハ金庫出納役代理人ノ署名ヲ以テス

一　諸公債事務等ニ就キ出張所又ハ債主等ニ往復スル文書ハ日本銀行和歌山出張所何地派出何某ノ署名ヲ以テス

一　派出員歸省及轉地療養願及忌服屆等ハ出張所長ニ宛差出スヘシ但忌服屆ニ限リ派出員首席者ハ假ニ除服ヲ執行スルヲ得

一　派出員ハ出勤簿ヲ備ヘ日々捺印シ每月末勤惰表ヲ作リ出張所長ニ差出スヘシ

一　派出先ニ於テ必要ナル什器ノ購入又ハ不用ニ屬スル什器ヲ賣却セントスルトキハ出張所長ニ申出許可ヲ乞フモノトス

一　派出員於テ出張所又ハ他ノ地方ヘ出張セントスルトキハ豫メ首席者ヨリ出張所長ニ申出認可ヲ受クヘシ

一　派出先ニ要スル經費ハ每月末買上人ノ請求書ヲ徵シ出張所ニ請求シ仕拂濟領收證書ヲ添ヘ精算報告書ヲ製シ翌月五日マテニ出張所ニ差出スヘシ

一　派出員首席者事故アリ執務シ難キトキハ次席者ヲシテ派出先內部ノ事務ヲ代理セシムルヲ得但事故アリ全部ノ事務ヲ代理セシムルトキハ氏名印鑑ヲ關係官衙ニ通知シ直ニ其旨ヲ出張所長ニ屆出ヘシ

一　派出先金庫ハ常ニ最寄警察分署長ニ協議シ警戒ヲ加ヘ萬一非常ノ事變アルトキハ臨機ノ處

分ヲ爲シ直ニ出張所長ニ申出スヘシ

一　派出先ニ於テ使用スル帳簿ノ體裁ハ總テ定規ニ隨ヒ一時ノ補助簿ハ便宜設置スルヲ得

明治二十六年二月本行出張所長職務權限及事務假規程ヲ改正シ同月十五日ヲ以テ其旨ヲ和歌山出張所長ニ達シ尚右改正ニ就テハ其出張所臨時傭員ハ渾テ月給ヲ廢シ日給トスヘキ筈ノ處從來傭入ノ者ニ限リ例外トシテ月給ニ据置新規傭入ノ際ハ必ス日給トナスヘキ旨ヲ達セリ出張所長職務權限及事務規程左ノ如シ

出張所長職務權限ヲ定ムル左ノ如シ

職務

一　出張所長ハ出張所全般ノ事務ヲ綜理シ書記以下ヲ監督シ總裁ニ對シ一切其責ニ任スル事

一　出張所長ハ二十二年勅令第百二十六號金庫規則第八條ニ據リ金庫出納役代理人トシテ其事務ヲ取扱フ事

一　出張所長ハ諸公債事務ヲ取扱フ事

一　出張所長ハ損傷兌換銀券交換ニ係ル事務ヲ取扱フ事

一　出張所長ハ公衆ノ請求ニ應シ相當ノ手數料ヲ徵シ送金ノ事務ヲ取扱フ事

一　出張所長ハ金庫ニ封緘ヲ施シ其鎖鑰ヲ管守シ及本金庫印出張所印ヲ保管スル事

但金庫封緘ニハ金庫係首席ノ者ヲシテ加印ヲナサシムル事

一　出張所長ハ諸手形證書類等ヘ記名捺印スルハ各其式ニ據ルト雖モ必ス出張所長ノ實印ヲ押捺スル事

權限

一　納稅ノ期ニ際スルカ或ハ公債元利拂ノ爲メ事務輻湊スルキハ出張所限リ臨時日給五十錢以下ノ傭員ヲ使用スルヲ得ルモノトス

但臨時傭員ノ命免ハ其都度姓名給額ヲ詳悉シ總裁ニ具申スルモノトス

一　金庫事務ニ就キ金庫出納役ヨリ令達ノ範圍内ニ於テ出張所長ハ所屬支金庫ヘ其取扱方ヲ訓示スルヲ得ルモノトス其場合ニ於テハ出張所長即チ金庫出納役代理人ノ署名ヲ以テスルモノトス

一　出張所書記手代ノ進退賞罰ハ出張所長ヨリ總裁ニ具狀シ臨時傭員ノ進退ハ出張所長之ヲ專行スルモノトス

但臨時傭員ノ給額ヲ增減セシキハ其都度總裁ニ具申スルモノトス

一　出張所書記以下ノ歸省願又ハ轉地療養除服等ハ出張所長之ヲ專行スルモノトス

一　出張所ノ營業時間ハ土地ノ狀況ニ從ヒ便宜ヲ旨トシ出張所長ハ豫メ總裁ニ具申シテ之ヲ伸縮スルヲ得ルモノトス

但金庫開閉時間ハ此限リニアラス

一　出張所ニ必要ナル土地家屋倉庫什器ノ購入又ハ不要トナリタル土地家屋倉庫什器ヲ賣却セントスルキハ總裁ニ其事由ヲ具狀シ許可ヲ乞フモノトス

但家屋倉庫ノ修繕及什器ノ購入修繕等ニシテ其費用百圓未滿ノ分ハ出張所長ニ於テ之ヲ決行シ事後總裁ノ承認ヲ受クルモノトス

一　出張所書記以下ヲ他ノ地方ヘ派遣セシムルトキハ出張所長之ヲ專行スルモノトス

但所管ノ支金庫ヘ派遣セシムルトキハ出張所長ヨリ總裁ニ具狀シ許可ヲ乞フモノトス

一　出張所ニ要スル經費ハ毎月精算報告書ヲ製シ翌月十日迄ニ總裁ニ提出スルモノトス

一　出張所員ノ俸給及派出旅費賄料等日本銀行本店ノ規定ニ依リ支給スルモノトス

一　出張所長事故アリ執務爲シ難キトキハ上席書記ニ命シ其出張所內部ノ事務ヲ代理セシムルヿヲ得ルモノトス

但出張所長其在職地ヲ離レ出張所全般ノ事務ヲ代理セシムルトキハ其旨ヲ總裁ニ具狀シ代理者ノ姓名印鑑ヲ本店及取引先ヘ送致スルモノトス

一　出張所金庫護衞ノ爲メ巡査ノ配置ヲ必要ト認ムル時ハ出張所長ハ其人員ヲ定メテ其筋ヘ要求スルヿヲ得ルモノトス

一　出張所ニテ使用スル諸帳簿ノ體式ハ總テ日本銀行本店ノ規定ニ依リ設置スルモノトス

但取扱便宜ノ爲メ設置スル補助簿ハ本文ノ限ニアラス

日本銀行出張所事務假規程

第一條　日本銀行出張所ニ左ノ四係ヲ置キ其事務ヲ分掌ス

第一　金庫係

第二　國庫係

第三　營業係

第四　文書係

第二條　各係ニハ係長又ハ主任ヲ置カス所長ニ於テ之ヲ直轄スルモノトス

第三條　金庫係ハ現金ヲ保管シ其收入金ハ鑑定シテ之レヲ領收シ其支出金ハ證憑書引換ニ之レカ現金ヲ交付スルモノトス

出張所ニ於テ管守ニ係ル公債證書及諸證券ハ金庫係ニ於テ保管シ之レカ出入ヲナスモノトス」

國庫收入金トシテ領受セシ兌換銀券ハ金庫係ニ於テ成規ニ從ヒ印章打貫キ及其他ノ手續ヲ爲シ本店ヘ回送ノ順序ヲナスモノトス

出張所ヨリ他ヘ現金ヲ遞送セントスルトキハ金庫係ニ於テ之ヲ處辨シ遞送ノ順序ヲ爲スモノトス

第四條　國庫係ハ金庫出納事務規程ニ據リ本支金庫ニ係ル事務ヲ處辨シ計算ヲ整理スルモノトス各廳ノ請求ニ據リ歲出金ヲ他ノ地方ヘ送付スルトキハ成規ニ從ヒ振換拂證書ヲ調製シ之カ送付ノ順序ヲナスモノトス

出納官吏身元保證公債證書ニ係ル事務及供託規則ニ據リ有價證券ニ係ル事務ヲ處辨スルモノトス

第五條　營業係ハ債務規程ニ依リ公債ノ募集及公債元利拂ニ係ル事務及記名公債ノ書換等ニ係ル事務ヲ處辨スルモノトス

中央金庫ノ傳達ニ依リ國庫金ヲ他ヘ回送シ又ハ公衆ノ請求ニ據リ他ヘ爲換ヲ爲ストキハ送金手形ヲ調製シ送付ノ順序ヲ爲シ且送金手形ノ支拂ハ振出店ノ通知ニヨリ支拂ノ順序ヲナスモノ

トス

營業部ニ關スル一切ノ計算ヲ整理シ毎日收支日計表及毎半季ノ報告書ヲ製シ本店ヘ送付スルモノトス

第六條　文書係ハ凡テ出張所ヘ接受スル文書ヲ受領シ之ヲ主任ノ係ヘ配付シ又出張所ヨリ發遣スル文書ニシテ所長檢印濟ノモノハ之ヲ淨書シ發遣ノ順序ヲナスモノトス

出張所ニ係ル經費ハ文書係ニ於テ管理シ其收支ヲ執行スルモノトス

從來北海道ニ於ケル國庫金ノ保管出納及諸公債ノ事務ハ三井銀行ニ委託シタリシカ明治二十六年四月一日ヨリ本行ニテ直扱ノコトニ決シ幷ニ爲換ノ業務ヲ營ム爲メ札幌札幌區南一條西一丁目一番地(函館(函館區末廣町一番地)根室根室郡根室本町三丁目七番地)ノ三ケ所ニ出張所設置ノ義同年二月四日ヲ以テ大藏大臣ニ稟請シ同六日ヲ以テ許可セラレタリ

右三出張所設置ニ就テハ既定ノ出張所長職務權限幷ニ事務假規程ヲ其儘適用スル外別ニ在北海道出張所ニ於ケル特別規定ヲ作リ同年二月十五日ヲ以テ各出張所長又ハ同心得ニ達シ且特ニ札幌出張所長ニ達スルニ三井銀行ヨリノ引繼方ヲ以テセリ特別規定及札幌出張所長ヘノ令達左ノ如シ

札幌函館根室出張所特別規定

一　札幌本行出張所ニハ所長一人ヲ置キ函館根室ノ兩出張所ニハ各々所長心得ヲ置ク事

二　札幌出張所長ニハ特ニ函館根室ノ兩出張所ヲ監督セシムル事

三　函館根室兩出張所長心得ハ左ノ事項ニ限リ特ニ札幌出張所長ノ同意ヲ得テ總裁ニ具申シ其他ハ既定ノ職務權限ニ據ルヘキ事

一　納稅ノ期ニ際スルカ又ハ公債元利拂ノ爲メ事務輻湊スルヤ出張所限リ臨時傭員ヲ使用シ及之ヲ解傭スル事

一　出張所書記手代ノ進退賞罰及臨時傭員ノ進退

一　出張所ニ必要ナル土地家屋倉庫什器等ノ購入又ハ其不要トナリタルヤ之カ賣却

一　出張所書記以下ヲ他ノ地方ヘ派遣スル事

一　出張所長心得病氣其他ノ事故ニ因リ其在勤地ヲ離レ上席書記ヲシテ事務ヲ代理セシムル事

四　札幌函館根室ノ各本金庫出納役代理人ハ該當出張所長若クハ出張所長心得ヲ以テ之ニ充テ各支金庫ハ其所轄出張所ヨリ派出トシ其取扱主任ヲ以テ支金庫出納役代理人ト爲ス事

五　札幌出張所長ハ須要ト認ムル場合ニ於テハ總裁ノ許可ヲ經スシテ北海道全般ノ本支金庫ヲ巡回檢査スルヲ得ル事

但巡回檢査ヲ須要トスル理由及其結果ハ之ヲ後ヨリ總裁ニ具申スヘシ

札幌本行出張所長ヘノ令達

一　札幌函館根室ノ三出張所ハ此際三井銀行ヨリ讓受クヘキ家屋ヲ充用スヘシ

一　支金庫ニ充ツヘキ家屋ハ便宜其土地ニ於テ借入ルヘシ但成ルヘクハ從來三井銀行ニ於テ使用セシモノヲ襲用スヘシ

一　出張所員及支金庫員ハ特ニ本店ヨリ派遣スル者ノ外ハ差向キ三井銀行員ヲ臨時傭入ルヘシ

一　紗那網走宗谷ハ勿論其他支金庫所在地ニ於テハ詳ニ土地ノ情況ヲ視察シ其地ニ於テ金庫ノ

事務ヲ取扱ハスニ適當ト確認スルモノアルトキハ其事實ヲ總裁ニ具申スヘシ

一　前數項ノ條件ハ函館根室兩出張所長心得ニ打合セノ上執行スヘシ

尚同日ヲ以テ右三出張所職員幷ニ事務分掌等ハ去ル明治二十四年三月十七日付岐阜、和歌山兩出張所創設ノ際届出ノ通ナル旨大藏大臣ヘ届出タリ

又右三出張所ノ設立ト同時ニ該出張所々轄派出所十六箇所ヲ設ケ尚其後四派出所ヲ設ケタルカ此等ノ廢置及所轄等ニ關シテハ左表ニ就テ之ヲ觀ルヘシ

派出所名	管轄店名並	期間	開設年月日	廢止年月日	備考
市來知	札幌出張所々轄	自二十六年四月一日至二十八年七月三十一日	二十六年四月一日	二十九年五月三十一日	
小樽	同	同	同	同	
釧路	根室出張所々轄	自二十六年四月一日至二十八年七月九日	同	同	
網走	同	同	同	同	
紗那	同	同	同	同	
熊牛	同	同	同	同	
七飯	函館出張所々轄	同	同	同	
壽都	同	同	同	同	
福山	同	同	同	同	
江差	同	同	同	同	
根室	北海道支店所轄	自二十八年七月十日至三十一年十二月三十一日	二十八年七月十日	三十一年十二月三十一日	根室出張所廢止ニ付設置
帶廣	同	自三十年十月一日至三十四年三月三十一日	三十年十月一日	三十四年三月三十一日	
室蘭	同	自二十八年八月一日至三十一年五月三十一日	同	三十一年五月三十一日	
小樽	同	自二十八年八月一日至三十一年十月三十一日	同	同	出張所ト改稱
釧路	根室出張所々轄	自二十八年七月十日至三十一年十二月三十一日	同	同	
網走	同	同	同	同	
紗那	同	自二十八年七月十日至三十二年七月三十一日	同	三十二年七月三十一日	
熊牛	同	自二十八年七月十日至二十九年五月三十一日	同	二十九年五月三十一日	
七飯	函館出張所々轄	同	同	同	
壽都	同	自二十八年七月十日至三十三年九月三十日	同	三十三年九月三十日	
福山	同	自二十八年七月十日至三十一年十二月三十一日	同	三十一年十二月三十一日	
江差	同	自二十八年七月十日至三十年三月三十一日	同	三十年三月三十一日	
根室	北海道支店所轄	自二十八年七月十日至三十一年十二月三十一日	二十八年七月十日	三十一年十二月三十一日	根室出張所廢止ニ付設置
帶廣	同	自三十年十月一日至三十四年三月三十一日	三十年十月一日	三十四年三月三十一日	
室蘭	同	自二十八年八月一日至三十一年五月三十一日	同	三十一年五月三十一日	
小樽	同	自二十八年八月一日至三十一年十月三十一日	同	同	出張所ト改稱
釧路	根室出張所々轄	自二十六年四月一日至二十八年七月九日	同	同	
網走	同	同	同	同	
紗那	同	同	同	同	
熊牛	同	同	同	同	
七飯	函館出張所々轄	同	同	同	
壽都	同	同	同	同	
福山	同	同	同	同	
江差	同	同	同	同	
根室	北海道支店所轄	自二十八年七月十日至三十一年十二月三十一日	二十八年七月十日	三十一年十二月三十一日	根室出張所廢止ニ付設置
帶廣	同	自三十年十月一日至三十四年三月三十一日	三十年十月一日	三十四年三月三十一日	
市來知	札幌出張所々轄	自二十六年四月一日至二十八年七月三十一日	二十六年四月一日	二十九年五月三十一日	
小樽	同	同	同	同	
釧路	根室出張所々轄	自二十六年四月一日至二十八年七月九日	同	同	
網走	同	同	同	同	
紗那	同	同	同	同	
熊牛	同	同	同	同	
七飯	函館出張所々轄	同	同	同	
壽都	同	同	同	同	
福山	同	同	同	同	
江差	同	同	同	同	
根室	北海道支店所轄	自二十八年七月十日至三十一年十二月三十一日	二十八年七月十日	三十一年十二月三十一日	根室出張所廢止ニ付設置
帶廣	同	自三十年十月一日至三十四年三月三十一日	三十年十月一日	三十四年三月三十一日	
室蘭	同	自二十八年八月一日至三十一年五月三十一日	同	三十一年五月三十一日	
小樽	同	自二十八年八月一日至三十一年十月三十一日	同	同	出張所ト改稱
釧路	根室出張所々轄	自二十八年七月十日至三十一年十二月三十一日	同	同	
網走	同	同	同	同	
紗那	同	自二十八年七月十日至三十二年七月三十一日	同	三十二年七月三十一日	
熊牛	同	自二十八年七月十日至二十九年五月三十一日	同	二十九年五月三十一日	
七飯	函館出張所々轄	同	同	同	
壽都	同	自二十八年七月十日至三十三年九月三十日	同	三十三年九月三十日	
福山	同	自二十八年七月十日至三十一年十二月三十一日	同	三十一年十二月三十一日	
江差	同	自二十八年七月十日至三十年三月三十一日	同	三十年三月三十一日	
根室	北海道支店所轄	自二十八年七月十日至三十一年十二月三十一日	二十八年七月十日	三十一年十二月三十一日	根室出張所廢止ニ付設置
帶廣	同	自三十年十月一日至三十四年三月三十一日	三十年十月一日	三十四年三月三十一日	

派出所名	管轄店名並管轄区域	開設年月日	廃止年月日	備考
旭川	北海道支店所轄 自三十年十月一日至三十一年十二月三十一日	三十年十月一日	三十一年一月一日	
岩見澤	同 自三十一年一月一日至同十二月三十一日			
	札幌出張所々轄 自三十二年一月一日至三十九年五月十一日	三十九年五月十一日	同五月八日	
	同 自三十二年一月一日至三十九年五月八日			

明治二十六年四月六日札幌出張所派出員職務權限ヲ和歌山出張所ノ規定ト大同小異ナルヲ以テ玆ニ之ヲ省ク又函館出張所ニ於テモ同年四月十六日ヲ以テ派出員職務權限及派出員心得ヲ定メ同日ヨリ實施ノ旨同出張所長ヨリ上申シタルカ職務權限ハ札幌出張所分ニ等シキヲ以テ之ヲ省ク其派出員心得ハ左ノ如シ

派出員心得

一　筆墨紙其他小買物ハ可成當出張所ニ於テ買入可相廻事

一　郵便切手ノ類モ當出張所ヨリ可相廻ニ付郵便切手ハ受拂帳ヲ設ケ發遣先事由等詳細記載シ置クヘキ事

一　經費ハ受拂帳ヲ設クヘキ事

一　勘定帳書式ハ追テ指示スル式ニ據ルヘキ事

一　必要ノ物品ハ三井銀行ヨリ讓受クヘキニ付其儘使用スヘキ事

一　休暇日等ニ際シ私用ノ爲メ任地ヲ離レ外泊セントスルトキハ豫メ出張所長ニ申出認可ヲ受クヘキ事

一　事務多忙ニシテ定時間ニ其事結了セス早出居殘ヲ爲スヘキ時ハ午前七時迄ニ出頭シ午後六時後四月ヨリ九月迄ハ午前六時前出頭シ午後七時後ニ至ルモ退出セサルモノニハ三回ノ賄料ヲ給ス

一　通常事務ト雖モ十月ヨリ三月迄ハ午後六時、四月ヨリ九月迄ハ午後七時ヲ過キ尚完結セサルヘキハ夕ノ賄一回分給ス

但賄料ハ一回金六錢トス

尋テ同四月二十日函館出張所長心得ヨリ第七項以下ヲ刪除スル旨申出テタリ

北海道三出張所事務假規程第五條ノ旨趣ニ依レハ各出張所共同樣ニ取扱フヘキモノナレトモ函館ヲ除クノ外ハ實際債主モ少ナク且從來三井銀行ニ於ケル取扱振ヲ見ルモ其總括整理方ハ函館ニ於テ之ヲ爲シタルコトナレハ多少權衡ヲ失スル嫌アルモ從來ノ如ク依然函館出張所ニ於テ總括整理スルヲ便トシ明治二十六年四月六日ヲ以テ其旨三出張所ニ達セリ

尋テ同年八月二十六日在北海道出張所特別規定中左ノ一項ヲ追加スル旨ヲ達セリ

一　紗那支金庫出張員ニ限リ出張中特別ヲ以テ一ケ月金十圓宛其等級ヲ問ハス補助トシテ給與スル事

同年九月一日ヨリ施行ノ本行改正組織ノ內特ニ支店出張所ニ關スルモノヲ擧クレハ從來支店ニハ事務分掌ノ爲メ係ヲ置タルヲ廢シ今後ハ適宜課ヲ置キ(事實ニ於テハ遂ニ課ヲ置カス從前通リ係ヲ置キ專務ヲ設ケタリ)支店ノ事務ハ各局ト同シク主任理事ヲ定メテ之ヲ監督セシメ事務ノ處辨方ニ

關シテ之カ證認ヲナサシムルモノトシ又支店ニテ出張所ニハ出張所長ヲ置キ副支配役又ハ書記ヲ以テ之ニ充ノ責ニ任セシメ又支店ノ課ニハ課長ヲ置キ課務ノ整理ニ關シ支店長ニ對シ一切ノ責ニ任セシムルコトヽセリ

既記ノ如ク本行ハ初メ大阪ニ支店ヲ置キ其後明治十九年六月ニ至リ全國樞要ノ地ニ支店ヲ設ケタキ希望ヲ以テ大藏大臣ニ請願シ其際直ニ許可ヲ得テ支店成規ヲ作成シタルモ岐阜、和歌山及北海道各地ニ出張所ヲ設置シタルノミニテ未タ支店ヲ設置スルノ運ニ至ラサリシカ明治二十六年本行組織ヲ改正シ大ニ力ヲ商工業ノ發達ニ用ヒントスルニ際シ第一着手トシテ山口縣下赤間關ニ支店ヲ開設シ追テ福岡縣下門司港ニ移店シ以テ本邦西部地方ノ金融ニ資センコトヲ謀レリ是ニ於テ同年八月二十一日ヲ以テ左ノ請願書ヲ大藏大臣ニ提出シタルニ同二十五日許可セラレ同時ニ設立ノ日限幷番地ヲ届出テ尚設立ノ上ハ毎月報告表毎日報告表幷ニ支店印鑑役員姓名印鑑ヲ差出スヘキ旨指令セラレタルニ依リ同年九月十五日ヲ以テ來十月一日ヨリ山口縣下赤間關市大字西南部町三十七番屋敷ニ設立スヘキ旨ヲ届出幷ニ支店印鑑及役員姓名印鑑ヲ差出シタリ大藏大臣ヘ提出シタル請願書左ノ如シ

今般大阪以西金融ノ便ヲ謀リ本行支店ヲ同地方ニ開設致度右設置場所之義ハ福岡縣下門司港ヲ以テ適當ト認メ候義ニ有之同港ハ九州ノ咽喉ヲ扼シ且九州鐵道ノ開通漸次百貨ノ輻湊ヲ促シ後來商業上樞要之地ト相成可申存候然ルニ目下ノ有様ハ僅ニ鐵道ノ開通セシノミニテ市街ノ形狀未タ全ク備ハラス隨テ相當ノ家屋モ無之ニ付當分ノ内該支店ヲ山口縣下赤間關ニ設置シ追テ門司ニ家屋新築之上移轉可致積ニ御座候勿論赤間關ト門司トハ單ニ一帶水ヲ隔ツルノミニテ往復自在殆ント同一市街ノ姿ニ有之業務上ニ於テ聊差支之廉等無之見込ニ御座候條右設置之義御許可被成下度條例第二條及定款第二條ニ據リ此段請願候也

追テ本文支店名稱之義ハ「日本銀行西部支店」ト相唱可申積ニ有之候此段添申候也

是ニ於テ十月一日來寅六十名ヲ招請シテ開業式ヲ行ヒ與倉理事總裁代理トシテ參列シ西部支店設立趣意書ヲ朗讀シ次ニ西部銀行總代祝辭ヲ朗讀シ以テ式ヲ終ヘタリ今同支店設立ノ趣旨ヲ明カニスル爲メ與倉理事ノ朗讀シタル趣意書ノ全文ヲ掲クレハ左ノ如シ

我日本銀行ハ本日即チ明治二十有六年十月一日ヲ以テ玆ニ日本銀行西部支店開業ノ式ヲ擧ケンコトス抑モ本行ハ夙ニ政府ノ命令ヲ遵奉シテ繁劇ノ用務ヲ辨シ財政整理ノ樞要ニ當ルト共ニ全國金融ノ疏通ヲ圖リテ民業ノ爲メニ其利便ヲ計畫スヘキノ責任ヲ荷ヘルヲ以テ余輩乏キヲ本行重要ノ職ニ受ケシヨリ金融ヲ疏通シ實業ヲ發達セシムルノ一事ハ一日モ之ヲ腦裏ニ忘ルヽ能ハス機ニ臨ミ時ニ從フテ其策ヲ施サヽルヘカラサル所アリ時機ノ未タ熟セサル所アリテ今日迄未タ大ニ力ヲ此ニ用ル能ハス支店ノ如キモ單ニ大阪ニ設立セルノミナリシト雖モ今回朝カ行内ノ組織ヲ改正シ行務モ頗ル整頓シタレハ漸ヲ以テ邦内要地ニ支店ヲ設立シ實業社會ニ向テ更ニ一層ノ便益ヲ與ヘントスルニ際シ第一着手トシテ此ニ西部支店ヲ設立シ大阪以西九州地方ノ金融疏通ヲ謀ラントス但シ此西部支店ハ元來之ヲ門司港ニ置クノ宿企ニシテ此地ハ唯一時ノ假設タルニ過キサレハ他日家屋ノ建築等其他ノ準備完成スルヲ待チテ之ヲ門司港ニ移スヘシト雖モ諸君ノ目擊セラルヽ如ク同港ト馬關トハ唯僅ニ一衣帶水ヲ隔ルノミナル

カ故ニ文化大ニ開ケ交通甚タ便ナルノ今日ニ在テハ支店位地ノ小轉換敢テ營業上ニ不便ヲ感スルコト無カルヘキニ由リ他日支店ノ門司港ニ移轉スルノ日モ我支店ノ營業上ヨリ馬關實業社會ノ蒙被スヘキ利便ハ決シテ馬關假設ノ日ニ減セサルヘキヲ信ス而シテ本行ハ今後事情ノ許ス限リ實力ノ及フ限リハ一般實業家諸君ノ爲メニ誓テ輔助應援ノ勞ヲ取ルヲ怠ラサルヘシ是レ蓋シ諸君ノ爲メニ一家ノ私益ヲ計ルニ非ス畢竟實業ヲ振作シテ國家ヲ豐富ノ美域ニ進マシムルノ策亦此ニ外ナラスト信スレハナリ今日西部支店ノ開業ニ際シ本行總裁ハ要務ニ牽制セラレテ親ラ此ニ臨席スル能ハサルヲ以テ余ハ不敏ヲ省ミス總裁ニ代リ聊カ一言ヲ陳ヘテ諸君ノ清聽ヲ汚スト云爾

前ニ述ヘタル如ク從來大阪支店ニハ資本金ヲ配置シタルカ明治二十六年十二月三十一日限之ヲ廢止セリ

從來大阪支店ニハ計算係專務員ヲ置キタリシカ明治二十七年二月二十三日右專務員ヲ廢シ文書係專務員ヲ以テ之ニ充ツルコトシ同二十四日ヲ以テ其旨ヲ同支店ニ達セリ

去明治二十四年三月以降設置セル本行和歌山出張所ハ都合ニ依リ同二十七年三月三十一日限廢止シ更ニ京都市(上京區東洞院通リ御池上ル船屋町第十六番戸)ヘ京都出張所ヲ設置シ同年四月一日ヨリ國庫金ノ保管出納、諸公債ノ事務ヲ取扱ヒ且爲換ノ業務ヲ營ミ度旨同年二月二十三日大藏大臣ニ稟請シ尚右許可ノ上ハ大津本金庫事務ハ京都出張所ヨリ派出事務ノ取扱ヲ爲シタキ旨ヲ添申シタルニ同月二十八日許可セラレ三月二日ヲ以テ右ノ趣幷ニ從來大津代理店ニ於テ取扱ヒタル公債其他ノ事務ハ京都出張所ヨリ派出取扱フヘキ旨ヲ各支店出張所長ニ達セリ

尋テ三月六日ヲ以テ京都出張所長職務權限ハ既定ノ出張所長職務權限ヲ其儘適用シ出張所事務假規程ハ既定ノ規程第四條第三項「出納官吏身元保證公債證書ニ係ル事務及供託規則ニ據リ有價證券ニ係ル事務ヲ處辨スルモノトス」ヲ「預金保管物及供託物ノ取扱ニ係ル事務ヲ處辨スルモノトス」ト改メ尚右規定ニ該當セサルモノハ左ノ通心得ヘキ旨該出張所長ニ達セリ

一　大津本金庫其他支金庫ノ派出員ハ其出張所ヨリ派出トシ其取扱主任ヲ以テ金庫出納役代理人トシテ其事務ヲ取扱フ事

一　派出員首席者ハ金庫ニ封緘ヲ爲シ其鎖鑰ヲ管守シ及金庫印ヲ保管スル事

但金庫封緘ニハ次席者ヲシテ加印ヲ爲サシムル事

一　金庫事務ニ就キ金庫出納役ヨリ令達ノ範圍内ニ於テ諸官衙等ニ往復スル文書ハ金庫出納役代理人ノ署名ヲ以テスルモノトス

一　諸公債事務等ニ就キ往復スル總テノ文書ハ日本銀行京都出張所何地何派出所何某ノ署名ヲ以テスルモノトス

公債ノ募集證書ノ取扱及元利金仕拂等ニ係ル事務ハ從來本行西部支店ニ於テ之ヲ取扱ハサリシモ明治二十七年九月一日ヨリ山口代理店同樣該事務ヲ取扱ヒ又山口代理店赤間關出張所ハ舊ニ依リ依然公債事務ヲ取扱フコトヽセリ又北海道廳下ニ於ケル公債其他ノ事務ハ從來本行函館出張所ニ於テ取扱來リシカ明治二十八年一月一日ヨリ左記ノ區域内ハ本行札幌出張所ニ於テ函館出張所同樣公債其他ノ事務ヲ取扱フコトヽセリ

一　石狩國　一圓

一日高國　一圓
一天鹽國　一圓
一膽振國ノ内七郡
千歳郡　室蘭郡　有珠郡　虻田郡　幌別郡　勇拂郡　白老郡
一後志國ノ内九郡
小樽郡　高島郡　忍路郡　余市郡　古平郡　美國郡　積丹郡　岩内郡　古宇郡
一北見國ノ内四郡
宗谷郡　枝幸郡　禮文郡　利尻郡

既記ノ如ク本行ハ明治十九年六月漸次必要ノ地ニ支店ヲ設置スルノ方針ヲ定メ二十六年十月一日ヨリ先ツ山口縣下赤間關市ニ西部支店ヲ設置シ爾後常ニ支店設置地ノ選擇ニ注意シ來リシカ二十八年七月遂ニ北海道函館ニ本行支店ヲ設立セリ蓋北海道ノ地タル沿海數百里水產ヲ以テ主要ノ物產トス而シテ其產出各々季節アルヲ以テ金融ノ繁閑常ナラス金利ノ劇變ヲ來スコト少カラス殊ニ其地北境ニ偏在スルヲ以テ平時ニ在テハ貨物ノ輸送格別ノ差支ナキモ一朝事アレハ頓ニ輸送ノ缺乏ヲ免カレス彼ノ日清開戰當時ニ於テハ航路杜絕シテ貨物停滯シ僅ニ通貨ノ現送ヲ以テ逼迫ノ勢ヲ止ムルニ至リシコトアリ國家富源ノ一要部タル北海道ノ金融ヲシテ此ノ如ク不便ナラシムルハ國家ノ不利亦甚タシトス依テ此不便ヲ救濟センナキヲ認メ當時直ニ之ヲ實施センコトヲ希圖セシモ時尚交戰ノ際ニ屬シ軍資供給ノ勤ニ忙ハシキ此ニ及フニ遑アラス已ムヲ得スシテ遷延セシカ二十八年五月平和ノ局ヲ結フヤ直ニ之カ準備ニ着手シ同年六月二十二日ヲ以テ大藏大臣ニ對シ曩ニ設置セシ函館、札幌及根室ノ三出張所ノ内函館、根室ノ二出張所ハ都合ニ依リ之ヲ廢止シテ更ニ函館ニ本行支店ヲ設置シテ北海道支店ト名ケ同年七月十日ヨリ開業シ且從來根室出張所ニ於テ取扱ヒタル金庫及公債事務ハ北海道支店ヨリ派出所ヲ設ケ取扱ハシメ又函館本金庫事務及公債事務ハ北海道支店ニ於テ取扱ハシメタキ旨稟請シタルニ同月二十五日認可セラレタリ是ニ於テ直ニ北海道支店假條規並特別規定ヲ定メ之ヲ同支店長ヘ達シ並右假條規ヲ大藏大臣ニ届出テタリ假條規及特別規定左ノ如シ

日本銀行北海道支店假條規

第一條　日本銀行北海道支店職員左ノ如シ

支店長　支配役又ハ副支配役ヲ以テ之ニ充ツ

書記

手代

第二條　前條職員ノ外傭及見習ヲ置ク

第三條　支店長ハ支店全般ノ事務ヲ綜理シ書記以下ヲ監督シ札幌出張所ヲ管轄シ總裁ニ對シ一切ノ責ニ任シ其處辨方ニ關シテハ主任理事ノ證認ヲ經テ之ヲ爲サシム

第四條　支店ノ各係ニ事務書記ヲ置キ書記ヲ以テ之ニ充ツ課務ノ整理ニ關シ支店長ニ對シ一切ノ責ニ任セシム

第五條　書記手代及傭員ハ支店ニ專屬シテ諸般ノ事務ニ從事セシム

第六條　日本銀行北海道支店中ニ左ノ四係ヲ置ク

金庫係
國庫係
營業係
文書係

第七條　金庫係ハ左ノ事務ヲ掌ル
一　現金及地金銀ノ保管出納
第八條　國庫係ハ左ノ事務ヲ掌ル
一　金庫全般ノ事務
第九條　營業係ハ左ノ事務ヲ掌ル
一　營業ニ關スル諸般ノ事務
一　諸公債取扱ノ事務
一　銀券交換ノ事務
一　諸保護預リノ事務
第十條　文書係ハ左ノ事務ヲ掌ル
一　一般文書ノ取扱及計算ノ整理
一　支店經費一切ノ取扱
第十一條　支店長事故アルトキハ首席書記代理スヘシ
第十二條　支店事務上一般ノ文書ハ總テ支店長ノ名義ヲ以テ署名捺印スルモノトス

第十三條　本規定ニ該當セサルモノハ條例及定款其他本店既定ノ諸規則ニ準據スルモノトス
日本銀行北海道支店特別規定

一　北海道支店長ハ札幌出張所ヲ管轄シ幷ニ北海道全道ノ本支金庫ヲ監督スル事
一　根室本金庫及所屬支金庫ノ派出員ハ北海道支店ヨリ派出トシ其取扱主任ヲ以テ金庫出納役代理人トシテ事務ヲ取扱フ事
一　派出員首席者ハ金庫ニ封緘ヲ爲シ其鎖鑰ヲ管守シ及金庫印ヲ保管スル事
一　金庫事務ニ就キ金庫出納役ヨリ令達ノ範圍内ニ於テ諸官衙等ニ往復スル文書ハ金庫出納役代理人ノ署名ヲ以テスルモノトス
一　諸公債事務等ニ就キ派出所ヨリ發送スル總テノ文書ハ日本銀行北海道支店何地派出所何某ノ署名ヲ以テスルモノトス
一　北海道支店員一般ノ進退黜陟ハ支店長ヨリ總裁ニ具狀シ臨時傭員及見習ノ進退ハ支店長之ヲ專行スルモノトス
但臨時傭員及見習ノ給額ヲ增減セシキハ其都度總裁ニ具申スルモノトス
一　北海道支店ノ營業時間ハ土地ノ狀況ニ從ヒ便宜ヲ旨トシ支店長ハ豫メ總裁ニ具申シテ之ヲ伸縮スルヲ得ルモノトス
但金庫開閉時間ハ此限ニアラス

一　右ノ外明治十五年十二月制定ノ日本銀行大阪支店條規ヲ適用スルヲ得

斯クテ愈七月十日ヨリ函館區末廣町一番地ニ北海道支店ヲ根室國根室本町三丁目七番地ニ同支店

派出所ヲ設置セリ

尋テ同年八月二十二日北海道支店特別規定第二項ヲ修正シ「所屬支金庫」ノ次ニ「幷札幌本金庫所屬支金庫」ノ十一字ヲ挿入シ又札幌出張所ハ前月北海道支店ノ管轄トナリ從來取扱ヒ來リシ金庫公債事務ノ外一般營業事務ヲ併セ營ムコトヽナリシニ就テハ從前ノ規程ヲ其儘施行シ能ハサル事情アルニ依リ同月二十三日北海道支店長並ニ札幌出張所長ニ對シ出張所長職務權限事務假規程及特別規定等相廢シ更ニ左記ノ通札幌出張所長職務權限並ニ職員事務分掌ヲ定メタル旨ヲ達セリ

北海道支店管轄札幌出張所長職務權限ヲ定ムル左ノ如シ

職務

一　出張所長ハ支店長ノ監督ヲ受ケ其出張所全般ノ事務ヲ整理シ支店長ニ對シ一切ノ責ニ任セシメ其處辨方ニ關シテハ支店長ノ承認ヲ經テ之ヲ爲サシム

一　出張所長ハ金庫出納役代理人トシテ其事務ヲ取扱フコト

一　出張所長ハ金庫國庫營業文書ノ事務ヲ主掌スルコト

一　出張所長ハ金庫ニ封緘ヲ施シ其鎖鑰ヲ管守シ及ヒ本金庫印出張所印ヲ保管スルコト

一　出張所事務上一般ノ文書ハ出張所長ノ名義ヲ以テ署名實印ヲ押捺スルコト

權限

一　金庫事務ニ就キ金庫出納役ヨリ令達ノ範圍内ニ於テ出張所長ハ所屬各支金庫ヘ其取扱方ヲ訓示スルヲ得ルモノトス其場合ニ於テハ金庫出納役代理人ノ署名ヲ以テスルモノトス

一　出張所長ハ支店長ノ差圖ヲ受ケ書記手代及雇員等ヲ指揮督勵シテ事務ヲ整理セシムルモノトス

一　出張所長ハ書記以下ノ歸省及轉地療養願又ハ除服等ハ支店長ニ申出承認ヲ乞フモノトス但シ忌服ニ限リ假リニ除服ヲ達スルヲ得

一　出張所ニ必要ナル諸費用ハ支店長ノ承諾ヲ得ヘシ百圓未滿ニシテ急ヲ要スルモノハ出張所長ニ於テ之ヲ決行シ事後支店長ノ承認ヲ乞フヘキモノトス

一　出張所ニ要スル經費ハ毎月精算報告書ヲ製シ翌月五日迄ニ支店長ニ差出スモノトス

一　出張所長事故アルトキハ上席書記ヲシテ代理セシムルコトヲ得ルモノトス

北海道支店管轄札幌出張所職員幷事務分掌

職員

一　出張所長　一人　北海道支店員ヲ以テ之ニ充ツ

一　書記　若干名

一　手代　若干名

右ノ外雇員ヲ置ク

事務分掌

一　金庫係

一　國庫係

一　營業係

一　文書係

各係ニハ係長又ハ主任ヲ置カス所長ニ於テ之ヲ主掌スルモノトス

從來大津派出所ニ於テハ滋賀縣管内ニ於ケル記名公債證書書換其他ノ公債事務ヲ取扱來リシカ明治二十八年十月三十一日大津本金庫ノ廢止ト共ニ右記名公債證書書換其他ノ事務ヲ京都出張所ニ移シ十一月一日ヨリ別ニ出張所員ヲ大津派出所ヘ派出シテ一般派出所事務ヲ取扱ハシメタリ

尋テ明治二十九年三月三十一日限京都出張所大津派出所ヲ廢シ其事務ハ第百三十三國立銀行ヘ委囑シ又同年四月一日ヨリ三重縣下津ニ本店派出所ヲ設ケ金庫出納事務幷ニ公債其他ノ事務ヲ取扱ハシムルニ付本行派出員職務權限ヲ定メ同年三月四日之ヲ津派出所ニ達セリ右ハ曩ニ和歌山出張所ニ達シタルモノト殆ント同一ニ付其全文ノ揭載ヲ省ク

從來出張所長ニハ役印ナク必要ノ場合ニハ各自ノ實印ヲ押捺スル成規ナリシカ明治二十九年四月十四日ヲ以テ爾後役印ヲ新鐫シ出張所事務上一般ノ文書其他諸手形證書類ニハ役印ヲ押捺セシムルコト、定メタルニ付京都出張所長職務第五項ヲ左ノ通改正セリ

一　出張所事務上一般ノ文書其他諸手形證書類ハ出張所長ノ名義ヲ以テ署名役印ヲ押捺スル事

但金庫出納役代理人ノ資格ヲ以テ署名捺印スルトキハ實印ヲ押捺スル事

明治二十七八年ノ戰役局ヲ結ヒ臺灣全島ノ我版圖ニ歸スルニ至リシヨリ同島ニ於ケル國庫金ノ出納保管諸公債ノ事務ヲ取扱且爲換ノ業務ヲ營ム爲メ臺北(西門街)ニ本行出張所ヲ設置シ明治二十九年十二月一日ヨリ開業致度旨同年十一月十九日大藏大臣ニ稟請シタルニ同日許可セラレタルニヨリ翌二十日ヲ以テ臺北出張所長職務權限及出張所職員幷事務分掌ヲ定メ大藏大臣ニ届出並ニ同出張所長ニ達セリ其全文左ノ如シ

日本銀行臺北出張所長職務權限ヲ定ムル左ノ如シ

職務

一　出張所長ハ出張所全般ノ事務ヲ整理シ書記以下ヲ監督シ總裁ニ對シ一切ノ責ニ任スルモノトス

一　出張所長ハ金庫出納役代理人トシテ其事務ヲ取扱ヒ所屬支金庫ヲ監督スル事

一　出張所長ハ金庫國庫、營業、文書ノ事務ヲ主掌スル事

一　出張所長ハ金庫ニ封緘ヲ施シ其鎖鑰ヲ管守シ及ヒ本金庫印出張所印ヲ保管スル事

權限

一　出張所事務上一般ノ文書其他諸手形證書類ハ出張所長ノ名義ヲ以テ署名役印ヲ押捺スル事

一　金庫事務ニ就キ金庫出納役ヨリ令達ノ範圍内ニ於テ諸官衙等ニ往復スル文書ハ金庫出納役代理人ノ署名ヲ以テ實印ヲ押捺スル事

一　出張所員一般ノ進退黜陟ハ出張所長ヨリ總裁ニ具狀シ臨時傭員ノ進退ハ出張所長之ヲ專行スルモノトス

但臨時傭員ノ給額ヲ增減セシキハ其都度總裁ニ具申スルモノトス

一　出張所ニ要スル經費ハ毎月精算報告書ヲ製シ本店ニ差出スモノトス

一　出張所長事故アルトキハ上席書記ヲシテ代理セシムルヿヲ得ルモノトス

臺北出張所職員幷事務分掌

職員

一　出張所長　一人　支配役又ハ副支配役ヲ以テ之ニ充ツ
一　書記　若干名
一　手代　若干名
右ノ外傭員ヲ置ク

事務分掌

一　金庫係
一　國庫係
一　營業係
一　文書係

各係ニハ係長又ハ主任ヲ置カス所長ニ於テ之ヲ主掌スルモノトス
又臺北出張所設立以後其所轄内ニ臺中臺南等各派出所ヲ設置シ金庫、公債其他ノ事務ヲ取扱ハシメタルカ今之カ設置改廢ニ關シテハ左表ニ就テ之ヲ觀ルヘシ

派出所名	開設年月日	廢止年月日
基隆	二十九年十二月一日	三十年二月一日
臺中	二十九年十二月二十一日	三十二年九月三十日
臺南	同	同
鳳山	三十年一月一日	同
澎湖島	同	同
新竹	三十年十一月一日	同
滬尾	同	同
嘉義	三十年十二月一日	同
宜蘭	三十一年一月一日	同

從來北海道小樽ニハ北海道支店ノ派出所ヲ設ケ單ニ金庫及諸公債事務ヲ取扱ハセ來リシカ爲換其他ノ營業事務ヲ取扱ハシムルノ必要ヲ認メ明治二十九年十一月二十五日大藏大臣ニ稟申シテ翌二十六日其許可ヲ得同三十年一月一日ヨリ後志國高島郡色内町七十八番地ヘ新築移轉ノ上爲換其他ノ營業事務ヲ開始シ同時ニ札幌出張所ニ於テ去二十八年七月以降取扱ヒタル一般營業事務ヲ廢シ爲替事務ノミ取扱フコトヽセリ

尋テ名古屋地方金融ノ便宜上愛知縣下名古屋同市新柳町六丁目二十一番戸ニ本行支店設置ノ必要ヲ感シ明治三十年一月十五日大藏大臣ニ稟申シ同十九日認可ヲ得テ同年三月一日ヨリ業務ヲ開始シ同時ニ名古屋本金庫事務及諸公債事務ヲ取扱且支店名稱ヲ日本銀行名古屋支店ト稱シ又從來本店派出所タリシ津派出所ヲ名古屋支店ノ所轄トセリ之ニ就キ同年二月六日北海道支店ノ例ニ準シ名古屋支店假條規及特別規定ヲ制定シ直ニ之ヲ該支店長ヘ達シ且大藏大臣ヘ届出タリ假條規及特別規定全文左ノ如シ

日本銀行名古屋支店假條規

第一條　日本銀行名古屋支店職員左ノ如シ

支店長　支配役又ハ副支配役ヲ以テ之ニ充ツ

書記

手代

第二條　前條職員ノ外傭及見習ヲ置ク

第三條　支店長ハ支店全般ノ事務ヲ綜理シ書記以下ヲ監督シ總裁ニ對シ一切ノ責ニ任ス

第四條　支店ノ各係ニ主任ヲ置キ書記ヲ以テ之ニ充ツ課務ノ整理ニ關シ支店長ニ對シ一切ノ責ニ任セシム

第五條　書記手代及傭員ハ支店ニ專屬シテ諸般ノ事務ニ從事セシム

第六條　日本銀行名古屋支店中ニ左ノ五係ヲ置ク

金庫係

國庫係

營業係

公債係

文書係

第七條　金庫係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　現金及地金銀ノ保管出納

第八條　國庫係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　金庫全般ノ事務

第九條　營業係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　營業ニ關スル諸般ノ事務

一　銀券交換ノ事務

第十條　公債係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　諸公債取扱ノ事務

一　諸保護預リノ事務

第十一條　文書係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　一般文書ノ取扱及計算ノ整理

一　支店經費一切ノ取扱

第十二條　支店長事故アルキハ首席書記代理スヘシ

第十三條　支店事務上一般ノ文書ハ總テ支店長ノ名義ヲ以テ署名役印ヲ押捺スルモノトス

第十四條　本規定ニ該當セサルモノハ條例及定款其他本店既定ノ諸規則ニ準據スルモノトス

日本銀行名古屋支店特別規定

一　名古屋支店長ハ愛知三重兩縣下ノ本支金庫ヲ監督スル事

一　名古屋本金庫所屬支金庫並ニ津本金庫及所屬支金庫ノ派出員ハ名古屋支店ヨリ派出トシ該派出員首席者ヲ以テ金庫出納役代理人トシテ事務ヲ取扱フ事

一　支金庫派出員首席者ハ金庫ニ封緘ヲ爲シ其鎖鑰ヲ管守シ及金庫印ヲ保管スル事

一　金庫事務ニ就キ金庫出納役ヨリ令達ノ範圍内ニ於テ諸官衙等ニ往復スル文書ハ金庫出納役代理人ノ署名ヲ以テ實印ヲ押捺スルモノトス

一　諸公債事務等ニ就キ派出所ヨリ發送スル總テノ文書ハ日本銀行名古屋支店何地派出所何某ノ署名ヲ以テスルモノトス

一　名古屋支店書記手代ノ進退黜陟ハ支店長ヨリ總裁ニ具狀スルモノトス

一　臨時傭員及見習ノ進退黜陟ハ日給五拾錢以下支店長之ヲ專行シ其都度本店ニ届出ルモノトス

一　名古屋支店ノ營業時間ハ土地ノ狀況ニ從ヒ便宜ヲ旨トシ支店長ハ豫メ總裁ニ具申シテ之ヲ伸縮スルヲ得ルモノトス

但金庫開閉時間ハ此限ニアラス

一　右ノ外明治十五年十二月制定ノ日本銀行大阪支店條規ヲ適用スルヲ得

越エテ四月二十五日名古屋市其他附近ノ紳士百餘名ヲ招請シテ盛大ナル開業式ヲ行ヘリ

京都出張所ハ從來本店直轄ナリシカ明治三十年四月一日以降大阪支店所轄京都出張所トシテ從來取扱來リタル金庫及諸公債事務並ニ爲替業務ノ外貸付割引等一般ノ業務ヲ開始シタキ旨同年三月二十三日ヲ以テ大藏大臣ニ稟申シ同日許可ヲ得其旨ヲ大阪支店長並ニ京都出張所長ニ達シ尙同月二十七日ヲ以テ京都出張所長職務權限及事務假規程ヲ廢シ更ニ同所長職務權限及同所職員並ニ事務分掌ヲ定メ之ヲ兩店ニ達セリ其全文左ノ如シ

大阪支店所轄京都出張所長職務權限ヲ定ムルコト左ノ如シ

職務

一　出張所長ハ支店長ノ監督ヲ受ケ其出張所全般ノ事務ヲ整理シ支店長ニ對シ一切ノ責ニ任セシメ其處辨方ニ關シテハ支店長ノ承認ヲ經テ之ヲ爲サシム

一　出張所長ハ金庫出納役代理人トシテ其事務ヲ取扱フ事

一　出張所長ハ金庫、國庫、營業、文書ノ事務ヲ主掌スル事

一　出張所長ハ金庫ニ封緘ヲ施シ其鎖鑰ヲ管守シ及本金庫印出張所印ヲ保管スル事

權限

一　出張所事務上一般ノ文書其他諸手形證書類ハ出張所長ノ名義ヲ以テ署名役印ヲ押捺スル事

但金庫出納役代理人ノ資格ヲ以テ署名捺印スルトキハ實印ヲ押捺スル事

一　金庫事務ニ付キ金庫出納役ヨリ令達ノ範圍内ニ於テ出張所長ハ所屬各支金庫ヘ其取扱方ヲ訓示スルヲ得ルモノトス其場合ニ於テハ金庫出納役代理人ノ署名ヲ以テスルモノトス

一　出張所長ハ支店長ノ指圖ヲ受ケ書記手代及傭員等ヲ指揮督勵シテ事務ヲ整理セシムルモノトス

一　出張所長ハ書記以下ノ歸省及轉地療養願又ハ除服等ハ支店長ニ申出承認ヲ乞フモノトス但忌服ニ限リ假ニ除服ヲ達スルヲ得

一　出張所ニ必要ナル諸費用ハ支店長ノ承認ヲ得ヘシ百圓未滿ニシテ急ヲ要スルモノハ出張所長ニ於テ之ヲ決行シ事後支店長ノ承認ヲ乞フヘキモノトス

一　出張所ニ要スル經費ハ毎月精算報告書ヲ製シ翌月五日迄ニ支店長ニ差出スモノトス

一　出張所長事故アルキハ上席書記ヲシテ代理セシムルコヲ得ルモノトス

大阪支店所轄京都出張所職員並事務分掌

職　員

一　出張所長　一　人
一　書　記　若干名
一　手　代　若干名

右ノ外傭員ヲ置ク

事務分掌

一　金庫係
一　國庫係
一　營業係
一　文書係

各係ニ係長又ハ主任ヲ置カス所長ニ於テ之ヲ主掌スルモノトス

北海道支店管内根室派出所ニ於テハ出張所時代ヨリ引續キ本支店出張所間ノ爲替ヲ取扱ヒ來リシモ固ヨリ營利ノ目的ニ非サルヲ以テ從來營業ノ登記ヲナサヽリシニ營業稅法ノ發布ニ伴ヒ營業登記ヲナスヘキモノト看做サレタルニ依リ斯クテハ僅少ノ爲替手數料ノ爲メ巨額ノ登記稅ヲ支出スルコトヽナリ得失相償ハサルニ依リ寧ロ此際本支店出張所間ノ爲替取扱ヲ廢シ他派出所同樣無手數料ヲ以テ北海道支店ニ對シテノミ爲替ヲ取組マシムルコトヽシタキ旨明治三十年四月十日北海道支店長ヨリ稟申アリ依テ之ヲ認可シ同月三十日限リ同派出所ニ於ケル公衆爲替取扱ヲ廢止シ其旨各支店出張所へ通牒セリ

明治三十年四月本店ニ計算局ヲ置キ從來文書局第二課ニ於テ取扱タル日記帳、總勘定元帳及諸帳簿監査ノ事務ヲ移シ更ニ國庫局所屬日記原簿及各局所屬ノ增補日記帳ヲ附屬セシメ尙新ニ各局ニ於テ仕出ス所ノ各種傳票幷證據書類ノ精査ヲナサシムルコトヽシ來五月一日ヨリ實施ニ付大阪、西部兩支店ハ計算係ヲシテ其他ノ支店出張所ハ新ニ計算係ヲ置キ右ニ關スル事務ノ取扱ヲナサシムヘキ旨四月二十八日ヲ以テ各支店出張所ニ達セリ依テ各支店出張所ハ五月二十一日又ハ六月一日ヨリ實施スルコトヽナレリ

明治三十年八月二十八日臺北出張所及各派出所間ニ送金爲換事務ヲ開始シタキ旨同所長ノ上申ニ對シ九月二日之ヲ承認セリ尋テ臺中派出所ハ十月十四日ヨリ其他ノ各派出所ハ十二月一日ヨリ送金事務ヲ開始セリ

明治三十年大阪及西部兩支店新築ノ議ヲ決シ新ニ工事ニ着手スルコトヽナリタルニ付同年九月三日右兩店ニ臨時建築係ヲ置キ其規定ヲ定メ左ノ通兩支店長ニ達セリ

大阪西部支店臨時建築係規定

第一條　大阪西部支店及ヒ附屬屋舍新築事業ヲ經營スル爲メニ大阪西部支店ニ臨時建築係ヲ置ク

第二條　建築工事ハ一切日本銀行工事監督ヲシテ監督セシム

第三條　建築ニ關スル事務ハ支店長之ヲ監督ス

第四條　臨時建築係ニ主任ヲ置キ書記ヲ以テ之ニ充ツ

第五條　臨時建築係ニ附屬スル書記手代ハ支店長ノ指揮ニ從ヒ各其事務ニ服セシム

第六條　工事ノ設計若クハ經費ノ豫算ニ變更ヲ加フルノ必要アルトキハ工事監督及ヒ支店長連署シテ總裁ニ伺出テ其指揮ヲ待ツヘシ

第七條　臨時建築係ニ附屬スル技術員ノ進退黜陟ハ日本銀行工事監督ヨリ之ヲ申立ツヘシ

第八條　建築ノ工程材料及ヒ經費ノ出納ハ毎月五日限リニ其前月末日ノ實況ヲ各主任者ヨリ本店ニ報告スヘシ

各支店、出張所及派出所ニ關スル諸條規ハ從來其設置毎ニ特定セラレタルニ由リ各種ノ規定繁雜ニ渉ルノミナラス間々彼此權衡ヲ得サルモノアリ依テ更ニ支店及出張所條規ヲ設ケ之ヲ通則ト定メ尚支店出張所ニ特殊ノ規定ヲ要スル場合ニハ別ニ特別規定ヲ制定スルヲ可トシ明治三十年九月三日支店、出張所條規及派出所規定ヲ左ノ通制定通達セリ

日本銀行支店職員左ノ如シ

第一條　日本銀行支店職員左ノ如シ

支店長　支配役又ハ副支配役ヲ以テ之ニ充ツ

書記

手代

第二條　前條職員ノ外傭員及見習ヲ置ク

第三條　支店長ハ支店全般ノ事務ヲ綜理シ一切ノ責ニ任ス

第四條　支店ニ金庫監査役ヲ置キ副支配役ヲ以テ之ニ充ツ

但時宜ニ依リ金庫監査役ヲ置カサルコトアルヘシ

第五條　支店ノ各係ニ主任ヲ置キ書記ヲ以テ之ニ充ツ事務ノ整理ニ關シ一切ノ責ニ任セシム

第六條　日本銀行支店中ニ左ノ六係ヲ置ク

金庫係
國庫係
營業係
公債係
文書係
計算係

第七條　金庫係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　現金及地金銀ノ保管出納

一　兌換銀行券交換ノ事務

第八條　國庫係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　金庫全般ノ事務

第九條　營業係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　營業ニ關スル諸般ノ事務

第十條　公債係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　諸公債取扱ノ事務

一　諸保護預リノ事務
一　抵當品及ヒ保證品取扱ノ事務
第十一條　文書係ハ左ノ事務ヲ掌ル
一　一般文書取扱ノ事務
一　支店經費一切ノ取扱
第十二條　計算係ハ左ノ事務ヲ掌ル
一　計算全般ノ整理
第十三條　支店長事故アルトキハ副支配役又ハ首席書記代理スヘシ
第十四條　支店事務上一般ノ文書ハ總テ支店長ノ名義ヲ以テ署名役印ヲ押捺スルモノトス
第十五條　傭員及見習ノ進退黜陟ハ日給五拾錢以下支店長之ヲ專行シ其都度本店ニ届出ルモノトス
第十六條　本條規ニ該當セサルモノハ條例及定款其他本店既定ノ諸規則ニ準據スルモノトス

日本銀行出張所條規

第一條　日本銀行出張所職員左ノ如シ

出張所長
書記
手代

第二條　前條職員ノ外傭員及見習ヲ置ク

第三條　出張所長ハ副支配役又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ
但時宜ニ依リ特ニ支配役ヲ以テ之ニ充ツルコトアルヘシ
第四條　出張所長ハ出張所全般ノ事務ヲ綜理シ一切ノ責ニ任ス
第五條　出張所ノ各係ニ主任ヲ置カス所長ニ於テ之ヲ主掌ス
第六條　日本銀行出張所中ニ左ノ五係ヲ置ク

金庫係
國庫係
營業係
文書係
計算係

第七條　出張所長事故アルトキハ首席書記代理スヘシ
第八條　出張所事務上一般ノ文書ハ總テ出張所長ノ名義ヲ以テ署名役印ヲ押捺スルモノトス
第九條　傭員及見習ノ進退黜陟ハ日給五拾錢以下出張所長之ヲ專行シ其都度本店ニ届出ルモノトス
第十條　出張所ニ要スル經費ハ毎月精算報告書ヲ製シ本店ニ差出スモノトス
第十一條　本條規ニ該當セサルモノハ條例及定款其他本店既定ノ諸規則ニ準據スルモノトス

日本銀行支店所轄出張所條規

第一條　日本銀行支店所轄出張所職員左ノ如シ

出張所長
書記
手代

第二條　前條職員ノ外傭員及見習ヲ置ク

第三條　出張所長ハ副支配役又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　出張所員ハ所屬支店在勤ノ書記手代傭員及見習ヲ以テ之ニ充ツ

第五條　出張所長ハ所屬支店長ノ監督ヲ受ケ其出張所全般ノ事務ヲ整理シ一切ノ責ニ任ス

第六條　出張所ノ各係ニ主任ヲ置カス所長ニ於テ之ヲ主掌ス

第七條　出張所中ニ左ノ五係ヲ置ク

金庫係
國庫係
營業係
文書係
計算係

第八條　出張所長事故アルキハ首席書記代理スヘシ

第九條　出張所事務上一般ノ文書ハ總テ出張所長ノ名義ヲ以テ署名シ役印ヲ押捺スルモノトス

第十條　出張所員ノ歸省及轉地療養願ハ所屬支店長ニ差出スヘシ但忌服屆ニ限リ出張所長ニ於テ除服ヲ執行スルヲ得

第十一條　出張所員ニ於テ所屬支店又ハ其他ノ地方ヘ出張セントスルトキハ豫メ出張所長ヨリ所屬支店長ニ申出テ許可ヲ受クヘシ但百圓未滿ニシテ急ヲ要スルモノハ出張所長ニ於テ之ヲ決行シ事後所屬支店長ノ承認ヲ乞フヘキモノトス

第十二條　出張所ニ於テ必要ナル諸費用ハ所屬支店長ノ承認ヲ受クヘシ但百圓未滿ニシテ急ヲ第十三條　出張所ニ要スル經費ハ毎月精算報告書ヲ製シ翌月五日迄ニ所屬支店長ニ差出スヘキモノトス

日本銀行支店派出所規定

第一條　日本銀行支店派出所ハ金庫事務及公債事務ヲ取扱フ所トス

第二條　派出所員ハ支店在勤ノ書記手代ヲ以テ之ニ充ツ但時宜ニ依リ副支配役ヲ在勤セシムルコトアルヘシ

第三條　派出所員首席者ハ所屬支店長ノ指揮監督ヲ受ケ其派出所全般ノ事務ヲ整理シ一切ノ責ニ任セシム

第四條　派出所員首席者ハ金庫出納役代理人トシテ其事務ヲ取扱フヘシ

第五條　派出所員首席者ハ金庫出納役代理人トシテ其鎖鑰ヲ管守シ及ヒ金庫印ヲ保管スヘシ

第六條　金庫事務ニ就キ金庫出納役ヨリ令達ノ範圍内ニ於テ諸官衙等ニ往復スル文書ハ金庫出納役代理人ノ署名ヲ以テスルモノトス

第七條　諸公債事務等ニ就キ發送スル文書ハ日本銀行何々支店何地派出所何某（首席者）ノ署名ヲ以

テスルモノトス

第八條　派出所員歸省及轉地療養願ハ所屬支店ニ差出スヘシ但忌服屆ニ限リ首席者ニ於テ除服ヲ執行スルヲ得

第九條　派出所員ニ於テ所屬支店又ハ其他ノ地方ヘ出張セントスルキハ豫メ首席者ヨリ所屬支店ニ申出許可ヲ受クヘシ

第十條　派出所ニ於テ必要ナル什器ヲ購入シ又ハ不用ニ屬スル什器ヲ賣却セントスルキハ所屬支店ニ申出許可ヲ受クヘシ

第十一條　派出所ニ要スル經費ハ所屬支店ニ請求シ仕拂濟領收證書ヲ添ヘ毎月精算報告書ヲ製シ翌月五日迄ニ所屬支店ニ差出スモノトス

第十二條　派出所員首席者事故アルキハ次席者ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第十三條　派出所ヲシテ營業事務ヲ取扱ハシムル場合ハ別ニ之ヲ定ム

尋テ同年九月七日西部支店長ヨリ申出ニ對シ支店條規第十條ニ於ケル公債係管掌事務中諸保護預リ並ニ抵當品保證品取扱事務ハ同店倉庫及人繰等ノ都合ニ依リ當分ノ內從來通リ金庫係ノ取扱ニ屬セシムヘキ件同月十四日ヲ以テ承認セリ

尙同年十月一日ヲ以テ支店並ニ出張所條規ニ左ノ追加ヲナセリ

支店條規第十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

支店長ノ命ヲ以テ所屬副支配役又ハ他ノ職員ヲ任地外ニ出張セシメタルトキハ其都度理由ヲ具シテ之ヲ本店ニ屆出ツヘシ

出張所條規第九條ニ左ノ一項ヲ加フ

出張所長ノ命ヲ以テ所屬職員ヲ任地外ニ出張セシメタルキハ其都度理由ヲ具シテ之ヲ本店ニ屆出ツヘシ

支店所轄出張所條規第十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

支店長ノ命令ニ依リ又ハ其許可ヲ得テ出張所員任地外ニ出張スルトキハ其都度理由ヲ具シテ所屬支店長ヨリ之ヲ本店ニ屆出ヘシ

北海道支店小樽派出所ニ於テハ既記ノ如ク明治三十年一月以來營業事務ヲ取扱ヒ來リシカ地方ノ商況漸次繁盛ヲ加フルニ從ヒ同派出所ノ營業事務ハ頗ル增大シ同年十月頃ニ至リテハ同所ノ貸出金額ハ北海道支店ニ讓ラサル程ノ取引高ニ達シ尙爾後益業務ノ擴張ヲ要スルモノアルニ依リ同年十一月一日ヨリ派出所ノ名稱ヲ改メ出張所トシ二十日認可ヲ得タルニ依リ直ニ其旨ヲ北海道支店ニ達シ尙翌二十一日ヲ以テ小樽出張所ヲ北海道支店ノ所轄トシ事務取扱方ハ支店所轄出張所條規及北海道支店特別規定ヲ適用スヘキ旨同支店長並出張所長ニ達セリ

明治三十一年三月十八日本行事務取扱並ニ取締方ニ就キ通達セルモノヽ中其第八條ニ於テ各支店長及營業ヲ爲ス各出張所長ハ其在勤地及ヒ取引地方ノ金融情況ヲ少クトモ毎月一回總裁ニ報告スヘキ旨ヲ規定セリ

尋テ明治三十一年四月十九日大阪支店ニ於テ各係ノ事務取扱細則〔略之〕ヲ制定シ其旨ヲ屆出テタリ」

去明治二十六年十月西部支店創設ノ際追テ門司港ニ移轉スヘキ見込ヲ以テ一時赤間關ニ支店ヲ假

設シタリシカ其後明治三十年九月ヨリ門司港ニ於ケル家屋新築ニ着手シ同三十一年九月全ク工ヲ竣ヘタルニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ得テ十月三十日ヲ以テ福岡縣企救郡門司町大字門司町字本町三十番地ニ移轉シ同月三十一日ヨリ同所ニ於テ營業ヲ開始シ十一月一日ヲ以テ同地方ノ紳士二百有餘名ヲ招請シテ移轉式ヲ行ヘリ又曩ニ同店ニ設置シタル臨時建築係ハ工事ノ竣成ニ依リ同年十一月三十日限リ廢止シ從來同係ニ於テ取扱ヒタル事務ノ未タ完結セサルモノハ文書係ニ引繼クヘキ旨十一月十七日ヲ以テ同店ニ達セリ

明治三十二年一月實施ノ改正內規ニ依レハ內規ノ條項ニ牴觸スル現行ノ諸規則又ハ命令ハ其効力ヲ失フコトヽナリタルヲ以テ支店出張所及派出所ニ關スル諸條規モ大概効力ヲ失ヒ而シテ新內規第八章ニ於テ支店出張所及派出所ニ關スル組織及事務分掌方等ヲ規定シ其他ノ各章ニ於テ事務取扱ノ細目ヲ規定シタリ其詳細ハ之ヲ內規ニ讓リ今此中最モ重要ナルモノヲ摘記スレハ支店及出張所ニハ營業、出納、國庫、文書、計算ノ五係ヲ置キ尙支店ノ情況ニヨリ特ニ證券係ヲ置キ(大阪支店ニ於テハ三十一年十二月、名古屋支店ニ於テハ三十八年三月證券係ヲ置キタリ)公債、保護預幷ニ抵當品、保證品、國庫預金部有價證券保管等ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヽシ又出張所ノ情況ニヨリ一係又ハ數係ヲ省クコトアルヘキモノトシ又支店ノ係ニハ主任ヲ置キ書記ヲ以テ之ニ充ツルコトヽセリ

既記ノ如ク札幌小樽兩出張所ハ北海道支店ニ京都出張所ハ大阪支店ニ隷屬シタリシカ內規實施後ハ三出張所共本店ニ直隷スヘク尤札幌出張所ニ屬スル派出所ハ依然其所轄タルヘキ旨明治三十一年十一月十七日ヲ以テ本支店出張所ニ達シ尙同年十二月二十日ヲ以テ出張所々管ノ派出所ニハ三十年九月三日制定ノ支店派出所條規ヲ準用スヘキ旨ヲ達セリ

從來陸羽地方ニハ本行ノ支店出張所ノ設アラサリシカ由來同地方ニハ生絲米穀等重要ノ物產少ナカラス而モ金融ハ動モスレハ壅塞シ易キノ聞エアリシニ依リ之カ疏通ヲ圖ル爲メ支店若クハ出張所ノ設置ヲ必要トスル所ナリシカ明治三十二年五月中奥羽鐵道米澤福島間ノ開通アリテ陸羽交通ノ端ヲ開キシヲ以テ遂ニ地ヲ福島町ニトシ同年六月三日大藏大臣ニ對シ東北地方金融ノ便ヲ計ル爲メ福島縣下福島町ニ本行出張所ヲ設ケ日本銀行福島出張所ト稱シタキ旨ヲ稟請セシニ同六日認可セラレタリ依テ同二十二日ヲ以テ來七月十五日ヨリ福島縣信夫郡福島町大字福島字本町二十三番地ニ營業所ヲ設ケ事務ヲ開始スヘキ旨ヲ達セリ

曩ニ本行ハ明治二十九年十二月ヨリ臺北ニ出張所ヲ設置シ業務ヲ營ミ來リシモ都合ニヨリ同三十二年九月三十日限廢止シタキ旨同年八月一日ヲ以テ大藏大臣ニ稟請シ同八日許可ヲ得同十日ヲ以テ來九月三十日限廢止ノ旨ヲ達セリ但金庫及公債事務ハ十月一日以降其取扱ヲ臺灣銀行ニ委囑スルコトヽセリ

從來札幌出張所ニ於テハ爲換業務ノ外他ノ營業ヲナサヽリシカ同地方銀行者ノ不便尠カラサルニヨリ明治三十二年十月十五日ヨリ當座勘定取引ヲ開始スルコトヽシ同月三日ヲ以テ其旨ヲ大藏大臣ニ上申シ並ニ本支店出張所ニ達セリ

曩ニ北海道各派出所ニ於テハ爲換事務ノ取扱ヲ廢止シタルモ公衆ノ不便尠カラサルニ付北海道支店ト其管內帶廣、浦河、壽都各派出所トノ間又札幌、小樽兩出張所ト札幌出張所管內岩見澤、旭川、宗谷各派出所トノ間ニ孰レモ同年十月二十日ヨリ爲換業務ヲ開始スルコトヽシ同月九日ヲ以テ其旨ヲ大藏大臣ニ上申シ並ニ關係支店出張所ニ達セリ

本行大阪支店ハ從來大阪市東區大川町六十番地ニ於テ營業シ來リシカ其後北區中ノ島一丁目二十三番地ニ地所ヲ購入シ尋テ明治三十一年十二月ヨリ家屋新築ニ着手シ三十六年一月ヲ以テ全ク工ヲ竣ヘタルニ依リ同月二十四日落成式ヲ擧行シ尋テ二月一日ヨリ新築家屋ニ移轉セリ依テ從來同支店ニ設置シアリタル臨時建築係ハ同年三月十五日限リ之ヲ廢止シ殘務ハ文書係ヘ引繼クヘキ旨同月十四日ヲ以テ同店ニ達セリ

廣島市ハ商工業上尚ホ見ルヘキモノ少シト雖師團及鎭守府ヲ控ヘ國庫金ノ出納極メテ頻繁ナルヲ以テ本行ハ將來此ニ由テ同地方ニ於ケル資金集散ノ便宜ヲ增進セン爲メ明治三十八年二月四日大藏大臣ニ對シ廣島縣下廣島ニ本行出張所ヲ設置シ日本銀行廣島出張所ト稱シ度旨ヲ稟請セシニ同月九日認可セラレタルヲ以テ同月十七日ヲ以テ廣島市水主町ニ新築事務所ヲ設置シ直ニ新築工事ニ着手セリ爾來着々工程ヲ進メ同年八月ヲ以テ全ク竣成シタルニ依リ愈々九月一日ヨリ水主町三十九番地ニ於テ營業ヲ開始スルコトヽシ八月七日ヲ以テ其旨ヲ大藏大臣ニ届出且本支店出張所ニ達セリ而モ開業當時ハ一般營業事務ヲ取扱ハス國庫國債事務ノ外ハ本業部ニ於テハ當分ノ內預金爲替幷保護預ノ業務ニ限リ取扱フコトヽシ而シテ國庫國債事務ハ從來本行ノ委託ニ依リテ取扱ヒタル住友銀行ヨリ悉皆引繼ヲ了シ新築事務所ハ八月三十一日限廢止シ殘務ハ文書係ニ引繼カシメタリ

然ルニ開業後約一歲ノ經驗ニ依レハ當初開業ノ際ハ日露戰役ニ對スル各種ノ關係未タ收マラサルモノアリシヨリ一時營業事務ヲ預金保護預及爲換ノ三種ニ限リタルモ同地ハ大阪門司間ニ於ケル經濟上最モ重要ナル都市ナレハ旣ニ同地ニ出張所ヲ設ケタル以上ハ全國各地資金ノ融通ヲ便ニシ

金利ノ均一低下ヲ圖ルノ點ヨリ當座貸定期貸幷ニ割引事務ヲモ併セテ取扱フヲ必要トシ明治三十九年九月一日ヨリ右ノ取扱ヲナスヘキ旨同年八月九日ヲ以テ本支店出張所ニ達セリ

小樽出張所ハ元派出所時代ノ建築ニ係リ事務ノ擴張ニ從ヒ自然改築ヲ要スルモノアルニ依リ明治三十九年六月十七日同區色內町十一番地ノ家屋ヲ借受ケ一時移轉シ又名古屋支店及京都出張所ハ曩ニ明治三十六年ヨリ營業所ノ新築ニ着手シ三十九年ニ至リ共ニ落成シタルヲ以テ同年七月名古屋支店ハ榮町六丁目一番地ニ、京都出張所ハ下京區三條通高倉西入菱屋町四十八番地ヘ移轉セリ

從來本行ハ北海道函館ニ支店ヲ置キ小樽札幌ノ兩所ニ出張所ヲ設ケタルモ時勢ノ推移ニ從ヒ同道ノ經濟上及金融上ノ勢力ハ漸次小樽ニ歸シ函館ハ之ニ比シ稍其重要ノ度ヲ減スルニ至リ且札幌ハ小樽ト近接シ經濟上互ニ密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ別ニ出張所ヲ置クノ必要ヲ感セサルニ至レリ是ニ於テ本行小樽出張所ヲ小樽支店ト北海道支店ヲ函館出張所ト改稱シ並ニ明治三十九年八月二十日ヨリ實施スルコトヽシ又札幌出張所ハ同年八月十九日限閉鎖シタキ旨八月三日ヲ以テ大藏大臣ニ稟請シ同七日認可ヲ得翌八日ヲ以テ其旨ヲ本支店出張所ニ達セリ又同月十一日ヲ以テ右改廢ニ關スル事務引繼方等ヲ北海道支店札幌小樽兩出張所ニ達セリ

尋テ明治四十年八月二十五日函館區大火ノ際本行函館出張所ハ金庫ヲ除クノ外全部燒失シタルヲ以テ直チニ假事務室ノ造築ニ着手シ二十八日ニ至リ取敢ス業務ヲ開始シ尋テ豐川町五十九番地ニ假營業所ヲ新築シ同年十一月四日ヲ以テ移轉セリ

從來保護預事務ニ就テハ事務取扱者ト現物保管者ト常ニ同一局又ハ係ニ屬シタリシモ此方法ハ本行一般ノ事務分掌上常例ニ反スルヲ以テ保護預事務取扱者ト保管者トノ局又ハ係ヲ異ニスルノ必

要アリ而モ本店株式局ニ於テハ局内ヲ二室ニ分チ事務者ト保管者トハ判然區畫アルヲ以テ本店ニ於テハ之ヲ從來ノ儘トシ支店出張所ニ於テノミ之ヲ區別スルヲ可トシ明治四十年十二月二十八日之ニ關スル内規ヲ改正シ翌四十一年一月六日ヨリ實施セリ

北陸地方ハ米穀、羽二重等重要物産ノ生産地ニシテ之ニ對シテ金融ノ便ヲ與フルノ途ヲ開クコトハ本行從來ノ懸案ナリシカ遂ニ地ヲ金澤市ニトシテ出張所ヲ設クルコトヽシ明治四十一年十二月十一日ヲ以テ大藏大臣ニ對シ北陸地方ノ便ヲ謀ル爲メ石川縣下金澤市ニ本行出張所ヲ設置シ日本銀行金澤出張所ト稱シタキ旨ヲ稟請セシニ同月十七日認可セラレタリ依テ翌四十二年三月十五日ヨリ金澤市石浦町七十番地ニ於テ營業ヲ開始スルコトヽシ二月六日ヲ以テ其旨大藏大臣ニ届出テ且之ヲ一般ニ達セリ

以上本行支店出張所派出所ノ沿革ニ就テ其大要ヲ述ヘタリ尚本行カ内外各地ニ於ケル國庫、國債、國庫預金部利子仕拂、兌換券ト金銀貨交換、損傷紙幣及兌換券引換、政府寄托金等ノ事務ヲ取扱ハシムルカ爲メ隨時代理店ヲ置キタルモ此等ハ各其契約並ニ取扱方ヲ異ニシ一率ニ記述シ難キモノアルヲ以テ玆ニ之ヲ略シ當該各事務ノ下ニ於テ分說スルコトヽセリ尚明治三十二年一月實施ノ内規第九章第二百十八條乃至第二百二十條ニ於テ代理店ニ關スル事項ヲ規定シタルヲ以テ就テ觀ルヘシ

次ニ以上述ヘタル支店出張所ニ關スル重要ナル事項ニ就キ各支店出張所ニ分チ其沿革ヲ摘載スレハ左ノ如シ

各支店出張所ノ沿革摘要

目次

第一　大阪支店
第二　岐阜出張所
第三　和歌山出張所
第四　札幌出張所
第五　函館出張所（北海道支店）
第六　根室出張所
第七　西部支店
第八　京都出張所
第九　臺北出張所
第十　名古屋支店
第十一　小樽出張所（小樽支店）
第十二　福島出張所
第十三　廣島出張所
第十四　金澤出張所

第一　大阪支店

年	月	日	摘要
一五	一二	一五	當店ヲ大阪府東區今橋通五丁目十一番地ニ設置シ資本金五十萬圓ヲ以テ

營業ヲ開始ス

一五　一二　一五　當店假條規ヲ定メ左ノ課、係ヲ置ク

文書課―庶務係、他店係、用度係

金庫課―出納係、預金係、爲換係、公債係

割引課―割引係、券書係、貸附係、

計算課

一六　五　二九　國庫金取扱假規程ヲ定ム

〃　六　二八　開業式ヲ擧行ス

〃　七　一　國庫課ヲ置キ掌金、掌計、支務ノ三係ニ分ツ

〃　〃　〃　國庫課處務假順序ヲ定ム

一七　六　〃　營業所ヲ大阪府東區大川町六十番地ニ移轉ス

〃　七　〃　國庫課處務順序ヲ定ム

〃　〃　三一　資本金ヲ九十萬圓ニ增加ス

一八　五　八　兌換券處分順序ヲ定メ金庫課出納係ヲシテ兌換券ニ關スル事務ヲ取扱ハシム

一九　三　一　金庫課中ニ兌換銀行券發行係ヲ置ク

〃　四　〃　國庫課中從前ノ係ヲ廢シ更ニ收支、國債、交換ノ三係ヲ置ク

二三　一　二〇　當店ノ組織ヲ改メ金庫、國庫、營業、公債、文書、計算ノ六係ヲ置ク

〃　二　一〇　金庫課ニ屬シタル地金買入事務ヲ營業係ニ移シ政府紙幣交換消却事務、諸手形現金取立事務ハ金庫係ヲシテ取扱ハシム

〃　四　一　國庫係事務假規程ヲ定ム

〃　〃　〃　金庫係國庫金取扱假順序ヲ定ム

二六　九　〃　組織改正支店ニハ適宜課ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

〃　一二　二三　資本金配置ヲ廢ス

三〇　四　一　本店直轄京都出張所ハ以後當店ノ所轄ニ屬ス

〃　六　〃　計算係ノ分掌事務ヲ擴張シ日記帳其他ノ記帳及監査ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ラシム

〃　九　三　臨時建築係ヲ置キ其規定ヲ定ム

〃　〃　〃　日本銀行支店條規ヲ定メ金庫、國庫、營業、公債、文書、計算ノ六係ヲ置ク

三一　四　一九　各係ノ事務取扱細則ヲ定ム

三二　一　一　內規改正及內規施行規定實施ノ結果當店組織ヲ變更シ營業、出納、國庫、文書、計算、證券ノ六係ヲ置ク

〃　〃　〃　當店所轄京都出張所ハ以後本店ニ直隸ス

三六　二　〃　新築家屋大阪市北區中ノ島一丁目二十三番地ニ移轉ス

〃　〃　〃　臨時建築係ヲ廢シ殘務ヲ文書係ニ引繼ク

第二　岐阜出張所

年	月	日	摘要
二四	四	一	當所ヲ岐阜市大字小熊下鐵屋町百九十二番戸ニ設置シ國庫金ノ出納保管諸公債事務並ニ爲換事務ヲ取扱ハシム
〃	〃	〃	出張所長職務權限並ニ出張所事務假規程ヲ定メ金庫、國庫、營業、文書ノ四係ヲ置キ事務分掌ヲ定ム
〃	五	六	貸付、擔保品付手形割引ノ取次及銀行手形買入ノ途ヲ開ク
〃	一〇	二八	當日ヨリ數日ニ亘ル岐阜地方大地震ノタメ御料局出張所内ニ避難シ仕拂金ノ事務ヲ處辨ス
二五	三	三一	當所廢止

第三　和歌山出張所

年	月	日	摘要
二四	四	一	當所ヲ和歌山市本町二丁目十一番地ニ設置シ國庫金ノ出納保管諸公債事務並ニ爲換事務ヲ取扱ハシム
〃	〃	〃	出張所長職務權限並ニ出張所事務假規程ヲ定メ金庫、國庫、營業、文書ノ四係ヲ置キ事務分掌ヲ定ム
〃	五	六	貸付、擔保品付手形割引ノ取次及銀行手形買入ノ途ヲ開ク
〃	四	一	和歌山出張所ヨリ岩出、橋本兩支金庫幷派出所ヘ行員ヲ派出セシメ同出張所ニ於テ之カ派出員ノ職務權限ヲ定ム
二六	二	一五	出張所長職務權限及事務假規程ヲ改正ス係別故ノ如シ
二七	三	三一	當所廢止

第四　札幌出張所

年	月	日	摘要
二六	四	一	當所ヲ札幌區南一條西一丁目一番地ニ設置シ國庫金ノ出納保管諸公債事務並ニ爲替事務ヲ取扱ハシム
〃	〃	〃	出張所長職務權限、事務假規程、出張所職員並ニ事務分掌ハ一般ノモノヲ其儘適用シ尙在北海道出張所特別規定ヲ定ム
〃	〃	六	當所派出員職務權限ヲ定ム
二八	七	一〇	從來本店ノ直轄ナリシ當所ヲ以後北海道支店ニ屬セシメ一般營業事務ヲ取扱ハシム
〃	八	二三	出張所長職務權限、事務假規程並ニ特別規定ヲ廢シ更ニ出張所長職務權限並ニ職員事務分掌ヲ定メ金庫、國庫、營業、文書ノ四係ヲ置ク
三〇	一	一	明治二十八年以降取扱ヒ來リタル一般營業事務ヲ廢シ爲替事務ノミヲ取

扱フ

三〇	五	一	計算係ヲ置ク
〃	九	三	日本銀行支店所轄出張所條規ヲ定ム係別故ノ如シ
三二	一	一	内規改正ノ結果當所組織ヲ變更シ營業、出納、國庫、文書、計算ノ五係ヲ置ク
〃	〃	〃	從來北海道支店ノ所轄ナリシ當所ヲ以後本店ニ直隷セシム但當所々屬ノ派出所ハ依然其所轄トシ三十年九月三日制定ノ支店派出所規定ヲ準用ス
〃	一〇	一五	爲替事務ノ外當座勘定取引ヲ開始ス
三九	八	一九	當所廢止

第五　函館出張所（北海道支店）

年	月	日	摘要
二六	四	一	當所ヲ函館區末廣町一番地ニ設置シ國庫金ノ保管出納、諸公債事務並ニ爲換事務ヲ取扱ハシム
〃	〃	〃	出張所長職務權限、事務假規程、出張所職員並ニ事務分掌ハ一般ノモノヲ其儘適用シ尚在北海道出張所特別規定ヲ定ム
〃	〃	六	北海道三出張所ノ公債事務ハ以後當所ニ於テ總括整理ス
〃	〃	一六	派出員職務權限及派出員心得ヲ定ム

第六　根室出張所

二八	七	九	當所廢止
〃	〃	一〇	北海道支店ヲ元函館出張所々在地ニ設置シ從來同所ニ於テ取扱ヒタル函館本金庫事務及公債事務ヲ北海道支店ニ引繼キ又從來根室出張所ニ於テ取扱ヒタル金庫及公債事務ハ當店ヨリ根室派出所ヲ設ケテ之ヲ取扱ヒ尚札幌出張所ハ以後北海道支店ノ所轄ニ屬ス
〃	〃	〃	北海道支店假條規並ニ特別規定ヲ設ケ金庫、國庫、營業、文書ノ四係ヲ置ク
三〇	六	一	計算係ヲ置ク
〃	九	三	日本銀行支店條規ヲ定メ金庫、營業、公債、文書、計算ノ六係ヲ置ク
〃	一一	一一	小樽派出所ヲ小樽出張所ト改稱シ當店ノ所轄トス
三二	一	〃	内規改正ノ結果當店組織ヲ變更シ營業、出納、國庫、文書、計算ノ五係ヲ置キ又當店所轄札幌小樽兩出張所ヲ本店ニ直隷ス且札幌出張所々屬派出所ハ依然其所轄トシ三十年九月三日制定ノ支店派出所規定ヲ準用ス
三九	八	二〇	當店ヲ函館出張所ト改稱ス
四〇	〃	二五	函館區大火ノ際當出張所亦類燒ノ厄ニ遭フ
〃	〃	二八	假事務室ヲ設ケテ業務ヲ開始ス
〃	一二	四	假營業所函館區豐川町五十九番地ニ移轉ス

年	月	日	摘要
二六	四	一	當所ヲ根室國根室本町三丁目七番地ニ設置シ國庫金ノ保管出納、諸公債事務並ニ爲換事務ヲ取扱ハシム
〃	〃	〃	出張所長職務權限、事務假規程、出張所職員並ニ事務分掌ハ一般ノモノヲ其儘適用シ尚在北海道出張所特別規定ヲ定ム
二八	七	九	當所ヲ廢止シ金庫及公債事務ヲ北海道支店根室派出所ニ引繼ク

第七　西部支店

年	月	日	摘要
二六	一〇	一	當店ヲ赤間關市大字西南部町三十七番屋敷ニ設置シ同日開業式ヲ擧行ス
二七	九	〃	公債事務ヲ取扱フ
三〇	五	〃	計算係ノ分掌事務ヲ擴張ス
〃	九	三	臨時建築係ヲ置キ其規定ヲ定ム
〃	〃	〃	日本銀行支店條規ヲ定メ金庫、國庫、營業、公債、文書、計算ノ六係ヲ置ク
三一	一〇	三〇	新築家屋福岡縣企救郡門司町大字門司町字本町三十番地ニ移轉シ三十一日ヨリ同所ニ於テ營業ヲ開始ス
〃	一二	〃	臨時建築係ヲ廢シ殘務ヲ文書係ニ引繼ク

三二	一	一	內規改正ノ結果當店組織ヲ變更シ營業、出納、國庫、文書、計算ノ五係ヲ置ク

第八　京都出張所

年	月	日	摘要
二七	四	一	當所ヲ京都市上京區東洞院通リ御池上ル船屋町第十六番戶ニ設置シ國庫金ノ保管出納、諸公債事務並ニ爲換事務ヲ取扱ハシム
〃	〃	〃	既定ノ出張所長、職務權限ハ其儘適用シ事務假規程ハ其一部ヲ改正シ金庫、國庫、營業、文書ノ四係ヲ置ク
三〇	〃	〃	本店直轄ナリシ當所ヲ以後大阪支店ニ屬シ從來ノ業務ノ外貸付、割引等一般ノ業務ヲ開始ス
〃	〃	〃	出張所長職務權限及事務假規程ヲ廢シ大阪支店所轄京都出張所長職務權限及同職員並ニ事務分掌ヲ定ム係別故ノ如シ
〃	〃	〃	計算係ヲ置ク
〃	六	〃	日本銀行支店所轄出張所條規ヲ定ム係別故ノ如シ
〃	九	三	內規改正ノ結果當所組織ヲ變更シ營業、出納、國庫、文書、計算ノ五係ヲ置ク又從來當所ハ大阪支店所轄ナリシカ以後本店ニ直隷セシム
三一	一	一	新築家屋京都市下京區三條通高倉西入菱屋町四十八番地ニ移轉ス
三九	七	八	

第九　臺北出張所

年	月	日	摘要
二九	一二	一	當所ヲ臺北西門街ニ設置シ國庫金ノ出納、保管、諸公債事務並ニ爲換事務ヲ取扱ハシム
〃	〃	〃	出張所長職務權限及職員並ニ事務分掌ヲ定メ金庫、國庫、營業、文書ノ四係ヲ置ク
三〇	五	二一	計算係ヲ置ク
〃	九	三	日本銀行出張所條規ヲ定ム係別故ノ如シ
三二	一	一	内規改正ノ結果當所組織ヲ變更シ營業、出納、國庫、文書、計算ノ五係ヲ置ク
〃	九	三〇	當所ヲ廢止シ金庫及公債事務ハ十月一日以降臺灣銀行ニ委囑ス

第十　名古屋支店

年	月	日	摘要
三〇	三	一	當店ヲ名古屋市新柳町六丁目二十一番戸ニ設置シ當店假條規及特別規定ヲ設ケ金庫、國庫、營業、公債、文書ノ五係ヲ置ク
〃	四	二五	開業式ヲ擧行ス
〃	六	一	計算係ヲ置ク
〃	九	三	日本銀行支店條規ヲ定ム係別故ノ如シ

年	月	日	摘要
三二	一	一	内規改正ノ結果當店組織ヲ變更シ營業、出納、國庫、文書、計算ノ五係ヲ置ク
三八	三	二七	内規施行規定ヲ改正シテ證券係ヲ置ク
三九	七	一五	新築家屋名古屋市榮町六丁目一番地ニ移轉ス

第十一　小樽出張所（小樽支店）

小樽出張所事務開始前沿革摘要

年	月	日	摘要
一	明治二十六年四月一日小樽派出所ヲ設置シ金庫及公債事務ヲ取扱ハシム		
一	明治三十年一月一日爲換其他ノ業務ヲ開始ス		
一	同年九月三日日本銀行支店派出所規定ヲ定ム		
三〇	一一	一	小樽派出所ヲ小樽出張所ト改稱シテ北海通支店ノ所轄トシ從前ノ位置後志國高島郡色内町七十八番地ニテ業務ヲ開始シ既定ノ支店所轄出張所條規及北海道支店特別規定ヲ適用シ金庫、國庫、營業、文書、計算ノ五係ヲ置ク
三二	一	〃	内規改正ノ結果當所組織ヲ變更シ營業、出納、國庫、文書、計算ノ五係ヲ置ク
〃	〃	〃	從來北海道支店ノ所轄ナリシ當所ヲ以後本店ニ直隷セシム但當所々屬ノ派出所ハ依然其所轄トシ三十年九月三日制定ノ支店派出所規定ヲ適用ス
三九	六	一七	小樽區色内町十一番地ニ移轉ス

三九	八	二〇	當出張所ヲ小樽支店ト改稱ス	

第十二　福島出張所

年	月	日	摘	要
三二	七	一五	當所ヲ福島縣信夫郡福島町大字福島字本町二十三番地ニ設置ス	

第十三　廣島出張所

年	月	日	摘	要
三八	九	一	當所ヲ廣島市水主町三十九番地ニ設置ス但一般營業事務ヲ取扱ハス國庫、國債事務ノ外ハ當分ノ内預金爲換幷ニ保護預ノ業務ニ限リ取扱フ是ヨリ先三十八年二月十七日當所新築事務所ヲ置キタリシカ同年八月三十一日限リ廢止シ殘務ヲ文書係ニ引繼ク	
三九	〃	〃	從來ノ營業事務ノ外更ニ當座貸、定期貸並ニ割引事務ヲ取扱フ	

第十四　金澤出張所

年	月	日	摘	要
四二	三	一五	當所ヲ金澤市石浦町七十番地ニ設置ス	

第四章　資本金株式及利益金

第一節　資本金及株式

本行資本金ハ初メ條例及定款ヲ以テ一千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株二百圓トセリ但政府ノ命令ニ依リ資本金ヲ增加シ若クハ株主總會ノ決議ニヨリ政府ノ許可ヲ歷ルニ於テハ增加スルコトヲ得ルモノトシタリ而シテ資本金一千萬圓ノ中五百萬圓ハ政府ニ於テ之ヲ引受ケ其他ノ五百萬圓ハ之ヲ一般公衆ヨリ募集シ明治十五年九月十五日ヨリ同三十日迄ニ第一回入金トシテ一株ニ付金四十圓宛ヲ拂込マシメ其入金受取方取扱ヲ大阪ハ同地出納局ヘ其他ハ東京第一及第三國立銀行、三井銀行横濱第二國立銀行ヘ囑托セリ今第一國立銀行外二行ト締結シタル約條書全文ヲ揭クレハ左ノ如シ尤第二國立銀行ニ對シテハ別ニ約條書ノ交換ナカリキ

日本銀行第一回入金請取方取扱ヲ第一國立銀行第三國立銀行三井銀行ヘ囑托スルヲ以テ日本銀行創立委員ト右銀行頭取支配人ト左ノ條件ヲ締約ス

一　各株主ヨリ爲換或ハ現金ヲ以テ振込タル第一回入金ハ總テ無手數料ヲ以テ取扱ヲナス事

一　前條第一回株金振込タルトキハ別紙株主名簿ニ照合シ入金取計其旨日本銀行創立事務所ヘ報知スヘシ事務所ニ於テハ株主報告幷各銀行ヨリ各銀行ヘ送附スル事

一　入金ニ對スルノ抵當ヲ要セサルモ凡金拾萬圓ニ滿タルトキハ創立委員立會ノ上封印ヲ爲シテ

保護預ヲナスヘキ事

一　前條金員ヲ引出スキハ創立委員ヨリ報通スヘキヲ以直チニ該金額ヲ送附シ曩キノ入金報告書ト現金ノ引替ヲナスヘキ事

一　火盜難ハ勿論何等ノ變ヲ生スルモ銀行預中ノ損害ハ該銀行ノ損失タルヘシ尤防禦スヘカラサル非常ノ災害ノ爲メニ受ル損害ハ此限リニアラサル事

一　日々ノ入金ハ翌日午前十時限リ其名簿ヲ造リ金額株數ヲ記シテ事務所ヘ通報スル事

一　入金取扱ニ關スル人名幷印章ハ互ニ回附シ置ヘキ事

右條々約定候ニ付本書四通ヲ作リ記名調印ノ上壹通ハ日本銀行創立事務所三通ハ各銀行一通宛ヲ藏メ置者也

明治十五年九月十五日

日本銀行創立委員

大藏大書記官　富田鐵之助

第一國立銀行頭取

澁澤榮一

同　支配人

佐々木勇之助

第三國立銀行頭取

安田善次郎

同　支配人

安田忠兵衛

三井銀行副長

西邑虎四郎

同　元締

齋藤專藏

明治十五年十月十二日曩ニ株金收入ニ關スル一切ノ事務ハ一旦株式局ヨリ金庫局ニ引繼クコトヽシタルモ入金殘額僅ニ四萬八千二百圓ヲ剩スニ過キサルニ中途ニシテ一切ノ事務ヲ引繼クモ却テ錯雜ノ恐アルニ依リ入金報告及領收證送致等ニ係ル事務ハ第一回株金收入濟ニ至ル迄株式局ニ於テ取扱ヒ納金受理ノ手續ノミ金庫局ニ於テ取扱フコトヽ定メタリ

初メ本行株式募集ノ際一旦十株以下申込ノ分ヲ受付タルモ十株以下ノ株主ハ株主總會ニ列スルノ權理ナク又創立ノ際殊ニ條例並定款ニ據リ大藏卿ノ許可ヲ要スル等彼此募集上ノ都合ニヨリ初メ一回丈ハ十株以上招募ノコトヽシ尚數名合同シテ十株以上ヲ申込ミタル者ハ特ニ之ヲ受付クルコトニ決シ政府ノ許可ヲ得明治十五年八月十九日ヲ以テ十株以下申込ノ加入願書ヲ返付シタルニ其後數名合同申込者ノ中數名ニ分割ヲ申出ツルモノアリ若シ之ヲ許可スルニ於テハ自然一人ノ持株十株以下ニ下リ曩ノ決定ニ牴觸スルコトヽナルモ是素ヨリ普通ノ賣買讓與ニ係ルモノト其性質ヲ異ニスルニ依リ第一回株金拂込後株券附與前ニ分割ヲ申出タルモノハ假令之ニ依リ十株以下ニ下ルモ曩ニ共同申込ヲ許可セラレタル時分割モ自然認可セラレタルモノト看做シ特ニ各自ノ請求ニ

應シ株券ヲ付與シ差支ナキモノト認メ明治十五年十一月一日監理官ニ協議シタルニ翌二日同官ヨリ其筋ヘ上申認可アリタル旨回答アリタリ

又本行株主タルモノヽ身分職業ニ就テハ條例中何等ノ明文ナク而シテ明治八年太政官第六十五號達幷ニ同十四年第三十七號達ニハ官吏カ商業ヲナシ若クハ或特定ノ會社ノ株主タルコトニ關スル規定アルモ元來本行ノ性質タル他ノ銀行會社ト異ルモノアルヲ以テ前分職業ノ如何ヲ問ハス本行ノ株主タルヲ得ヘキモノト思惟セラルヽモ尚念ノ爲メ明治十五年十一月十日ヲ以テ大藏卿ニ伺出タルニ同十三日伺ノ通ト指令アリタリ

一般ヨリ募集シタル第一回株金ハ同年九月十五日ヨリ追々拂込アリ政府引受ノ分モ十月二日ヲ以テ下付セラレタルモ本行創立事務所ニハ未タ金庫ノ設備ナキニ依リ當分ノ内大藏省出納局ヘ預ケ置收支共切符ヲ以テ受授シタキ旨同局ヘ照會シテ其同意ヲ得爾來十二月末ニ至リ第一回拂込二百萬圓ハ全部入金アリタルニ依リ十二月二十六日第一國立銀行外二行トノ契約ヲ解キ第二國立銀行及出納局ヘ從來取扱ノ勞ヲ謝シ第一回株金收入事務ハ茲ニ全ク結了ヲ見ルニ至レリ

是ニ於テ本行ハ大藏省印刷局ニ依頼シテ本行假内規第一條所定ノ假株券ヲ調製シ明治十六年二月一日ヨリ本店及大阪支店ニ於テ各株主ニ對シ假株券ノ交付ヲ開始シ並ニ政府加入ノ分ニ對シテモ同月二十六日ヲ以テ假株券ヲ上呈セリ今假株券ノ雛形並ニ假株券交付府縣別枚數人員表ヲ掲クレハ左ノ如シ

日本銀行株式假券狀(政府ヘ上呈シタル分)

第二萬五千一號ヨリ第五萬號ニ至ル)

一　株式二萬五千箇　　一株ニ付金二百圓

此第一回入金一百萬圓

但明治十五年十月五日御入金

日本銀行定款第八條ニ準據シ當銀行資本金一千萬圓ノ内半額金五百萬圓即チ二萬五千株ヲ政府ニ於テ御引受相成候ニ付テハ其株主タルノ權理ヲ證スル爲メ大藏省國債局長ヘ此假券狀ヲ及御渡候尤モ御入金ノ都度此假券狀ヲ書換置キ本券狀ハ追テ全額御入金ノ上引換可及御渡候也

日本銀行總裁

同　文書局長

副　總　裁

同　株式局長

理　事

明治十五年十月十日

（表）

第　　號

東京　銀本日

株式假券狀

有限責任

金　貳百圓

資本金壹千萬圓

此株金貳百圓ノ內現入金高左ノ如シ

第一回金	第二回金	第三回金	第四回金	第五回金	第六回金	第七回金	第八回金
明治　年　月　日入金	明治　年　月　日入金	明治　年　月　日入金	明治　年　月　日入金	明治　年　月　日入金	明治　年　月　日入金	明治　年　月　日入金	明治　年　月　日入金

明治十五年六月二十七日太政官第三十二號ヲ以テ布告セラレタル日本銀行條例ヲ遵奉シ且其定款ヲ確守シ當行資本ノ內貳百圓即チ壹株ノ持主タルノ權理ヲ證スル爲メ此假券狀ヲ付與ス尤モ本券狀ハ追テ全額入金ノ上此假券狀ト引換ニ付與ス可キモノ也

明治　年　月　日

總裁

日　文書局長

副總裁

株式局長

理事

殿

年月日	番號	株主住所	株主姓名	

（裏）

株主心得摘要

一株金拂込ノ期ニ至テハ其拂込ムヘキ金額ニ此株券ヲ添ヘテ銀行ヘ持參シ表面入金欄内ニ主務役員ノ證印ヲ受クヘシ

一若シ其期限ニ入金ヲ怠リタルトキハ過怠金トシテ其期ノ募集金額十分ノ一ヲ增納セシムヘシ若又二ケ月ヲ經テ猶入金セサルトキハ其株券ヲ賣拂ヒ其代金ヨリ其期ノ募集金過怠金並ニ其賣拂ニ係ル費用ヲ差引キ餘扈アレハ原株主ニ還付シ不足ハ尙ホ之ヲ追徵スヘシ

一此株券ヲ賣却又ハ讓與セントスルトキハ賣方ヨリ書面ヲ以テ其旨ヲ銀行ニ請求シ銀行ハ大藏卿ノ許可ヲ經テ之ヲ當人ヘ通報スヘシ此通報ヲ受ケタル上賣買又ハ讓與ノ證書ヲ作リ雙方連印ヲ爲シ株券ヲ添ヘテ銀行ニ差出スヘシ而シテ銀行ニテハ之ヲ帳簿ニ記入シ且ツ主務役員左ノ欄内ニ證印ヲ爲シタル上之ヲ還付スルモノトス

一此株券ヲ失ヒタルトキハ事實ヲ明記シタル書面ヲ作リ二人以上ノ證人ヲ立テ銀行ヘ届出更ニ新株券ヲ請求スヘシ但新株券書替ニ付テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ手數料ヲ拂フヘシ

年月日	賣渡人名印	買受人名印	總裁名印	文書局長名印	株式局長名印

（面）

雛形證明

一　行印ヲ除キ役員姓名捺印ハ初ヨリ印刷ノコト

一　入金月日ハ入金領收ノ日付ニ關ハラス本行開業五日以前即明治十五年十月五日トスルコト

一　株券交付月日ハ本行開業ノ日即明治十五年十月十日トスルコト

一　取扱主任ハ株式課長記名トスルコト

一　住所姓名ハ豫テ伺定ノ通

一　私立銀行又ハ會社等ハ何府縣何區何町何丁目何何銀行頭取若クハ會社長殿又ハ何府縣何國何郡何村何々銀行頭取若クハ何會社長殿トスルコト

各府縣別假株券交付枚數及人名表

府縣別	株券枚數	人員	府縣別	株券枚數	人員
東京府	七、六六五	九八	愛知縣	六五〇	二八
神奈川縣	一、五一五	二〇	静岡縣	五一〇	一七
埼玉縣	二五	一	山梨縣	七〇	三
千葉縣	二五〇	一	岐阜縣	三〇〇	一二
栃木縣	五〇	一	青森縣	二〇	二
新潟縣	三〇五	三	長野縣	二〇五	一一
三重縣	一一〇	一	宮城縣	四七	三

府縣別	株券枚數	人員
石川縣	三二五	六
茨城縣	一一五	八
以上本店渡計	一二、一六二	二二二
大阪府	五、〇一〇	一二〇
京都府	二、四六五	一一一
兵庫縣	一、四三五	二一
岡山縣	一〇	一
愛媛縣	二五	一
高知縣	六〇	一
福岡縣	六〇	二
鹿兒島縣	二三〇	三
德島縣	四三〇	二
滋賀縣	二、六九五	八一
長崎縣	一四〇	三
島根縣	二五	一
廣島縣	五〇	一
和歌山縣	八八	二
熊本縣	一〇	一
福井縣	二〇五	七
以上大阪支店渡計	一二、八三八	三五八
總計	二五、〇〇〇	五八〇

株金第二回以後ノ入金ニ就テハ本行假内規第一條並ニ株券裏面ニ記載セル心得摘要第一項ニ從ヒ株主ハ金員ニ株券ヲ添ヘ本行ヘ持參シ表面入金欄内ヘ記入並ニ主務役員ノ證印ヲ受クヘキ成規ナルモ拂込ノ都度株券ヲ持參若クハ遞送スルハ株主ニ取リ手數出費少カラサルニ付本行ニ於テハ之カ便宜ヲ圖リ拂込期毎ニ本行ヨリ指示スル各地銀行ニ於テ拂込金ヲ領收セシメ株主ハ右銀行ヨリ發スル受取書ヲ本行ヘ送達シ本行ハ之ニ對スル領收證ヲ交付シ置キ追テ株主ハ自己ノ適宜ニ任セ何時タリトモ株券ニ該領收證ヲ添ヘ本行ヘ持參若クハ遞送スルトキハ本行ハ成規ノ通株券表面入

金欄内へ記入シ主務役員ノ證印ヲ捺シテ還付スルコトヽ定メ明治十六年一月十六日領收證雛形其他ノ事項ヲ附記シタル通知書ヲ發シ株主ヲシテ第二回以後ノ拂込ヲ簡易ナラシメタリ今左ニ第二回乃至第四回株金拂込豫定月日並ニ完了月日ヲ記セハ左ノ如シ

	一株拂込額	毎回拂込總額	拂込豫定月日	拂込完了月日
第二回	二〇	二、〇〇〇、〇〇〇	自十六年五月十五日至同年同月廿一日	十六年七月十七日
第三回	二〇	二、〇〇〇、〇〇〇	自十六年十月一日至同年同月十五日	十六年十一月五日
第四回	二〇	二、〇〇〇、〇〇〇	自十七年五月十五日至同年同月廿一日	十七年六月十二日

斯ノ如クシテ定款第九條ニ規定セル四回ノ拂込ハ全部完了シ本行ノ拂込資本金ハ右四回ヲ通シテ合計五百萬圓トナレリ

明治十七年十二月十九日太政大臣ハ大藏省ニ達スルニ政府所有ノ本行株式ハ來明治十八年一月ヨリ宮内省ニ引渡スヘキ旨ヲ以テセラレ尋テ明治十八年二月二十日大藏卿ハ本行ニ向テ右株金ノ帝室資産ニ屬セラレタルニ付テハ株券名義ハ内藏頭ト改ムヘキ旨ヲ達セラレタリ是ニ於テ從來政府所有ノ株金五百萬圓内拂込濟二百五十萬圓拂込未濟二百五十萬圓株數二萬五千株ハ凡テ書替ヲ了シ爾後帝室ノ資産ニ變更セリ

然ルニ本行ニ於テハ右ニ關シ取扱方疑義ニ渉ルモノアリシヲ以テ同年三月二十七日左ノ二廉ニ就キ大藏卿ニ向テ至急何分ノ指令アリタキ旨ヲ伺出タリ

一　帝室御所有之本行株券ニ對シ純益金計算方即チ定款第三十六條及ヒ昨十七年一月請願面ニ同二月十四日付御指令之廉等如何樣相心得可然哉（本章、利益金分ノ部參照）

一　株券ニ屬スル總テノ權利義務ハ定款第十八條之通リ相心得ヘキヤ果シテ然ラハ爾今定式及臨時株主總會ニ於テ要スル招集狀報告等ハ内藏頭ヲ宛相發スヘキ哉

右ニ對シ四月七日付第三百五十六號ヲ以テ

第一項　總テ政府所有中ト同樣ニ相心得定款第三十六條第二項政府ノ文字ヲ帝室ト更正致スヘシ

第二項　伺之通

ト指令アリタリ

本行ノ業務ハ創業後一二年ノ間ハ資金潤澤ヲ告ケ寧ロ放資ノ途ナキニ苦ムノ狀況ナリシカ爾後業務追々伸張シ殊ニ政府發行ノ紙幣交換處分ノ爲メ本行兌換券ノ增發トナリ事業ニ對シテ資力ノ稍薄弱ナルヤノ感アルニ至リシヨリ明治二十年二月ノ株主總會ニ於テ現在ノ資本金一千萬圓ノ外更ニ一千萬圓ヲ增加スルノ議題ヲ提出セリ

明治二十年二月十九日株主總會議題

一　本行現在ノ資本金壹千萬圓ヘ更ニ壹千萬圓ヲ增加シ新タニ株券ヲ發行スル事

此方法

第一項　增加新株ハ現在ノ株式同樣其數ヲ五萬株ニ分チ壹株ノ金額ヲ貳百圓ト定ムル事

第二項　增加株金ハ壹株ニ付百圓宛總計五百萬圓ヲ此際募集シ殘半額ハ現在ノ株式同樣定款第九條ノ末項ニ從ヒ未拂殘額ト爲シ置ク事

第三項　增加新株ハ價格ヲ定メテ發賣シ而シテ其價格ヲ百七拾五圓トシテ現在ノ株主ニ於テ

之ヲ引受クルモノトス

右ニ由テ生スル處ノ差益ハ本行積立金ニ組入ルヘシ

但事故アリテ募集ニ應シ難キ株主ニ對スル分ハ他ノ株主ニ於テ引受クヘシ

第四項　増加株金ノ拂込ミハ本年六月幷ニ十二月ノ兩度トシ其割合及期限ヲ左ノ通定ムル事

第一回　一株ニ付　五拾圓　此發賣價格八拾七圓五拾錢

右ハ明治二十年六月十五日ヨリ同月三十日迄ニ入金

第二回　一株ニ付　五拾圓　此發賣價格八拾七圓五拾錢

右ハ明治二十年十二月十五日ヨリ同月三十一日迄ニ入金

以上

日本銀行

議題說明

本行現在ノ資本金ハ全額壹千萬圓ニシテ實際拂込ノ額ハ其半額即チ五百萬圓ナリ然ルニ業務益々擴張シ殊ニ兌換券ノ發行高次第ニ巨額ニ及フヘキノ實況ナルニ付現在ノ資本高ハ之ヲ事業ニ比スレハ到底不足ニシテ甚タ權衡ヲ失セリ依之今般更ニ壹千萬圓ヲ增加シ前後通計貳千萬圓ノ資本ト爲サンコヲ必要トス尤現在株式ノ拂込殘額五百萬圓ヲ追募スレハ實力ニ於テ妨ケナキニ似タリト雖モ然ルトキハ全體ノ資本總額ニ多キヲ加ヘサルカユヘ尙不權衡ノ嫌ヲ免カルヽ能ハス此則チ前陳資本金ノ增加ヲ必要ナリトスル所以ナリ

此增加資本募集ノ方法ニ至テハ一ニ泰西ノ例證ニ準據シ稱價ト發賣價格トヲ區別シ稱價百圓ノ壹株ヲ價格百七拾五圓（客年來ノ時價ヲ斟酌シテ定メシモノナリ）ニテ發賣シ由テ生スル處ノ差益ハ本行積立金ニ編入スルモノトシ而シテ新株ハ悉皆之ヲ現在（二月十九日）ノ株主各位ヨリ募集スルコトナサントス此發賣價格ト稱價トヲ區別セシ理由ハ資本額ノ增加スルニ隨テ共ニ積立準備ノ增殖ヲ謀ルハ行務上最モ緊要ノコトナルヲ以テナリ是レ蓋シ株主各位ニ對シテ最モ公正ナル處分ニシテ實ニ西曆千八百五十七年佛蘭西ノ中央銀行ニ於テ其資本ノ倍額ヲ增募シ又千八百七十三年白耳義ノ中央銀行ニ於テモ同樣ノコトヲ擧行セシ時ノ的例ヲ引用セシモノナリ

右資本增加新株發行ノ義ハ本行重役集會及ヒ銀行總會ニ於テ必要ナリト認定セシヲ以テ條例第四條幷ニ定款第七條ニ據リ爰ニ本會ニ提出シテ各位ノ討議ニ付ス可決セラルヽニ於テハ直ニ政府ニ請願シテ其許可ヲ仰カント欲スルナリ

右議題ヲ株主總會ノ討議ニ付シタルニ出席權理數七百三十四個ノ內一個ヲ除キ盡ク贊成可決トナリ條例第四條並ニ定款第七條ニ據リ同日直ニ許可ヲ大藏大臣ニ請願シタルニ同大臣ハ之ヲ閣議ニ提出シテ其同意ヲ得三月十四日本行願ノ趣ヲ允許シ翌十五日第三十號告示ヲ以テ其旨ヲ公示セラレタリ

是ニ於テ本行ハ同日ヲ以テ株主ニ報スルニ各自引受クヘキ增加株數ヲ申込用紙ニ記入シ記名調印ノ上來ル四月十日迄ニ申込ナキニ於テハ引受ナキモノト看做シ他ノ株主中ヘ引受ケシムヘク尙各自引受株數ハ總株主ヨリ申込ノ整理完了確定ノ上更ニ通報スヘキ旨ヲ以テシ豫定ノ如ク明治二十年六月十五日ヨリ同三十日迄ニ第一回ノ拂込金一株ニ付五十圓此發賣價格八十七圓五十錢ヲ本店又ハ大阪支店ニ拂込マシメタルニ依リ增加株式五萬個ニ對スル第一

回拂込金四百三十七萬五千圓(内二百五十萬圓ハ株金百八十七萬五千圓ハ差金ハ悉皆入金濟トナレリ)

是ヨリ先資本金及株數增加ノ義允許セラルヽヤ追テ新株主ヘ交付スヘキ株券ノ雛形ヲ定メ從來ノ株券ニ左ノ改正ヲ加ヘタリ

第一　額欄及ヒ繼手欄ノ内假ノ字ヲ除ク事

(前ニ附與セシ株券狀ハ入金本額ニ充ツルノ時本券狀ト交換スヘキ趣向ナレトモ實際上別ニ眞假ヲ別ツヘキノ必要アルコトナシ故ニ今般附與スヘキ分ハ假ノ字ヲ除却シ則チ本券狀ト爲ス事)

第二　入金記載ノ欄ヲ七行ト爲ス事

(第一回第二回ノ入金合シテ百圓トナル殘額百圓ヲ二十圓宛拂入ルヽモノトシテ之レカ爲メニ五行ヲ設ク)

第三　株主タルノ權理ヲ證スル文言ヲ從來ノ券狀ヘ掛ケ紙ノ通改ムル事

(掛紙)明治二十年二月十九日株主總會ノ決議ニ據リ大藏大臣ノ允許ヲ得テ當行資本金一千萬圓ヲ增加シ總額二千萬圓ト爲シタルニ付　殿儀明治十五年六月廿七日太政官第三十二號ヲ以テ布告セラレタル日本銀行條例ヲ遵奉シ且其定款ヲ確守シ右資本ノ内二百圓即チ一株ノ持主タルノ權理ヲ證スル爲メ此券狀ヲ付與スルモノ也

第四　入金第一回分記載ノ欄ヘ金五十圓ヲ不動文字ニ印刷スル事

第五　券面ノ年月日ハ明治十五年　月　日トアルヲ明治二十年六月三十日ト改ムル事

第六　枠模樣其他ニ屬スル字模樣ノ色ヲ變更スル事

第七　裏面株主心得摘要第三項大藏卿トアルヲ大藏大臣ト改ムル事

增加株式券狀ハ其番號ヲ五萬號ヨリ十萬號迄ト爲シ五萬一號ヨリ七萬五千號迄ヲ帝室御所有株二萬五千株ノ分トシ七萬五千一號ヨリ十萬號迄ヲ人民持株ノ分ト爲ス事

（表）

第　號

東　日本銀

有限責任　金

年月日	明治年月日	番號
株主姓名		株主住所
		取扱主任

日本銀行株式券狀

此株金貳百圓ノ內現入金高左ノ如シ

第一回金五拾圓	明治年月日入金	第二回金	明治年月日入金	第三回金	明治年月日入金
第四回金	明治年月日入金	第五回金	明治年月日入金	第六回金	明治年月日入金

（面）

輪廓並截斷部ハ茶褐色他ハ黑色

資本金株式及利益金　資本金及株式

No.

京　行株式券狀

資本金貳千萬圓　貳百圓

明治二十年二月十九日株主總會ノ決議ニ據リ大藏大臣ノ允許ヲ得テ當行資本金壹千萬圓ヲ增加シ總額貳千萬圓ト爲シタルニ付　殿儀

明治十五年六月廿七日太政官第三十二號ヲ以テ布告セラレタル日本銀行條例ヲ遵奉シ且其定欵ヲ確守シ右資本ノ內貳百圓即チ壹株ノ持主タルノ權理ヲ證スル爲メ此券狀ヲ付與スルモノ也

第七回金	明治年月日入金

（裏）

株主心得摘要

一株金拂込ノ期ニ至ラハ其拂込ムヘキ金額ニ此株券ヲ添テ銀行ヘ持參シ表面入金ノ欄内ニ主務役員ノ證印ヲ受クヘシ

一若シ其期限ニ入金ヲ怠リタルトキハ過怠金トシテ其期ノ募集金額十分ノ一ヲ增納セシムヘシ若シ又二ケ月ヲ經テ猶入金セサルトキハ其株券ヲ賣拂ヒ其代金ヨリ其期ノ募集金過怠金並ニ其賣拂ニ係ル費用ヲ差引キ餘贏アレハ原株主ニ還付シ不足ハ尙ホ之ヲ追徵スヘシ

一此株券ヲ賣却又ハ讓與セントスルトキハ賣方ヨリ書面ヲ以テ其旨ヲ銀行ニ請求シ銀行ハ大藏大臣ノ許可ヲ經テ之ヲ當人ヘ通報スヘシ此通報ヲ受ケタル上賣買又ハ讓與ノ證書ヲ作リ雙方連印ヲ爲シ株券ヲ添ヘテ銀行ニ差出スヘシ而シテ銀行ニテハ之ヲ帳簿ニ記入シ且ツ主務役員左ノ欄内ニ證印ヲ爲シタル上之ヲ還付スルモノトス

一此株券ヲ失ヒタルトキハ事實ヲ明記シタル書面ヲ作リ二人以上ノ證人ヲ立テ銀行ヘ届出更ニ新株券ヲ請求スヘシ但新株券書替ニ付テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ手數料ヲ拂フヘシ

年月日	賣讓渡人名印	買受人名印	總裁名印	文書局長名印	株式局長名印

（面）

又株主住所姓名ノ記載方ハ個人ノ分ハ何府縣何郡區何町村何ノ誰ト記載シテ國名番地ヲ省キ銀行會社ノ分ハ何府縣何郡區何町何銀行又ハ會社頭取若クハ社長殿ト記載シテ姓名ヲ省クコトヽ定メ明治二十年六月二十三日各株主ニ通知スルニ本店又ハ大阪支店ニ於テ第一回株金領收證ト引換ニ株券ノ交付ヲナスヘキ旨ヲ以テシ爾來漸次交付ヲ了セリ

尋テ第二回ノ拂込金ハ豫定ノ如ク明治二十年十二月十五日ヨリ同三十一日迄ニ第一回同樣四百三十七萬五千圓(ハ差金)ノ入金アリタルニ依リ本行拂込資本金ハ前後ヲ通シ總テ一千萬圓トナリ差金三百七十五萬圓ハ悉皆積立金ニ振換タリ

明治二十三年八月二十日株式局事務取扱手續ヲ制定シ其第一條ニ於テ株券金額ノ記入ニ關スル手續ヲ揭載セリ（本章、株券賣買讓與及種類交換ノ部參照）

爾後明治二十八年日清戰役終ヲ告ケテ經濟財政ノ狀態頓ニ其面目ヲ一變シ本行業務モ益伸張ノ運ニ向ヒ從來ノ資本金ニテハ到底業務ト權衡ヲ得ル能ハサルニ至リシヨリ同年七月ニ至リ資本金一千萬圓ヲ增シテ通計三千萬圓トナシ而シテ新株ニ對スル第一回ノ拂込金一株ニ付百圓總計五百萬圓ハ金銀較差勘定ヨリ生スル利益金ヲ以テ充當セントシ株主總會ノ議ニ付スルノ前先ツ大藏大臣ニ向テ左ノ內陳ヲナシタリ

日清戰爭事件漸ク其局ヲ結ヒ候上ハ是ヨリ本行カ益々業務ヲ伸張シ經濟社會ノ輿望ニ副フハ國家ニ對スル義務ニ可有之然ルニ業務ノ伸張ハ實ニ資力ノ多少ニ伴フヘキヲ以テ先ツ資力ヲ增加シテ之カ鞏固ヲ圖ルハ今日ノ急務ニ可有之ト奉存候而シテ本行ノ資力タル現在株式ノ拂込殘額尙一千萬圓有之候ニ付之ヲ追募スレハ實力ニ於テ敢テ妨ル處無キカ如シト雖モ今ヤ兌換券ノ發行高モ次第ニ巨額ニ達スヘキヲ以テ資本ノ高ヲシテ事業ニ相當スルノ點ニマテ達セシメテ兩者ノ權衡ヲ保持スルハ寔ニ時勢ノ已ヲ得サル處ニ有之果シテ然ラハ本行カ內外ニ對スルノ責任彌重大ト相成候ヲ以テ尙何時ニテモ追募シ得ラルヘキ大餘地ヲ存シテ以テ益々信用ヲ鞏固ナラシムル義必要ト奉存候就テハ現在ノ資本金貳千萬圓ニ加フルニ更ニ壹千萬圓ヲ以テシテ總額ヲ參千萬圓トシ新ニ株券ヲ發行致度此新株ハ之ヲ五萬個ニ分チ舊株同樣一株ノ額面ヲ貳百圓トシ而シテ一株ニ付此際百圓(總額五百萬圓)ヲ拂込マシメ然ル後新舊兩種ノ株十五萬個ヲ通シテ之ニ對シテ更ニ又一株ニ付五拾圓宛(此總額七百五拾萬圓)ヲ追募シ全體ノ拂込總額ヲ貳千貳百五拾萬圓ト致度奉存候去ル明治二十年資本額ヲ增加シ株券ヲ發行致候際ニ於テハ其增株一個ニ付百七拾五圓ヲ拂込マシメ募集總金額八百七拾五萬圓ト相成候處當時積立金ノ薄弱ナリシヲ以テ右ノ內ヨリ參百七拾五萬圓ハ積立金ニ相加ヘ爲メニ此分ニ對シテハ素ヨリ利益ノ配當ヲナサス爾後積立金ハ漸次ニ強固ノ點ニ達シタル今日ニ於テハ最早右參百七拾五萬圓丈ケハ株金ニ引戻シ度旨一昨年來株主中ヨリ連署ヲ以テ申出ルト雖モ右ハ既ニ其性質モ一度相變シタル上ハ右樣ノ處分ハ法規ノ許ス限リニ無之去迚此上多額ノ拂込ヲ致サセ候テハ如何ニモ株主負擔ノ程察セラレ候義ニ御座候然ルニ今ヤ金貨ノ相場ニ於テ著シキ低落無之ト確信候處ニ備ヘンカ爲メ之ヲ設置タル義ニ有之然ルモノ有之其性質純益ニ外ナラス候ヘ共金貨相場ノ變動ニ備ヘンカ爲メ之ヲ設置タル義ニ有之然ルニ今ヤ金貨ノ相場ニ於テ著シキ低落無之ト確信候ヲ以テ今日較差勘定ノ幾分ヲ割テ株主負擔ノ一部ヲ補ヒ候ハ決シテ危險ノ業ニ無之ト被存候因テ右較差勘定ノ內ヨリ五百五拾萬圓ヲ引去リ之ヲ尋常純益ノ內ニ差加ヘ其內五十萬圓ハ成規ニ從ヒ積立金ト爲シ五百萬圓ハ通常配當ノ外ニ更ニ配當ヲ爲シ直ニ之ヲ新株第一回ノ拂込ニ轉用

セシムヘキ精神ニ有之候

右資本金増加ノ義ハ株主總會ノ討議ニ付シ其可決ヲ得タル上御許可出願可致候ヘ共一應右ノ事情内陳仕候也

右ハ大藏省ニ於テモ別ニ異議ナカリシニ依リ同年八月十七日ノ株主總會ニ増資案ヲ提出シ之ト同時ニ株金拂込方法幷ニ株主總會ノ議事法ニ關シ定款改正案ヲ提出セリ今其詳細ヲ掲クレハ左ノ如シ

明治廿八年八月十七日株主總會ニ提出セル増資案

一　本行現在ノ資本金貳千萬圓ヘ更ニ壹千萬圓ヲ増加シ新ニ株券ヲ發行スル事

此方法

第一項　増加新株ハ其數ヲ五萬株ニ分チ壹株ノ金額ヲ貳百圓ト定ムル事

第二項　増加株金ハ壹株ニ付百圓宛總計五百萬圓ヲ此際募集シ殘半額ハ現在ノ株式全様未拂殘額ト爲シ置ク事

第三項　増加新株第一回ノ拂込ハ二十八年上半季ニ於ケル特別配當金ヲ以テ之ニ充テ拂込金受拂ノ手續ヲ省略スル事

第四項　増加新株ハ各株主ヲシテ其持株ノ數ニ應シ之ヲ引受ケシム即チ其現在ノ持株二箇ニ對シ新株一個ヲ引受クヘキ割合トス端株一個ニ對シテハ其株主ノ望ニ依リ新株一個ヲ交附スル事

但シ端株ニ對シ新株一個ノ交付ヲ望ム者ハ金五十圓ヲ九月九日マテニ拂込ムヘシ若シ之ヲ爲サヽルキハ右端株ニ對シ新株ノ交付ヲ受クル權利ヲ失フモノトス

右資本増加新株發行ノ義ハ本行重役集會及銀行總會ニ於テ必要ナリト認定セシヲ以テ條例第四條幷ニ定款第七條ニ據リ爰ニ本會ニ提出シテ各位ノ討議ニ付ス可決セラルヽニ於テハ直ニ政府ニ請願シテ其許可ヲ仰カント欲スルナリ

議題說明

昨年七月日清開戰以來本行ハ軍資ノ運轉ニ就キ聊カ盡クス所アリシカ戰捷後ノ今日更ニ經濟社會ノ輿望ニ副ハントスルニ益々業務ノ伸張ヲ計ラサルヘカラス然ルニ業務ノ伸張ハ資力ノ多少ニ伴フヘキヲ以テ資力ノ増加ヲ求ムルハ實ニ今日ノ急務ナリトス現在株式ノ拂込殘額尚ホ壹千萬圓アルヲ以テ之ヲ追募スレハ實力ニ於テ妨クル所ナキカ如シト雖モ兌換券ノ發行高モ漸次増加スヘキヲ以テ資本高ヲ事業ニ相當スル點ニ達セシメ以テ兩者ノ權衡ヲ維持シ尚且何時ニテモ追募シ得ヘキ餘地ヲ保タシムルハ最モ肝要ノコトナリトス是レ資本金壹千萬圓増加ノ議ヲ提出スル所以ナリ

現在ノ株數ハ拾萬箇ニシテ増加新株ノ數ハ五萬箇トス即チ新舊ヲ通シテ株數拾五萬個トス新株一箇ニ付此際百圓ヲ募集シ殘額ハ現在ノ株式ト全一ニ追募スヘキモノトス

増加新株第一回ノ拂込ニ對シ本年上半季ニ於ケル特別割賦金ヲ轉用セントスル理由ハ此ノ特別割賦金タル單ニ金銀相場ノ變動ヨリ生セシ差益ニシテ普通營業上ノ利益トモ見做シ難ク全ク豫期セサリシ所ナルヲ以テ性質上悉ク之ヲ積立金ニ加フヘキ筈ナルヘケレモ去ル明治二十年資本金増加ノ時ニ當リ其拂込高ヲ壹株ニ付金百七拾五圓トシ其總額八百七拾五萬圓ヲ得其内參百七

拾五萬圓ハ直ニ積立金ニ加ヘシカ近年積立金モ漸ク增加シ實力十分ノ鞏固ヲ致セシカ爲メ株主中右參百七拾五萬圓ヲ株金拂込高ノ內ニ引戻サンアルニ至レリ此要求タル事情ニ於テハ無理ナラサレモ此ノ如キ處置ハ條例ノ許ササル所ナルヲ以テ已ムヲ得ス其儘之ヲ放置セリ然ルニ曩ニ金銀相場見込ノ定マラサル際ニ於テ金銀較差勘定ナル科目ヲ設ケテ之カ變動ニ備ヘシカ今ヤ金銀價格著シキ變動ナカルヘシト確信セシヲ以テ今後ノ豫備トシテ略々相當ノ額ヲ存シ置キ殘額五百五拾萬圓ヲ以テ利益トシ內五拾萬圓ヲ積立金ニ加ヘ餘ノ五百萬圓ヲ以テ特別配當ト爲シ之ヲ以テ株金拂込ニ轉用スルコトヽセハ本行ノ實力ニ於テ毫モ增減スル所ナクシテ株主年來ノ希望ニ沿ヒ今後短期日ノ間ニ追募セントスルモ七百五十萬圓(新舊共一株ニ付金五拾圓宛)ノ拂込ニ於テ別段ノ障碍ナクシテ圓滿ノ結果ニ至ルヘキヲ信スルナリ

各株主ハ現在ノ持株二箇ニ對シテ新株一箇ヲ引受ルノ割合トナルモ持株ノ端數ナル場合ニ於テハ其端數ニ對シ新株半箇ヲ交付スル能ハサルヲ以テ此株主ノ望ニ依リテハ端株ニ對シテモ新株一箇ヲ交付スヘシ而シテ此場合ニ於テハ特別割賦金ヲ第一回ノ拂込ニ轉用シテ尙五拾圓ノ不足トナルヲ以テ此不足額ヲハ一定ノ期限內ニ拂込マシムルモノトス若シ期限內ニ此拂込ヲ爲サヽルトキハ新株一箇ノ交付ヲ望マサルモノト見做シ此株主ニ對シテハ特別割賦金五拾圓ヲ拂渡スヘキモノトス

仝上定款改正案

定款ノ變更

本行定款第九條末項及第八十五條第二項ヲ左ノ通リ更正スル事

第九條末項　百圓拂込後ノ拂込ハ銀行ノ都合ニ依リ募集スヘシ但其拂込金額ハ一回毎ニ壹株ニ付貳拾圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサルモノトス其拂込期日ハ二ケ月以前ニ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ廣告スヘシ

(參照)

第九條末項　第五回以降ハ銀行ノ都合ニ依リ募集スヘシ而シテ其期限ハ少クモ六ケ月以前ニ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ廣告スヘシ但其金額ハ一回毎ニ壹株ニ付貳拾圓ヨリ少カラス四拾圓ヨリ多カラサルモノトス

第八十五條第二項　右株主總會ハ出席員所有ノ株數九萬個ニ滿ツルニ非レハ其事件ヲ議決スルヲ得ス

(參照)

第八十五條第二項　右株主總會ハ出席員所有ノ株數六萬個ニ滿ツルニ非レハ其事件ヲ議決スルヲ得ス

右定款變更ノ義ハ本行重役集會及銀行總會ニ於テ必要ナリト認メシヲ以テ條例第二十三條幷定款第八十五條ニ據リ之ヲ本會ニ提出シテ各位ノ討議ニ付ス可決セラルヽニ於テハ直ニ政府ニ請願シテ其允許ヲ仰カント欲スルナリ

定款變更ノ理由說明

一　株金拂込金額四十圓ヲ五十圓ト改メ其拂込期限六ケ月ヲ二ケ月ト改メントスルハ輓近金融機關ノ發達及廣告方法ノ利便實ニ定款設定當時ノ比ニ非ルヲ以テ拂込額ノ程度ヲ擴張ス

ルモ爰當ヲ缺クノ嫌ナク又豫告ニ長期限ヲ要セサルヲ以テナリ

一　株主總會ノ議決ニ要スル出席員所有ノ株數六萬個ヲ九萬個ト改メントスルハ即チ今回株金增加ニ付從來ノ比較上之ヲ更正セサレハ其權衡ヲ得サルニ因ル

右二案ヲ株主總會ノ討議ニ付シタルニ出席員持株總數七萬三千九百三十三個ニシテ此投票權利總數千五百十個即全會一致ヲ以テ可決シタルニ付同日直チニ大藏大臣ニ向テ左ノ上申ヲナシ別ニ定款改正ノ許可ヲ請願シタルニ兩者共即日許可セラレ尙八月十九日第五十一號告示ヲ以テ其旨ヲ公示セラレタリ

增資ニ關スル上申書

日清戰爭事件漸ク其局ヲ結ヒ候上ハ是ヨリ本行カ益々業務ヲ伸張シ經濟社會ノ輿望ニ副フハ國家ニ對スル義務ニ可有之然ルニ業務ノ伸張ハ實ニ資力ノ多少ニ伴フヘキヲ以テ先ツ資力ヲ增加シテ之カ鞏固ヲ圖ルハ今日ノ急務ニ可有之ト奉存候而シテ本行ノ資力タル現在株式ノ拂込殘額尙壹千萬圓有之候ニ付之ヲ追募スレハ實力ニ於テ敢テ妨ル處無キカ如シト雖モ今ヤ兌換券ノ發行高モ次第ニ巨額ニ達スヘキヲ以テ資本ノ高ヲシテ事業ニ相當スルノ點ニマテ達セシメ兩者ノ權衡ヲ保持スルハ寔ニ時勢ノ已ヲ得サル所ニ有之果シテ然ラハ本行カ內外ニ對スルノ責任彌々重大ト相成候ヲ以テ尙何時ニテモ追募シ得ラルヘキ餘地ヲ存シテ以テ益々信用ヲ鞏固ナラシムルノ義必要ト奉存候ニ付現在ノ資本金貳千萬圓ニ加フルニ更ニ壹千萬圓ヲ以テシテ總額ヲ參千萬圓トシ新タニ株券ヲ發行シ此新株ハ之ヲ五萬箇ニ分チ舊株同樣一株ノ額面ヲ貳百圓トシ而シテ一株ニ付此際百圓ヲ拂込マシメルコトトシ然テ此拂込ニハ二十八年上半季ニ於ケル特別割賦金ヲ轉用スルノ議ヲ株主總會ノ討議ニ付シ候處該會ニ於テ可決致シ候ニ付御許可相成度此段上申候也

追伸前陳新株拂込ノ後ハ更ニ短期間ニ於テ新舊總株ニ對シ五十圓ツヽヲ追募可致計畫ニ有之候也

是ニ於テ本行ハ同日ヲ以テ各株主ニ通知書ヲ發シ株主總會決議ノ事項ハ直チニ政府ノ許可ヲ得タル旨ヲ告ケ且該會ノ決議ニ基キ割賦金授受ノ手續ハ總テ之ヲ省略シ追テ新株券調製迄ハ右新株第一回ノ拂込金ニ對シ領收證書ヲ交付シ置クヘキニ付來ル九月一日ヨリ同月十五日迄ニ增加株式第一回拂込金振換請求書(雛形略ス)ニ金額株數ヲ記入シ記名調印ノ上本行本支店出張所ノ內ヘ申出ヘキ旨ヲ以テシ尙端株ヲ有スル株主ニ對シテハ端株一個ニ付テモ新株一箇ヲ交付スヘキニ依リ希望ノモノハ來ル九月九日マテニ補足金五十圓ヲ拂込ヘク若右期日迄ニ拂込ナキニ於テハ右希望ナキモノト看做シ端株一箇ニ付五十圓ノ特別配當金ヲ何時ニテモ拂渡スヘキ旨ヲ附記シタリ又本行支店出張所ヘハ八月二十八日ヲ以テ增加株申込取扱ニ關スル詳細ノ手續ヲ達シ同時ニ第一回振替拂込照會帳及拂込金ニ對スル領收證用紙ヲ送付セリ斯クテ增加株第一回拂込金ハ全ク振替ヲ了リ資本金總額三千萬圓ノ中拂込資本金ハ通計千五百萬圓トナレリ

尋テ新假株券五萬枚ノ調製方ヲ印刷局ヘ依賴シ印刷出來ノ上十二月二十五日ヨリ本支店出張所ニ於テ拂込金領收證書ト引換ニ新株券ヲ交付セリ

年月日	株主姓名	番號

（表）

第　號

日本銀行假株券

金貳百圓

此株金貳百圓ノ内現入金高左ノ如シ

第壹回	金百圓	明治二十八年九月十五日入金
第貳回	金五拾圓	明治二十八年十一月　日入金
第參回	金	明治　年　月　日入金
第四回	金	明治　年　月　日入金
第五回	金	明治　年　月　日入金

明治二十八年八月十七日株主總會ノ決議ニ據リ大藏大臣ノ允許ヲ得テ當行資本金壹千萬圓ヲ增加シ總額參千萬圓ト爲シタルニ付

殿儀

明治十五年六月二十七日太政官第三十二號ヲ以テ布告セラレタル日本銀行條例ヲ遵奉シ且當銀行定欵ヲ確守シ右資本金ノ内貳百圓即チ壹株ノ持主タルノ權利ヲ證スル爲メ此假株券ヲ付與ス尤本株券ハ追テ全額入金ノ上此假株券ト引換付與ス可キモノ也

輪廓模樣並截切部模樣ハ橙色刷他ハ黑

資本金株式及利益金　資本金及株式

（面）

No.

（裏）

株主心得摘要

一株金拂込ノ期ニ至ラハ其拂込ムヘキ金額ニ此株券ヲ添テ銀行ヘ持參シ表面入金ノ欄内ニ主務役員ノ證印ヲ受クヘシ

一若シ其期限ニ入金ヲ怠リタルトキハ過怠金トシテ其期ノ募集金額十分ノ一ヲ增納セシムヘシ若シ又二ケ月ヲ經テ猶入金セサルトキハ其株券ヲ賣拂ヒ其代金ヨリ其期ノ募集金過怠金並ニ其賣拂ニ係ル費用ヲ差引キ餘扁アレハ原株主ニ還付シ不足ハ尙ホ之ヲ追徵スヘシ

一此株券ヲ賣却又ハ讓與セントスルトキハ賣方ヨリ書面ヲ以テ其旨ヲ銀行ニ請求シ銀行ハ大藏大臣ノ許可ヲ經テ之ヲ當人ヘ通報スヘシ此通報ヲ受ケタル上賣買又ハ讓與ノ證書ヲ作リ雙方連印ヲ爲シ株券ヲ添ヘテ銀行ニ差出スヘシ而シテ銀行ニテハ之ヲ帳簿ニ記入シ且ツ主務役員左ノ欄内ニ證印ヲ爲シタル上之ヲ還付スルモノトス

一此株券ヲ失ヒタルトキハ事實ヲ明記シタル書面ヲ作リ二人以上ノ證人ヲ立テ銀行ヘ屆出更ニ新株券ヲ請求スヘシ但新株券書替ニ付テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ手數料ヲ拂フヘシ

年月日	賣渡人名印	買受人名印	總裁名印	文書局長名印	株式局長名印

（面）

曩ニ增資ノ際株主總會ニ提出シタル議題說明並ニ大藏大臣ヘ差出シタル上申書ニ見ユルカ如ク本行ハ其當時ヨリ新舊株ヲ通シテ現在資本拂込金殘額千五百萬圓ノ內七百五十萬圓即一株ニ付金五十圓ノ拂込ヲナサシムルノ必要ヲ感シ總會結了後間モナク各株主ニ向テ通牒ヲ發シ本行事業上資本入金ノ增加ヲ必要トスルニ付明治二十八年十一月十五日ヨリ同三十日迄ニ新舊株ヲ通シ一株ニ付金五十圓ヲ本行本支店出張所ノ內ヘ拂込ヘキ旨ヲ以テシ尋テ豫定ノ如ク入金ヲ了シタルニ依リ本行ノ拂込資本金ハ通計二千二百五十萬圓トナレリ

明治三十年十二月ニ至リ本行ハ事業上ノ都合ニ依リ資本入金ノ必要ヲ認メ同月十三日ヲ以テ大藏大臣ニ上申スルニ未拂込資本金七百五十萬圓即新舊株ヲ通シ一株ニ付金五十圓ヲ追募スヘキ旨ヲ以テシ尙同月十九日一般株主ニ通知スルニ右一株ニ對スル五十圓ヲ來ル明治三十一年二月二十一日ヨリ同二十五日迄ニ本行本支店出張所ノ內ヘ拂込ヘク若右期日迄ニ入金セサルニ於テハ定款第十二條ニ依リ過怠金又ハ株券賣拂ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ以テシ而シテ同年二月十九日ノ株主總會ニ於テ右拂込金ハ凡テ明治三十年下半季ニ於ケル特別配當金即金銀較差勘定ヨリ生シタル利益金ヲ以テ充當シ特別配當金及拂込金受拂ノ手續ヲ省略スルノ議題ヲ提出セリ又從來ハ一株ニ付一通ノ株券ヲ交付シ來リシモ一人ニシテ多數ノ株式ヲ有スル株主ニ在リテハ頗ル不便ヲ感スル所アルニヨリ今回總株金ノ拂込ヲ機トシ五種ノ株券ヲ調製スルノ必要ヲ感シ同日開會ノ臨時株主總會ニ於テ定款改正案ヲ提出セリ

明治三十一年二月十九日株主總會ニ提出セル資本入金殘額拂込案

一　今般追募スル資本入金殘額拂込ハ三十年下半季ニ於ケル特別配當金ヲ以テ其儘之ニ充當スルヲ以テ右特別配當金及ヒ拂込金受拂ノ手續ヲ省略スル事

右本行重役集會ニ於テ必要ナリト認定セシヲ以テ定款第八十一條ニ據リ爰ニ本會ニ臨時提出シテ直ニ各位ノ討議ニ付セラレンコヲ請フ

同日臨時株主總會ニ提出セル定款改正案

定款ノ變更

日本銀行定款第十五條ニ左ノ一項ヲ追加ス

株券ハ一株一通、五株一通、十株一通、百株一通、千株一通ノ五種トナシ株主ノ撰擇スル種類ヲ交付ス但株主ハ規定ノ手數料ヲ支拂ヒテ株券ノ種類變更ヲ請求スルコトヲ得

右定款變更ノ義ハ本行重役集會及銀行總會ニ於テ必要ナリト認メシヲ以テ條例第二十三條幷定款第八十五條ニ據リ之ヲ本會ニ提出シテ各位ノ討議ニ付ス可決セラルヽニ於テハ直ニ政府ニ請願シテ其允許ヲ仰カント欲スルナリ

定款變更ノ理由說明

一　本行株式ハ從來一株毎ニ株券一通宛交付シタルカ多數ノ株式ヲ所有スル株主ニ在リテハ其株數ヲ併セテ一通ヲ所持スルヲ實際便宜トスルヲ以テ今般總株金拂込ミ本株券交付ニ方リテ株券ヲ一株、五株、十株、百株、千株ノ五種トシ株主ノ撰擇ニ從ヒ其一種若クハ各種ヲ交付スルコトヽ爲サントス

右ノ二案ハ定式臨時兩株主總會ニ於テ出席員持株總數十萬七千七百九十九個此投票權利總數二千五十七個即全會一致ヲ以テ可決シタルニ付即日大藏大臣ニ稟申シテ其許可ヲ得タリ

是ニ於テ同日各株主ニ通牒ヲ發シ大藏大臣許可ノ旨ヲ報シ並ニ特別配當金及拂込金授受ノ手續ハ總テ之ヲ省略シ追テ株券ニ記入スル迄ハ右拂込ニ對シ領收證書ヲ交付シ置クヘキニ付振替請求書ニ金額株數ヲ記入シ記名調印ノ上本行本支店ノ内ヘ申込ヘキ旨ヲ以テシ尚其前ニ當リ支店出張所ニ向テ振替拂込ノ手續ヲ内達シ置キタルニ依リ該振替手續ハ同年二月二十一日ヲ以テ悉皆完結シタルニ依リ同日直ニ其旨ヲ大藏大臣ニ屆出タリ之ニ依リ本行資本金三千萬圓ハ全額拂込濟トナレリ

又本行ハ同年二月十九日ヲ以テ追募金振替拂込後ノ手續及本株券種類選定申込方ヲ各株主ニ通知セリ今其要ヲ擧クレハ

一　拂込金領收證ハ一人一葉ニ限リ分割又ハ名義ノ書替ヲナサヽルコト

一　本株券調製ノ上新舊株券ノ交換ヲ了スル迄ハ暫ク從來ノ假株券ニ今回ノ追募拂込金額ヲ記入シ之ヲ本株券ト見做シ使用スヘキニ付來ル三月一日ヨリ株券ニ拂込金領收證ヲ添ヘテ本店ニ記入方ヲ請求スヘキコト

一　定款改正ノ結果五種類ノ株券中何レニテモ株主ノ希望ニ任セ交付スヘキニ付來ル三月十五日迄ニ種類選定ノ上本支店出張所ヘ申出ヘク若右日限迄ニ申出ナキニ於テハ新舊株券交換ノ節本行ノ都合ヲ以テ適宜相渡スヘキコト

右ニ據リ從來交付シタル株券ハ總テ新株券ニ引換フルコトヽシ明治三十一年一月三十一日ヲ以テ印刷局ニ依頼シ左ノ雛形ニ依リテ調製スルコトヽナレリ

年月日	明治　年　月　日
株主姓名	姓　名
記番號	〃號第壹貳參四五六番

割印

（表）

印紙　印

〃號　第壹貳參四五六番

姓　名　殿

金貳百圓

日本

本行

當銀行ノ資本ハ金參千萬圓ニシテ之ヲ拾五萬株ニ分チ壹株ノ金額ヲ貳百圓トス

右記名者ハ明治十五年六月二十七日太政官第

（面）

銀行株券

全景ノ圖（別刷入）

三十二號布告日本銀行條例及ヒ當銀行ノ定款ヲ遵奉シテ壹株ノ權利ヲ有スルコトヲ證スルタメ茲ニ本券ヲ交付スルモノ也

日本銀行

明治　年　月　日

行印

總裁
文書局長
副總裁
株式局長
理事

（裏）

株主心得摘要

一此株券ヲ賣却又ハ讓與セントスルトキハ賣方ヨリ書面ヲ以テ其旨ヲ銀行ニ請求シ銀行ハ大藏大臣ノ許可ヲ經テ之ヲ當人ヘ通報スヘシ此通報ヲ受ケタル上賣買又ハ讓與ノ證書ヲ作リ雙方連印ヲ爲シ株券ヲ添ヘテ銀行ニ差出スヘシ而シテ銀行ニテハ之ヲ帳簿ニ記入シ且ツ主務役員左ノ欄内ニ證印ヲ爲シタル上之ヲ還付スルモノトス

一此株券ヲ失ヒタルトキハ事實ヲ明記シタル書面ヲ作リ二人以上ノ證人ヲ立テ銀行ヘ届出更ニ新株券ヲ請求スヘシ但新株券書替ニ付テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ手數料ヲ拂フヘシ

年月日	賣渡人名印	買受人名印	總裁名印	文書局長名印	株式局長名印

（面）

雛形說明

一　株式番號記入帳ト株券トノ間ノ割印及原符トノ割印ハ株式局印ヲ押捺スルコト

一　總裁、文書局長、株式局長ノ署名ハ石版摺ヲ以テ印刷シ記番號ハ左記ノ通ニナスコト

種類	枚數	記號	番號
一株券	五萬枚	以	一番ヨリ　五萬番マテ
五株券	三千五百枚	滅	一番ヨリ　三千五百番マテ
十株券	三千八百枚	恩	一番ヨリ　三千八百番マテ
百株券	三百枚	ホ	一番ヨリ　三百番マテ
千株券	百枚	仔	一番ヨリ　百番マテ

而シテ右本株券ハ明治三十三年五月末日悉皆印刷ヲ了リタルヲ以テ同年八月三十一日ノ株主現在數ニ據リ各株主ノ選擇シタル種類ニ從ヒ種類別帳ニ枚數番號等ヲ記入シ以テ株券面ヘ要項刷入ノ材料トナシ又株券ノ調製及交付ニ關スル手續ハ同年七月五日ヲ以テ左ノ通制定セリ

本株券交付手續

一　株券調製前準備手續

第一　明治卅三年七月廿五日現在各株主ヘ株券種類選擇方ニ付申込期限ヲ定メ左ノ通知書ヲ發スルコト

當行本株式券狀（壹株券、五株券、拾株券、百株券、千株券）今般出來ニ付從來ノ株券ト引替ニ御渡可

申候條右株券種類選擇方ニ付既ニ去ル卅一年三月中當行ヘ御申出濟ノ各位ヘハ御指定通リノ種類夫々御渡可申尤モ此際種類變更ノ御望有之候ハヽ來ル八月十五日迄ニ更ニ御申出被下度候將又右選擇方ニ付未タ御申出無之向又ハ其後賣買讓與ノ結果ニ依リ御所有株數ニ異動相生候向ハ前記日限迄ニ株券種類及ヒ枚數御記入記名調印ノ上御申出有之度若シ右日限迄ニ御申出無之ニ於テハ當行ノ都合ヲ以テ適宜取計御渡可致此段及御通知候也

年　月　日

日本銀行

株主　宛

追伸前文本株券御引換ノ時日ハ追テ各位ヘ御通知可致候間左樣御承知被下度候

第二　九月一日ヲ以テ申込〆切日トシ其日現在ノ株主ニ本株券ヲ割當ツルコト

第三　前記株主ニ對シ株券種類別ノ株主姓名簿ヲ調製シ各種株券毎ニ各株主ニ割當ツヘキ枚數及ヒ記番號ヲ記入スルコト

第四　本株券ヲ配賦スヘキ現在株主確定ノ日ヨリ假株券引換ノ日ニ至ル間ニ若シ株主ニシテ所有株賣買讓與ノ結果ニ因リ名義書替ノ請求アルトキハ假株券ニ書替ノ書面ヲ添ヘテ差出サシメ本行ハ之ニ對シテ領收證ヲ發シ從來ノ名義人ニ本株券交付ノ節新規株主ノ名義ニ書替ノ上請求者ヘ右領收證ト引替ニ交付スルコト

此場合ニ若シ株券ノ種類ヲ變換スルノ必要アルトキハ更ニ種類變換ノ手續ヲナシ交換料ヲ徵收スルコト

二　株券調製手續

第五　株券用紙ハ株券調製ニ際シ秘書役立會ノ上文書局第一課ヨリ種類ニ應シテ枚數ヲ限リ受取リ置クコト而シテ之ニ關スル授受ハ授受簿ヲ以テ双方局課長ノ間ニ於テ檢印ノ上之ヲナスコト

第六　株券調製ニ付キ株式係主任以下一定ノ係員ヲ置キ可成他ノ係員ト混交セサル樣區別スルコト

第七　株券調製日誌簿ヲ備ヘ之ニ毎日調製シタル株券種類枚數人名記番號ヲ記入シ株式局長ノ認印ヲ受クルコト

第八　調製中ノ株券ハ毎日用濟ノ際種類枚數等ヲ改メ又調製濟ノ分ハ原符ト切斷シ何レモ函ニ收容シ局長ノ檢印アル封緘ヲ施スコト

第九　株券面ノ日付ハ第二項規定ノ月日ニ依リ活字ヲ以テ押捺スルコト

第十　株券印紙稅ハ印紙稅法第六條ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受クルコト

第十一　株券面ト株式番號帳ト割印ヲナスコト

第十二　株券面ニ株主姓名ヲ記入スルニハ活版ニテ各株主ノ姓名ヲ調製シ置キ定傭職工ヲシテ係員立會ノ上券面押捺ニ從事セシムルコト

第十三　株券調製ノ際若シ毀損汚染等生シタルキハ廢棄ノ上文書局第一課ヨリ豫備株券ヲ受取リ印刷局ニ回付シ記番號ノ記入ヲ受ケ之ニ充ツルコト

三　株券交換手續

第十四　本株券調製着手ノ上ハ株主持株數ノ多寡ニ依リ引替ノ期日ニ適宜區別ヲ立テ各株主ニ

通知シ其通知書ト共ニ左ノ株券交換請求書用紙ヲ交付シ株主ヨリハ之ニ假株券ノ番號枚數記入記名調印ノ上假株券ヲ添ヘテ差出サシムルコト但各支店出張所ヲ經テ差出サシムルモ差支ナキコト

本株式券狀交換請求書

一　日本銀行假株券　　何　個

第何々號

右拙者所有ノ分今般貴行本株券ト左記ノ通リ御交換相成度此段請求候也

記

一壹株券　　枚
一五株券　　枚
一拾株券　　枚
一百株券　　枚
一千株券　　枚

以上合計　　枚

住所

年　月　日　　何　　某實印

日本銀行總裁宛

第十五　本株券ト引換ノ爲メ受領セル假株券ハ先ツ株主ノ印鑑ヲ確メ然ル後交換請求書ニ記載セル番號ヲ現券並ニ帳簿ト照合シ相違ナキニ於テハ右請求書ニ局長並ニ係員ノ認印ヲナシ且

第三項株主姓名簿ニモ同樣ノ認印ヲナシ交付ノ年月日ヲ記入シタル上本株券ヲ交付スルコト

第十六　受領濟ノ假株券ハ其日ノ分ヲ取纒メ消印ヲ受ケ株式帳簿ニハ廢止ノ手續ヲナシタル上授受簿ヲ以テ文書局第一課ニ引繼ヲナスコト

第十七　本株券郵送ノ費用ハ本行ニ於テ支辨スルコト

支店出張所ニ於テ假株券廻送ノ取次ヲナス場合ニ於テ支店出張所ヨリ本店ヘノ郵送料ハ本行ニ於テ支辨スルコト

四　株式帳簿

第十八　本株券株式番號帳ハ[illegible]別ニ株主ノ口座ヲ設ケ第三項株主姓名簿ニ依リ株券ノ種類及ヒ株券記番號ヲ記入シ置キ株券調製ノ際第十一項ノ手續ヲナスコト

第十九　本株券株式番號元帳ヘハ各記番號ノ口座ニ其株券所有者ノ氏名ヲ活字ヲ以テ押捺スルコト

第二十　假株券株式番號帳及同元帳ヘハ各番號ノ場所ニ本株券ト交換濟ノ印ヲ押捺スルコト

第二十一　株券種類變換ノ請求アルトキハ其變換請求書ニ基キ株式番號元帳ヘハ代株券ノ記番號口座ニ所有株主ノ氏名ヲ、舊株券番號ノ口座ニ種類變換ニ付廢止ノ印ヲ押捺シ株式番號帳ヘハ代株券ノ記番號ヲ記載シ株券面ト割印シ又舊株券記番號ハ年月日及ヒ種類變換ニ付廢止ノ旨ヲ記入シ文書株式兩局長及ヒ主任者ノ認印ヲ受クルコト

而シテ株券面ヘノ要項刷入ニ就テハ同年十月五日ヨリ印刷局活版職工ヲ本行内ニ出張セシメ同日出來ノ分ヨリ漸次引換ヲ開始シタルカ爾後引續キ株式ノ賣買讓與行ハレタルヲ以テ此等ニ對シテ

ハ先ツ假株券ヲ本株券ト引換タル後其交付シタル本株券ヘ直ニ記名替ノ手續ヲ爲シ讓受人ニ對シテ毫モ不都合ナキ樣取計タリ

斯クテ株主ノ選擇シタル株券ノ種類及枚數ハ

千株券	百株券	十株券	五株券	一株券	合計
五九	二二〇	三、七九六	三、四六一	一三、七三五	二一、二七一

ニシテ從來帝室所有ノ株券ハ第一回及第二回共一片ノ預證ニ過キサリシモ今回ノ本株券ハ別ニ帝室ノ請求ニ任セ通常株券ヲ交付シタルヲ以テ凡テ前揭ノ枚數中ニ包含セリ

右株券ノ引換ハ種々ノ故障ニ依リ頗ル遲延シタル向アリシカ明治三十六年五月十二日ニ至リテ一切引換ノ手續ヲ完了セリ

是ヨリ先明治三十二年一月一日實施ノ内規制定セラルヽヤ其第一章ニ於テ株式ニ關スル事項ヲ規定セリ其第一條ニ於テ株券ハ記名式トシ金額番號及ヒ發行ノ日附ヲ記載シ總裁文書局長及ヒ株式局長署名捺印シ行印ヲ押捺シ且之ト共原符トニ割印ヲ押捺スヘキモノトスルト旨ヲ定メ其第十一條ニ於テ毀損汚染種類交換ノ爲メ交換シタル株券ニハ廢棄ノ印章ヲ押捺シ其都度文書局ニ送付シ十ケ年間保存シタル後檢査局長文書局長及ヒ株式局長立會ノ上之ヲ燒棄スヘキモノトシ第十三條ニ於テ株券用紙ハ總裁ノ封印ヲ施シタル上文書局長之ヲ保管シ代株券發行ノトキ株式局長ノ請求ニ應シ之ヲ交付スヘキモノト定メタリ

尋テ株券用紙出來ニ付詳ニ之カ取扱手續ヲ規定スルノ必要アリ明治三十三年九月十三日ヲ以テ左ノ取扱規程ヲ定メタリ

未發行幷廢棄株券取扱規程

第一條　本株券用紙ハ之ヲ一定ノ函中ニ類別收容シ内規第十三條ニ據リ總裁ノ封印ヲ施シタル上所定ノ金庫中ニ藏置スヘシ

第二條　前條保管函ノ開閉ニ使用スル鍵幷ニ金庫ノ鍵ハ文書局長之ヲ保管ス但金庫幷ニ保管函開閉ノ際ニハ秘書役ノ立會ヲ要ス

第三條　第壹號樣式ノ未發行廢棄株券元帳ヲ造リ之ニ依リ本株券用紙幷ニ廢棄本假株券等ノ計算ヲ整理スヘシ

第四條　總テ本株券用紙在中ノ保管函ニ對シテハ第貳號樣式ノ入記ヲ調製シ其甲ヲ函ノ内部ニ收メ其乙ヲ外部ニ貼付スヘシ但入記ニハ立會者及取扱者捺印スヘシ

第五條　第參號樣式ノ控帳ヲ備置キ入記ニ關スル事項ヲ記入スヘシ

第六條　本株券用紙在中金庫開閉日誌ヲ造リ置キ金庫開閉ノ度毎ニ出納ノ事由函番號株券ノ種類記番號枚數及入庫人名ヲ記入シ文書局長ノ檢印ヲ受クヘシ

第七條　株式局ヨリ用紙引渡ノ請求アルキハ秘書役立會ノ上之ヲ交付シ第四號樣式ノ授受簿ニ文書局長幷ニ株式局長ノ檢印ヲ受クヘシ

第八條　廢棄ノ假株券幷ニ内規第九條及第十條ニ據リ廢棄シタル本株券ヲ受取リタルキハ特ニ設置キタル一定ノ函中ニ之ヲ收容シ本株券用紙同樣ノ手續ニ準シ内規第十一條ノ規定ニ遵ヒ拾ケ年間之ヲ保存シタル後檢査局長文書局長株式局長立會ノ上之ヲ燒棄スヘシ但本株券用紙廢棄ノ分ハ別ニ之ヲ保存シ便宜燒棄スヘシ

第壹號様式　未發行株券元帳

甲

明治			摘要	受入		拂出		殘高
年	月	日		記番號	枚數	記番號	枚數	

備考

左ノ種類ニ依リ口座ヲ設ク

未發行株券 { 本株券一株、五株、十株、百株、千株
豫備券　同　上
第二豫備券　同　上 }

末尾ニ合計ノ口座ヲ設ク

廢棄株券元帳

乙

明治			摘要	受入		拂出		殘高
年	月	日		記番號	枚數	記番號	枚數	

備考

左ノ種類ニ依リ口座ヲ設ク

廢棄本株券　一株、五株、十株、百株、千株

廢棄假株券 { 第一　株　券
第二　株　券
第三　株　券 }

廢棄株券用紙

「乙」

「本」株券		
種類	枚數	番號
「壹株券」	「壹萬枚」	「八至壹萬號」

明治「卅三」年「九」月「十」日

「甲」

「本」株券		
種類	枚數	番號
「壹株券」	「壹萬枚」	「八至壹萬號」

明治「卅二」年「九」月「十」日　「甲」「甲」

第「貳拾」號	入記

「甲」

第貳號様式（「　」内ハ原本朱字）

次ニ資本金及株式ニ關スル帳簿及科目ニ就テ之ヲ述フレハ明治十五年八月本行創業ニ先チ創立委員ハ株式勘定元帳(第一號様式)株券番號記入帳(第二號様式)株式有高帳及株式賣買記入帳(様式缺)ヲ設ケ資本金及株式ニ關スル諸件ヲ整理シタルカ十六年五月ニ至リ株金入金帳(様式缺)ヲ設ケ第二回乃至第四回ノ拂込金ヲ記入セリ尋テ二十年五月本行資本金第一回增資ノ際株金拂込記入帳(第三號様式)ヲ設ケタリ

從來株金ヲ總勘定元帳ニ記入スル際ハ實際ノ拂込金額ヲ株金トシテ謄記シタルモ株主ノ負擔スヘキ責任ハ株金ノ全部ニシテ其拂込額ノミニ非サルヲ以テ明治二十年六月十五日以降從來ノ記帳法ヲ改メ負債ノ部「株金」ノ科目下ニ株金ノ全部ヲ記載シ別ニ資産ノ部ニ「拂込未濟株金」ナル科目ヲ設ケテ拂込未濟ニ係ル株金額ヲ記載スルコトヽセリ

尋テ明治二十年七月株式勘定元帳中ノ「代價」欄ヲ「金額」ト改メタリ

其後明治二十五年一月以降實施ノ帳簿ハ左ノ如シ

本店分

株式勘定元帳(前出)
株式有高帳(第四號様式)
株券番號記入帳(前出)
株金拂込記入帳(前出)
株主改姓名記入帳(第五號様式)
株式賣買帳(第六號様式)

第參號様式　株券入記控帳

明治 年	月	日	函番號	種類	記號	番號	枚數	拂出 年	月	日	摘要
33	9	7	1,290	五株券	ハ	1,001－5,000	4,000	33	9	8	株式局へ渡ス

備考
左ノ種類毎ニ口座ヲ設ク
本株券、豫備券、第二豫備券、廢棄本株券、廢棄假株券

第四號様式　株券用紙授受簿

明治 年	月	日	摘要	種類	番號	枚數	株式局長檢印	文書局長檢印	秘書役檢印

支店出張所分

株金拂込元帳(第七號樣式)

尋テ明治二十八年以降株式勘定元帳ヲ改正シ(第八號樣式)又株券番號記入帳ヲ廢シテ株式番號帳第九號樣式)及株式番號元帳(第十號樣式)ヲ新設セリ

其後明治三十二年四月以降株式番號帳及株式番號元帳(第十一號)ノ樣式ヲ改正シ尙株券種類別帳第十二號樣式)ヲ新設シテ新株券交付ノ日ヨリ之ヲ使用セリ右株券番號帳ノ改正ハ「番號」欄ノ前ニ「株數及「記號」ノ二欄ヲ加ヘタルニ過キサルヲ以テ樣式ハ之ヲ省ク

尋テ明治三十三年一月以降株式賣買記入帳ヲ株式賣買讓與記入帳ト改稱シタルモ其樣式ハ何等變更スル所ナカリキ

今本行創業以降今日(明治四十二年末)ニ至ル株主總會開會年月日幷ニ決議要項ヲ揭クレハ左ノ如シ

回數	種類	開會年月日	決議要項
第一回	定式	十六年二月十七日	定欵第五十條第二項但書ニ依リ抽籤ヲ以テ監事更代ノ順序ヲ定ム
第二回	同	同八月十八日	
第三回	同	十七年二月十六日	
第四回	同	同八月十六日	
第五回	同	十八年二月二十一日	
第六回	同	同八月十五日	
第七回	同	十九年二月二十日	
第八回	同	八月二十一日	本行從來ノ資本金一千萬圓ヘ更ニ一千萬圓ヲ增加シ新ニ株券ヲ發行スルコトニ決ス
第九回	同	二十年二月十九日	
第十回	同	八月二十日	
第十一回	同	二十一年二月十八日	
第十二回	同	八月十八日	
第十三回	同	二十二年二月十六日	
第十四回	同	八月十七日	定欵第四十七條但書ニ依リ抽籤ヲ以テ理事更代ノ順序ヲ定ム
第十五回	同	二十三年二月十五日	
第十六回	同	八月十六日	
第十七回	同	二十四年二月二十一日	
第十八回	同	八月十五日	
第十九回	同	二十五年二月二十日	
第二十回	同	八月二十日	
第二十一回	同	二十六年二月十八日	
第二十二回	同	八月十九日	
第二十三回	同	二十七年二月十七日	
第二十四回	同	八月十八日	
第二十五回	同	二十八年二月十九日	

第二十六回	定式	二十八年八月十七日	
	臨時	同　同	本行従來ノ資本金二千萬圓ヘ更ニ一千萬圓ヲ增加シ新ニ株券ヲ發行スル事幷定款第九條末項及第八十五條第二項ヲ更正スル事ニ決ス
第二十七回	定式	二十九年二月十日	
第二十八回	同	八月十五日	
第二十九回	同	三十年二月二十日	
第三十回	同	八月二十一日	
第三十一回	同	三十一年二月十九日	
	臨時	同　同	本行增資ニ對スル入金殘額（金七百五十萬圓）拂込ハ三十年下半季特別配當金ヲ其儘之ニ充當スル事ニ決ス
第三十二回	定式	八月二十日	
第三十三回	同	三十二年二月十八日	
第三十四回	同	八月十九日	
第三十五回	同	三十三年二月十七日	
第三十六回	同	八月十八日	
第三十七回	同	三十四年二月十六日	
第三十八回	同	八月十七日	本行定款第十五條ニ一項ヲ追加スル事ニ決ス
第三十九回	同	三十五年二月十五日	
第四十回	同	八月十六日	
第四十一回	同	三十六年二月二十一日	

第四十二回	同	八月十五日	
第四十三回	同	三十七年二月二十日	
第四十四回	同	八月二十日	
第四十五回	同	三十八年二月十八日	
第四十六回	同	八月十九日	
第四十七回	同	三十九年二月十七日	
第四十八回	同	八月十八日	
第四十九回	同	四十年二月十六日	
第五十回	同	八月十七日	
第五十一回	同	四十一年二月十五日	
第五十二回	同	八月十五日	
第五十三回	同	四十二年二月二十日	
第五十四回	同	八月二十一日	

株式勘定元帳　第一號　（施實月八年五十治明）

借方						貸方					
明治年	譲渡状番號	人名 譲受姓	株數	代價		明治年	譲渡状番號	人名 譲渡姓	株數	代價	

株券番號記入帳　第二號

（施實月八年五十治明）

買日	受附	買受摘要	番號	印割	賣日	渡附	賣渡摘要	名印	名印	名印

株式記入帳

（施實月五年二治明）

摘要	書印證割收號領番	金過怠	金合怠過割	延數込日滯	込附拂日

名記入帳

（明治二十五年一月實施）

保證人	住所	株數	拂込金額	摘要

買帳

（明治二十五年一月實施）

住所	帳元丁數	株數	拂込金額	價格割合	價格	名印	名印	名印	讓渡手數料	摘要

第三號　株金拂込

明治年	姓名	拂込所場	株數	株金	積立金	合計

第四號　株式有高帳

（明治二十五年一月實施）

帳元丁數	姓名	身分	職業	住所	明治年月日	明治年月日	明治年月日	明治年月日

第七號　株金拂込元帳

第　回　（明治二十五年一月實施）

明治年	姓名	株數	拂込金額	日締金額	摘要

定元帳

（明治二十八年一月實施）

貸方			差引殘高		
株數	株金額	拂込金額	株數	株金額	拂込金額

第五號　株主改姓

明治年	舊姓名	住所	元丁帳數	改姓名	元丁帳數

第六號　株式賣

明治年	讓渡證書番號	讓受人	身分	職業	住所	元丁帳數	讓受人	身分	職業

第九號　株式番號帳

（施實月一年八十二治明）

受讓買月日	受讓買摘要	株式帳元丁數	番號	印割	渡讓賣月日	渡讓賣摘要	株式帳元丁數	文書局長檢印	株式局長檢印	株式局主任檢印

第十號　株式番號元帳

（施實月一年八十二治明）

有所日月	姓名	有所日月	姓名	有所日月	姓名

第八號　株式勘

治明年	證書番號	摘要	元號番數丁帳	借方 株數	株金額	拂込金額

第十一號　株式番號元帳

一株券（五株券）（十株券）（百株券）（千株券）　（明治三十二年四月實施）

ル	（ヲ）	（ワ）	（カ）	（ヨ）	1號							2號						
所月	有日	姓名	所月	有日	姓名	所月	有日	姓名	所月	有日	姓名	所月	有日	姓名	所月	有日	姓名	所月	有日	姓名

第十二號　株券種類別帳

（明治三十二年四月實施）

明治年		摘要	借方		貸方		差引殘高	
			枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額

第二節　株式ノ賣買讓與及種類交換

本行ノ株券ハ條例第五條及定款第十三條ニ據リ總テ記名トシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サヽルコトヽ定メ又條例第六條及定款第十四條ニ據リ本行ノ株主トナラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘキコトヽセリ尚定款第十五條ニ於テハ株券賣買讓與ノ手續ヲ規定シ若シ株券ヲ賣買又ハ讓與セントスルトキハ賣方ヨリ書面ヲ以テ其旨ヲ本行ニ請求シ本行ハ大藏卿ノ許可ヲ經テ之ヲ當人ニ通報スヘク當人ハ此通報ヲ受ケタル上賣買又ハ讓與ノ證書ヲ作リ雙方連印ヲ爲シ株券ヲ添ヘテ本行ニ差出ヘク而シテ本行ニテハ之ヲ株式帳ニ記入シ且其賣買讓與ヲ證スル爲メ總裁及ヒ文書、株式兩局長其株券ノ裏面ニ署名捺印スルモノト定メタリ而シテ假內規第三條乃至第七條ニ於テハ株券賣買、讓與、相續、紛失等ニ關シ一層詳密ナル規定ヲ設ケタリ即チ株主中死去スル者アリテ相續人其株券ヲ讓受ルトキハ相當ノ證書ニ株券ヲ添ヘテ本行ニ差出シ本行ハ如上記載ノ手續ニヨリ之ヲ取扱フヘク又水火盜難等ノ爲メ株券ヲ紛失シタルトキハ二人以上ノ確實ナル證人ヲ立テ事實ヲ明記シタル書面ヲ以テ本行ニ屆出更ニ新株券ヲ請求スヘク本行ハ其事實ヲ認メ新聞紙ニ廣告シ六ケ月ヲ經テ尚發見セサルトキハ新株券ヲ作リ之ヲ本人ニ交付スヘク又各半季割賦金拂出以前十五日間ハ一切株券賣買讓與ヲ停止シ新聞紙ヲ以テ豫メ其旨ヲ廣告スヘキ旨ヲ規定シ尚同時ニ賣買讓與證書ノ雛形ヲ定メタリ又株式賣買讓與願、株式名前書替願及株券紛失新規渡方願ノ雛形ニ關シテハ明治十五年十一月七日ヲ以テ左ノ通之ヲ定メタリ

內規第三條中書面雛形

株式賣買讓與願

一株式　何個
但シ第何號　第何號

右ノ株券私所持ノ處今般何府下何區何町何丁目何郡何村何番地何ノ某へ賣渡度候間御認可相成度此段相願候也

年　月　日

何府縣下何區何町何丁目
何國何郡何村　何番地
某　印

日本銀行總裁宛

內規第四條中書面雛形

株式名前書替願

一株券狀　何枚
但シ第何號　第何號
　第何號　第何號

右株式父某所持ノ處何年何月何日死去致今般私儀跡家督相續候ニ付券面私名前ニ御書替被成下度依テ保證人連署此段相願候也

年　月　日

何府縣下何區何町何丁目
何國何郡何村　何番地
相續人　何
何府縣下何區何町何丁目
何國何郡何村　何番地
保證人　某

資本金株式及利益金　株式ノ賣買讓與及種類交換

日本銀行總裁宛

内規第六條中書面雛形

株券紛失新規渡方願

一株券狀　何枚

但シ　第何號　第何號

右株券私所持ノ處何年何月何日水火災盜難ノ爲紛失致候ニ付御調査ノ上新規株券御渡被下度依テ保證人連署此段相願候也

何府縣下何區何町何丁目何番地　第何號　第何號

何府縣下何區何町何丁目何番地　何

何府縣下何區何町何丁目何番地　某

年　月　日

保證人　何

何府縣下何區何町何丁目何番地　某

何府縣下何區何町何丁目何番地　某

保證人　何

何府縣下何區何町何丁目何番地　某

保證人　何

日本銀行總裁宛

尙株式賣買讓與ノ手續ニ就テハ定款第十五條及假内規第三條ノ旨趣ニ基キ明治十六年二月七日ヲ以テ左ノ通順序ヲ定メテ之ヲ實施セリ

第一　賣渡讓渡人ヨリ其旨ヲ銀行ニ申出サシムヘシ

但此申出書雛形ハ曾テ御伺濟ニ相成居候事

第二　本行ニ於テ右申出書ヲ受領シ直ニ大藏卿ヘ稟請認可ヲ請クルモノトス其稟請書案左ノ如シ

上申

一株式何個

但第何號ヨリ第何號マテ

何府縣何國何郡何村何番地族籍職業　賣渡讓渡人　何　ノ　某

何府縣何國何郡何村何番地族籍職業　買受讓請人　何　ノ　某

右ハ本行株式賣買讓與之儀双方示談相整ヒ候旨申出候本行ニ於テハ不都合無之ト認定候間御許可相成度此段上請候也

年　月　日

總裁

大藏卿　宛

第三　右大藏卿ノ認可ヲ得タル後直チニ本人共ニ其旨ヲ通報シ第三號書式ニ依リ賣買讓與證書ト株券トヲ差出サシメ兼テ本行定款内規ニ定タル順序ニ準シ株券ニ各捺印賣買讓受人ニ交附スルモノトス

此三號書式ハ曾テ御伺濟ニ相成居候事

第四　内規第三條中末項但書株券書換手數料ハ壹株ニ付金五錢宛ト相定候事

資本金株式及利益金　株式ノ賣買讓與及種類交換

但此手數料取立順序ハ株式課ニ於テ傳票ヲ製出シ出納課ニ係リ收納セシムルモノトス

第五　內規第六條株券水火災盜難ノ爲メ紛失シタルトキハ兼テ伺ヲ相經置キタル證書ヲ差出サシメ篤ト檢證シ每次伺ヒヲ經實施スルモノトス

但本條手數料ハ書換ノ手數ニ原紙代價ヲ加エ徵集スト而シテ其收入手續ハ前項ノ通リタルヘシ

株式賣買讓與證書ノ雛形ニ就テハ曩ニ假內規ヲ以テ規定シタルモ文字ノ妥當ヲ缺クモノアルニ依リ明治十六年二月六日左ノ通更正セリ

印紙　株式賣買讓與證書

一株式　何個　但壹個ニ付代金何圓宛（讓與ノ分ハ金員ヲ總テ除ク）

但第何號ヨリ第何號マテ何枚（此番號繼續セサルカ又ハ混雜ナレハ別冊明細帳ヲ差出サシムヘシ）

右之株式何某所持之分今般何某エ賣渡讓渡之儀願出候處御認可相成候ニ付則株券賣買代金受渡相濟ミ候處實正也然ル上者爾後買請讓買請人ハ前株主同樣ノ責任ヲ負擔シ總テ當日本銀行ノ規定ヲ遵守可致候依テ證書如件

年　月　日

賣渡人　何府縣　何郡區　何町村　何番地　何　ノ　某

買請人　何府縣　何郡區　何町村　何番地　何　ノ　某

日本銀行總裁　殿

尋テ同年三月五日ヲ以テ株式賣買證書幷ニ賣渡ニ付依賴書ヲ左ノ通更正セリ

株式賣買證書

一株式　但壹個ニ付代金何程宛

但

右之株式何姓何某所持ノ分今般何姓何ノ某江賣渡之儀御承認相成候ニ付則株券賣買代金受渡相濟候處實正也然ル上ハ爾後買請人ハ前株主同樣ノ責任ヲ負擔シ總テ貴行ノ成規ヲ遵守可致候依而證書如件

明治　年　月　日

賣渡人　何府縣　何郡區　何町村　何番地　何　ノ　誰

買請人　何府縣　何國郡區　何町村　何番地　何　ノ　誰

日本銀行總裁　殿

株式賣渡ニ付依賴書

一株式

但

右者拙者所持之處今回何々府縣何々國何々郡區何々町村何拾何番地何ノ某江賣渡可申示談相整候間資本金株式及利益金　株式ノ賣買讓與及種類交換

貴行ノ成規ニ據リ可然御取計ヒ被下度此段及御依賴候也

明治　年　月　日

日本銀行總裁　殿

何府縣何國何郡何町村何番地

何　ノ　誰

然ルニ右賣買證書ニ代金ヲ記入スルモ本行ハ賣買者ノ代金取引上ニ何等ノ關係ナク畢竟該證書ハ雙方連署ノ屆書ニ過キサルモノナルヲ以テ明治十七年四月二十三日ヲ以テ右證書ノ文字ヲ省キ左ノ書式ニ改メタリ

印紙

記

一株式　壹個ニ付　代金

但

右之株式　所有之分今般

渡相濟候爾後買請人ハ前株主同樣ノ責任ヲ負擔シ總テ貴行ノ成規ヲ遵守可致候也

江賣渡之儀御承認相成候ニ付則株券賣買代金受

賣渡人

買請人

明治　年　月　日

日本銀行總裁

株主屆出ノ印鑑ニ關シ明治十八年六月八日ヲ以テ各株主ニ通知スルニ豫テ差出アル印鑑ノ義今後改彫或ハ新彫ヲ要スル時ハ本行取調上ノ都合モ有之ニ付其磨滅缺損ニ係ル分ハ其屆書ニ新舊兩印ヲ押捺シタル印鑑ヲ添ヘ又遺失盜難火災等ニ係ル分ハ本行株主ノ內若クハ親族ノ證印アル屆書ニ印鑑ヲ添ヘテ差出ヘキ旨ヲ以テセリ

又本行株式所有者死亡代替等ノ節相續人幼年ノ爲メ後見人ヲ立テ二名以上ノ親族連署ヲ以テ屆出ノ上株券名義ヲ後見人記名ニ改メタルモノ後日右株券賣買讓與ノ事起リ本行ヘ記名替ヲ請求スルニ際シ普通株券同樣賣買讓渡人即後見人ノミ署名ノ證書若クハ其委任狀ヲ以テ直チニ記名替ノ手續ヲナスハ幼年者保護ノ點ヨリ見テ頗ル不安心ノ恐アルニ依リ親族連署ノ證書ヲ徵スルヲ以テ然リトシ明治二十二年七月二十六日其旨ヲ大藏大臣ニ稟申シタルニ八月六日ヲ以テ許可セラレタリ依テ同月十二日ヲ以テ株式賣讓渡依賴書ヲ左ノ通改正シ華族ハ親族會議員其他ハ親族二名以上ノ連署ヲ要スルコトヽ定メタリ

株式賣讓渡ニ付依賴書

一株式　何個

但何號ヨリ何號ニ至ル

右者拙者所持ノ處今回何府縣何郡區何町村何番地何某へ賣讓渡可申示談相整候間貴行ノ成規ニ據リ可然御取計被下度依テ親族(又ハ親族會議員)連署ヲ以テ此段及御依賴候也

住所何某後見人　何某印

住所　親族何某印

年　月　日

七〇七

住所
仝　何　某　印

又本行新舊株券賣買授受ノ爲メ裏面記名調印ノ場所盡キタルトキ若クハ亡失毀損等ノ爲メ再發付又ハ交換ヲ請求セラレタルトキノ取扱方ニ付從來何等ノ規定ナカリシカ明治二十二年三月二十六日ヲ以テ此場合ノ手續ヲ定メ斯カル事故ノ發生シタル時ハ何レモ新規株券ヲ交付スルコトトシ而シテ交付スヘキ株券表面ニハ現所有者名義ヲ記入シ番號金額入金月日等ハ從前ノ株券ト同一ニシ而シテ發付ノ年月日及役員名印ハ株券再發付當日ノ現在ヲ以テシ其交換ニ係ルモノハ株券甲乙裏面ノ紙端ヲ接シ株式局印ヲ以テ割印シ尚後證ノ爲メ表面餘白ノ場所ヘ明治　年　月　日亡失ニ因リ更ニ交付ノ朱印ヲ押捺シ其亡失ニ係ルモノハ只裏面ノ割印ヲ缺クノ外總テ前同樣ノ手續ヲナシ而テ新規交付スヘキ株券一株ニ對シ金十五錢宛ノ手數料ヲ徵シ尚右交換ヲ了シタル株券ハ文書局ヘ引繼キ同局ニ於テ消印ノ上保管スルコトトセリ

本行株券賣買ニ關シ賣主ヨリ書替ノ請求アルトキハ從來株式局ニ於テ其都度回議ニ依リ總裁ノ認可ヲ受ケタルモ此取扱方ハ頗ル繁冗ナルノミナラス其文例モ粗一定シ且事實上不認可トナル場合モ殆ント之ナキヲ以テ明治十六年八月二十日ヨリ右ノ回議ヲ廢シ新ニ株式賣買認印御檢印簿ト稱スルモノ甲乙二種ヲ製シ株式賣買ニ依リ新ニ株主トナル分ヲ甲トシ從來ノ株主ノ賣買ニ係ル分ヲ乙トシ兩種共課長以下取扱人ノ檢印ヲ捺シテ總裁ノ認可ヲ請フコトヽシ且新規株主トナルモノハ特ニ大藏卿ノ認可ヲ要スルヲ以テ之カ上申文例ヲ規定シ木版彫刻ノ上罫紙ニ刷込置クコトニ定メタリ右檢印簿並ニ上申文例書式ハ左ノ如シ

規　定（甲帳）

此御檢印簿ノ儀ハ本行株式賣買讓與ノ義申出候際讓買受人新規株主ニナル部分ヲ記載シテ御認可ノ御檢印ヲ請フモノトス御認可濟ノ上ハ之レヲ大藏卿ニ上申シ御許可ヲ經テ後賣買讓與ニ係ル手續ヲ施行スヘシ

但記載方ハ左ノ雛形通リ年月日及賣買讓與者ノ住所姓名株數代價ノミヲ記載シテ他ニ文書ヲ要セス

明治　年何月何日

課長印　印　印

一株式何個　　賣讓渡人　何府縣何郡何町何番地　何　ノ　某

但シ壹個ニ付代價金何程　　買讓受人　何府縣何郡何町何番地　何　ノ　某

規　定（乙帳）

此御檢印簿ノ儀ハ本行株式賣買讓與ノ義申出候際讓買受人從來ノ株主ナル部分ヲ記載シテ御認可ノ御檢印ヲ請フモノトス御認可濟ノ上ハ直ニ賣買讓與ニ依ル手續ヲ施行スヘシ

但記載方ハ左ノ雛形通リ年月日及賣買讓與者ノ住所姓名株數代價ノミヲ記載シテ他ニ文書ヲ要セス

明治　年何月何日

一株式何個

但壹個ニ付代價金何程

株式賣買讓與之義上申

本行株式賣買讓與ノ義別紙ノ通雙方示談相整候旨申出候本行ニ於テハ敢テ不都合無之ト認定候間御許可被下度候也

明治　年　月　日

大藏卿宛

記

一株式何個

課長　印　印　印

何府縣何區郡何町村何番地

賣讓渡人　何　ノ　某

何府縣何區郡何町村何番地

買讓受人　何　ノ　某

何府縣何區郡何町村何番地

賣讓渡人　何　ノ　某

何府縣何區郡何町村何番地

本行株式十株以下ノ賣買ハ定欵ニ之ヲ禁止スルノ明文ナキニ依リ之ヲ許可アリタキ旨明治十六年八月二十二日ヲ以テ大藏卿ヘ上申セリ其全文左ノ如シ

當銀行株式賣買ノ義ハ定欵第二章ノ規定ニ遵ヒ取扱可致義ニ有之候處目下賣買申出候内拾株以下賣買ノ分有之右ハ定欵中賣買個數制限等ノ明文無之ニ付其買主本行株主ノ資格ニ適合ト見認ムルモノハ出願之上御指令如何ニ因リ取扱致シ兼テ御許可相成居候株主ノ間ニ於テ賣買致候ハ本行限リ許諾シ其手續取計來候處右拾株以下賣買ノ義ニ付テハ定欵ニ明文無之直ニ本行ヨリ公然拒絶可致義ハ穩當ノ處置ニ無之ノミナラス强テ請求スル者有之ニ於テハ甚困難ヲ相生候ニ付爾後拾株以下賣買相禁シ候御内決ニ候ハヽ先以定欵改正可相願候尤夫迄之處ハ現時之成規ニ據リ取扱申度目下差迫候義モ有之候ニ付至急何分ノ御指令被下度此段相伺候也

右上申ニ對シ同年九月十日第七百四十五號ヲ以テ伺之通許可セラレ尚兼テ許可シ置キタル株主間ノ賣買モ定欵第十五條ノ通其時々當省ノ許可ヲ受クヘキ旨ヲ達セラレタリ

然ルニ右兼テ許可セラレタル株主間ノ賣買ニ就テ一々大藏省ノ許可ヲ受クルハ手數繁雜ニシテ株主中往々苦情ヲ唱フルモノアルニ依リ明治十八年十一月十九日之カ省略方ヲ大藏卿ヘ上申セリ其全文左ノ如シ

當銀行株式賣買之義ハ定欵第二章ニ據リ其都度御許可ヲ受ケ取扱來候處右賣買讓與之義追々增加頗ル頻繁ニ有之然ニ其都度上申御指令ヲ仰候爲メ書替方多少ノ時日相掛リ候ニ付取引遲滯得失ニ關スル趣ヲ以テ株主中往々苦情相唱ヘ候モノモ有之哉ニ相聞候蓋シ既ニ御許可濟ノ株主間

ニ於ケル賣買讓與ハ只甲乙ノ間株數ニ增減有之迄ニ止リ人員及姓名等ニハ更ニ差響無之儀ニ付定款第二章ノ旨趣ニモ牴觸致サヽル樣存候間自今ハ新規ニ買受ケ又ハ讓受候モノヽミ其時々御指令ヲ仰キ既ニ御許可相成居候株主間ニ於ケル分ハ本行限リ取計置毎半季取纏メ御屆仕候樣致度存候條此段御許可被下度候也

追テ本文從來ノ株主間ニ於テ賣買讓與致候モ殘持株拾箇未滿ニ相成候節ハ是迄ノ通リ御指令ヲ仰キ可申存候此段副申候也

右上申ニ對シ同年十二月七日第八百四十七號ヲ以テ上申之趣聞屆クルニ付新規賣買讓與ノ節ハ可伺出旨指令アリ爾後明治三十三年四月マテ右手續ニ依リ事務ヲ取扱ヘリ

明治二十三年八月二十日從來經伺又ハ慣例等ニ基キ取扱來リシ必要ノ事項ヲ蒐集シ株式局事務取扱手續ヲ制定シ株券ノ記名替及手數料收入並株券再發付、株主印鑑等ニ關スル事項ハ該手續第七條乃至第二十七條ニ揭載セリ該手續ニハ其他華族世襲財產、保護預、各種保管品、公債證書及利札ニ關スル取扱手續等ヲ揭載シアルモ便宜左ニ其全文ヲ揭クルコトヽセリ

株式局事務取扱手續

目錄

第一章　自第一條至第六條　株券金額ノ記入及ヒ華族世襲財產ノ手續

第二章　自第七條至第廿一條　株券記名替及ヒ手數料收入手續

第三章　自第廿二條至第廿一條　株券再發付、株主印鑑並ニ割賦金仕拂手續

第四章　自第廿二條至第四十四條　保護預リ並ニ出納官吏身元保證保管預リ手續

第五章　自第四十五條至第五十二條　各種保管品取扱手續

第六章　自第五十三條至第五十九條　公債當籤證書及ヒ利札截斷取扱手續

第一章　株券金額ノ記入及ヒ華族世襲財產ノ手續

第一條　本行株式ハ資本金ノ半額ヲ入金セシメタルモノニシテ最初ニ發行シタル株券ヲ假株券トシ壹株ノ額面貳百圓ナルモ其半額ヲ四回ニ收入シテ即チ拂込金額百圓ニ止メ後再資本金增加ノタメ更ニ發行シタル株券ヲ本株券トシ齊シク額面貳百圓ナルモ其半額ヲ二回ニ收入シテ同シク拂込金額百圓ニ止メ其新舊株金拂込ノ都度便宜上領收證ヲ發シ置キ俱ニ第一回ノ拂込ニ係ルモノハ株券整備ノ後領收證ト交換シ其次回ヨリ株主ノ都合ヲ以テ隨時其領收證ヲ株券ニ添ヘ拂込金記入ノ請求アル毎ニ株券面ニ其金額拂込年月日等ヲ記入シ總裁及ヒ株式局長（以下局長ト單稱ス）ノ證印ヲ押捺シ即時之ヲ交付スルモノトス

第二條　華族所有ノ本行株式ヲ以テ其世襲財產トナスヘキ旨ヲ宮內大臣ヨリ達セラレタルトキハ

世襲財産法第二十條ニ基キ官報及ヒ一定ノ新聞紙ニ掲ケ一週日間公告ヲ要スルヲ以テ亩チニ第壹號書式ニ據リ公告文ヲ起草シ回議ヲ以テ總裁ノ決裁ヲ經タル後文書局ニ於テ公告ノ手續ヲナスモノトス

第三條　前條ノ公告ニ依リ株式番號等ノ調査ヲ請フモノアルトキハ其株式番號帳ヲ示シ若シ故障ノ申立アルニ以テハ其事由ヲ記載シタル書面ヲ差出サシメ直チニ第貳號書式ニ據リ宮内大臣ヘ上申スヘキ文案ヲ草シ回議ヲ以テ總裁ノ決裁ヲ請ケ故障申立ノ事由書ハ寫ヲ以進達ノ手續ヲナスモノトス

第四條　前第二條世襲財産ノ公告ヲ了リタル後三十日ヲ經過スルモ故障申立ナキトキハ第三號書式ニ據リ其旨ヲ宮内大臣ヘ上申スヘキモノトス

第五條　前第二條ノ公告料ハ一時文書局ニ於テ立替仕拂置キ第四號書式ノ照會文書ニ第五號書式ノ計算書ヲ添ヘ公告料ノ償還ヲ爵位局ニ請求スヘシ

但本條ノ公告料ヲ償還サレタルトキハ之ニ對シ總裁ノ名印アル領收證ヲ發遣シ直ニ其金額ヲ文書局ニ戻入ルヽモノトス

第六條　前第四條ノ上申ヲナシタル後華族所有ノ株式ヲ世襲財産ト爲スコヲ認可シタル旨更ニ宮内大臣ヨリ第六號書式ノ如キ命令アル毎ニ株式番號帳及同勘定元帳ニ第七號雛形ノ印ヲ捺シ他ノ株式ト區別判明ナラシムルモノトス

第二章　株券記名替及ヒ手數料收入手續

第七條　株式賣買讓與ノ申出アルトキハ賣讓渡人ヨリ第八號書式ノ株券賣讓渡依賴書ヲ差出サシムルモノトス此場合ニ於テ代理人ヲシテ其事項ヲ所理セシムルモノハ第九號書式ノ委任狀ヲ要ス

第八條　本局ハ前第七條ノ依賴書ヲ受理シタルトキ其賣讓渡人ノ印章ヲ豫テ届出アル印鑑簿ニ對照確認シタル後買讓受人ノ新ニ株主トナルモノハ大藏大臣ノ認可ヲ要スルヲ以テ當日受理ノ分ヲ纏メ賣讓渡人ノ住所姓名株式賣讓渡高並買讓受人住所姓名及株數增減等ヲ株式賣買讓與決裁簿甲ノ部ニ列記シ主務員認印シ文書局ヲ經テ重役ノ裁可ヲ請ケ第十號書式ノ上申書ヲ發遣スルモノトス

第八號　前第八號上申書ノ指令ヲ受ケタルトキ本局ハ直ニ局長回議錄ヲ以テ通知案經伺ノ上株式賣買讓與記名替依賴人又ハ代理人ヨリ豫テ届出ノ指名アル通知先ヘ其指令濟ノ旨ヲ通報シタル後株券記名替ノ申出アルトキハ第拾壹號書式ニ據リ雙方連署ノ株式賣買若クハ讓與證書ヲ作ラシメ株券裏面賣讓渡人及買讓受人ノ枠内ニ第拾貳號樣式ノ如ク各自記名調印シテ差出サシムヘシ若シ代理人ニ於テ之ヲ所理スルトキハ肩書ニ各本人ノ氏名記入ヲ要ス

第十條　前第九條株券ノ記名替ヲ證スル爲メ株券裏面記名ノ枠内ニ總裁及文書株式兩局長署名捺印シ且株式賣買讓與記入帳株式勘定元帳株券番號記入帳ノ三簿ニ其要領ヲ記入シ其記名枠上部ト該番號記入帳トニ割印シテ之ヲ交付スルモノトス

第十一條　本行株主間ニ於テ株式ノ賣買讓與ニ係ルモノハ更ニ第八條ノ上申ヲ要セス直チニ記名替ヲ了シ得ルヲ以テ第七條株式賣買讓渡依賴書及第九條株式賣買讓與證書ト株券トヲ同時ニ

受理シ齊シク前第七條第八條第九條第十條ノ手續ヲ爲シ半季間之ヲ取纏メ第拾三號書式ノ屆書ヲ發遣スルモノトス

但本條ノ場合ニ於テ當日受理シタル分ヲ纏メ株式賣買讓與決裁簿乙ノ部ニ記入シ重役ノ裁可ヲ請クル等總テ第八條ノ手續ニ據ル

第十二條　株式所有者隱居ノ爲メ家督相續人ヘ株券ヲ讓渡シ其記名替ヲ請フトキハ第拾四號書式ノ依賴書及第拾五號書式ノ證書ヲ差出サシメ株券裏面記名枠內授受ノ式ハ第拾六號樣式ニ據ルモノトス

第十三條　株式所有者死去ノ爲メ遺留トシテ株券ヲ家督相續人ヘ讓受ノ場合ニハ親族連署ヲ以テ第拾七號書式ノ依賴書及第拾八號書式ノ證書ヲ差出サシメ株券記名替ノ式ハ第拾九號樣式ニ據ルモノトス

第十四條　株式所有者死亡シテ其株式ヲ生前ノ遺言ニ據リ家督相續人ニ讓受ケスシテ他人名義ニ記名替ヲ要スルモノアルトキハ其相續人及親族ノ連署アル第貳拾號書式ノ依賴書及第二十一號書式ノ證書ヲ差出サシメ株券記名替ノ式ハ第二十二號樣式ニ據ルモノトス

第十五條　前第十三條遺留株式ノ相續人幼年又ハ其他事故ノ爲メ其株券ヲ後見人名義ニ記名替ヲ請フトキハ第二十三號書式ノ依賴書及第二十四號書式ノ證書ヲ要シ株券記名替ノ式ハ第貳拾五號樣式ニ據ルモノトス

第十六條　前條後見人記名ノ株券ヲ他人ヘ賣渡又ハ讓與セントスルトキハ第貳拾六號書式ニ據リ華族ハ親族會議員其他ハ親族二名以上ノ連署アル依賴書ヲ差出サシメ之ニ屬スル證書ハ前第

九條ノ第拾壹號書式ニ據リ授受者ノミ連署ヲナシ其證書株券モ賣讓渡人ノ肩書ニ何某後見人ト記入アルヲ要ス

第十七條　前第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條ノ株式記名替ニ係ル依賴書ヲ受理シタルトキ其取扱順序ハ前第八條第九條第十條ノ各條ニ據リ株券記名替ノ手續ヲ了スルモノトス

第十八條　前第十五條ノ被後見者其後見ヲ解カレタルトキハ元後見人並親族ノ連署アル第二十七號書式ノ屆書ヲ差出サシメ株券記名ハ從前ノ儘存シ置キ株式勘定元帳及番號帳ニ其事由ヲ記入訂正シ置クモノトス

第十九條　株主自己ノ姓名變改ノ爲メ株券ノ名義付替ヲ請求スルトキハ證明人トシテ親族連署若クハ區町村長ノ公證（此場合ニ於テハ親族連署ヲ要セス）アル第貳拾八號書式ノ依賴書ヲ差出サシメ前第十條ノ手續ヲ以テ第貳拾九號樣式ノ如ク株券ノ記名替ヲナシ而テ大藏省屆出ノ手續ハ半季間取纏メ前第十一條ノ屆書ニ合同スルモノトス

第二十條　前各條株式ノ記名替ヲ要スルタメ地方株主ヨリ株券及付屬書類其他手數料郵稅等ヲ本行ヘ郵送シ來ルトキハ株券付帶ノ委任狀及規定ノ書類等ヲ查閱シ若シ不完全ノ廉アリト見認ルモノハ其事柄ヲ依賴人ニ照會シ全ク整備シタル上株主間ノ授受ト其買讓受人ノ新ニ株主トナルモノトヲ區別シ前各條ニ據リ記名替ノ手續ヲナシ株券ハ書留郵便ヲ以其依賴人ニ返付スルモノトス

但本條ノ手續中株券手數料郵稅等ハ保護函ニ格護シ置キ手續結了ノ後郵稅ト共ニ其株券ヲ支書局ニ回付發遣スヘシ

第廿一條　株券記名替手數料ハ第十二條及ヒ第十三條ノ代替リ家督相續並第十九條改姓名ノ爲メ記名替ヲ要スルモノヲ除クノ外總テ壹株ニ對シ金五錢ヲ收入ス此場合ニ於テハ先ッ本票端書二葉接續ノ收納傳票ニ手數料勘定ノ科目ヲ設ケ收納人名金額年月日等ヲ記入シ之レニ局印ヲ押捺シ主任認印ノ上之ヲ截斷シ其端書ヲ收納人ニ交付シ收納人ハ此端書ニ現金ヲ添テ金庫局ニ納入スレハ同局ハ之ニ收納濟ノ印ヲ捺シ且掛員檢印ノ上之ヲ收納人ニ返付ス而テ收納人ハ又其端書ヲ本局ニ回付スレハ本局ハ之ヲ查閱シ本票ニ其納入貨幣ノ種類ヲ轉記シ之ニ對スル領收證（局長名印ヲ以テ發付スルモノ）ヲ交付スヘシ尤モ收納傳票ニハ局長ノ檢印ヲ受クルモノニシテ其傳票ヨリ帳簿ノ登錄ヲナシ之ニ記帳濟ノ印ヲ捺シ金庫局ニ回付シ端書ノ分ハ本局ニ保存シ置クモノトス

第三章　株券再發付株主印鑑並ニ割賦金仕拂手續

第廿二條　株券賣買授受ノ爲メ裏面欄內記名調印ノ場所盡キタルトキ又ハ毀損汚染等ノ爲メ株券ノ引換ヲ要スル場合ニ於テハ株式所有者ヨリ其事由ヲ記載シタル第貳拾九號書式ノ依賴書ヲ差出サシメ而テ新ニ發付スヘキ株券ハ表面ニ現所有者名義ヲ記入シ番號金額入金年月日等ハ其交換スヘキ株券面ト同一ニシテ日附及役員名印ハ再發付當日ノ現在ヲ以テ調製シ第十條株券番號記入帳ト割印ノ上之ヲ交付スルモノトス

第廿三條　株券紛失ノ爲メ其所有者ヨリ株券ノ再發付ヲ請求スルトキハ第三拾號書式ニ據リ其事由ヲ明記シ本行ノ滿足スヘキ保證人二名以上ノ連署アル屆書ヲ差出サシメ第三拾壹號書式ノ如ク官報及新聞紙ヲ以一週間廣告シ尙三ケ月ヲ經過シタル後再發付スヘキ株券ハ前條ニ據リ夫々記入調印ノ上之ヲ交付スヘシ此場合ニ於テハ更ニ第三拾二號書式ノ證書ヲ徵シ且廣告料ハ本人ヨリ支辨セシムルモノトス

但本條ノ保證人ハ本行株主若クハ資產確實ナル者ヲシテ之ヲ爲サシメ而テ屆出ノ際其事實ヲ取調滿足ヲ得ルノ後廣告等ノ手續ヲナスヘシ

第廿四條　前第廿二條株券ノ交換ニ係ルモノハ其株券甲乙裏面ノ紙端ヲ併合シ株式局印ヲ以テ割印シ尙後證ノ爲メ表面餘白ノ場所ニ第三拾三號圖式ノ朱印ヲ押捺シ之ニ交換ノ二字ヲ加ヘ其第廿三條ノ紛失ニ係ルモノハ裏面ノ割印ヲ缺キ該朱印缺字ノ場所ヘ紛失ノ二字ヲ記入交付スルモノトス

第廿五條　前第廿二條及第廿三條再發付ノ株券壹株ニ對シ手數料トシテ金拾五錢ヲ徵收シ而テ交換ヲ了シタル無効株券ハ其株數番號人名及事由等ヲ本局送達簿ニ詳記シ文書局ニ引繼キ同局ニ於テ消印ノ上之ヲ保管シ他日ノ證憑ニ供シ置クモノトス

第廿六條　本行株主ト爲リタル者ニハ定款壹冊ヲ付與シ同時ニ印鑑用紙ヲモ交付シ本人ヲシテ其用紙欄內ニ住所身分職業姓名年月日等ヲ詳記シ印鑑押捺ノ上本行ニ差出サシメ之ヲ印鑑簿ニ貼付シ置クモノトス而テ其印鑑磨滅シタル爲メ改印ヲ要スルトキハ更ニ印鑑紙ヲ交付シ之レニ曩キニ屆出ノ舊印ト改正印トヲ併捺シ株主一己ノ署名ヲ以テ改印屆書ト俱ニ差出サシメ又亡紛失等ニテ改印ヲ要スルモノハ其屆書ニ他ノ本行株主若クハ親族ノ內證明人トシテ連署シ之レニ其改正印鑑ヲ添テ差出サシムルモノトス

但本條亡紛失ニ係ル改正印鑑屆書ニ區町村長ノ公證アルトキハ別ニ證明人ヲ要セス

第廿七條　株主ノ住所ヲ轉居シ又ハ町村名番地等ニ變更ヲ來シタル爲メ戸籍變換ノ屆出ヲナシタルトキハ直チニ本行ニ備ヘアル各帳簿ノ戸籍ヲ訂正シ置クモノトス

第廿八條　毎半季定式株主總會期日前凡十五日間株式ノ記名替ヲ停止スルヲ以テ其停止前ニ株式ノ名義書替ヲ了シタル現在株主所有ノ株高順ヲ以テ其株式ニ對スル利益割賦ノ金額株數姓名及番號ヲ登載シタル帳簿貳冊ヲ製シ壹冊ハ本行ノ割賦金仕拂假帳ニ充テ壹冊ハ大阪支店ノ分トシ割賦金仕拂期日前ニ之ヲ同店ヘ回致シ置クモノトス

第廿九條　各株主ニ配付スヘキ割賦金領收證用紙ニハ前條ノ假帳ニ付シタル番號ト同番號ヲ付記シ金額ノ傍ニ「壹株ニ付金何圓宛」ト活字ヲ以テ押印シ且脫漏ノ有無ヲ點檢整備ノ上總會當日出席ノ株主ニ之ヲ交付シ其出席ナキ分ハ散會ノ後直チニ之ヲ文書局ニ回付シ同局ヨリ郵便ヲ以テ發遣スルモノトス

但本條領收證用紙ヲ紛失シタル爲メ再ヒ其交付ヲ請フモノアルキハ更ニ同番號ヲ付シタル用紙ヲ交付シ其紛失シタル用紙發見ノ上ハ直チニ返却スヘキ旨ノ明文アル書面ヲ徵シ置クヘシ

第三十條　毎半季割賦金ハ上半季ハ其年八月下半季ハ翌年二月各總會後ノ月曜日ヨリ仕拂ヲ始ムル則其手續ハ株主自己ニ於テ曩キニ本行ヨリ配付シタル領收證用紙ニ其所有株高ニ對スル金額株數年月日姓名ヲ記入シ實印押捺ノ上本行又ハ大阪支店ニ差出シ現金受取方ヲ請求スヘシ此場合ニ於テ（大阪支店ニ於テ割賦金仕拂ノ手續モ凡ソ本行ノ取扱ニ同シ）本行ハ其領收證ヲ第廿八條ノ割賦金仕拂假帳ニ照合シ尚第廿六條ノ印鑑簿ニ就キ印影ノ正否ヲ查閱確認シタル後其假帳ト領收證トニ局印ヲ以テ割印シ主任檢印ノ上之ヲ簿記主任ニ回付シ增補日記帳及ヒ割賦金記載帳ニ登錄シ而テ領收證上部餘白ノ場所ニ亞剌比亞數字ヲ以テ金額ヲ復記シ之ニ檢印シテ受取人ニ交付スレハ受取人ハ之ヲ金庫局仕拂掛ニ差出シ同掛ハ引換ニ現金ヲ仕拂フモノトス

但本條ノ割賦金仕拂ヲ了シタル後當日ノ仕拂高合計ヲ仕拂傳票ニ記載シ是ヨリ帳簿登錄ノ順序ヲナスハ前第廿一條收入傳票ノ取扱ニ同シ

第卅一條　大阪支店ニ於テ仕拂ヒタル割賦金ハ其仕拂報告書ヲ受ケタル當日之ヲ前第廿八條割賦金仕拂假帳ト照合シ相違ナキヲ認メタル後營業局第二課合評ノ振替傳票ヲ發シ記帳ノ手續ヲナスモノトス

第四章　保護預リ並ニ出納官吏身元保證保管預リ手續

第卅二條　保護預リハ封緘保護預リ及披封保護預リノ二種トシ各別ニ定ムル所ノ假規定ニ據リ其取扱ヲナスモノトス

第卅三條　封緘保護預リハ預ケ主ニ保護函ヲ貸與シ其函數ニ應シ手數料ヲ收メ披封保護預リハ其證券類ノ額面ニ應シ之ヲ收ムルモノトス

但本條手數料收入ノ場合ニ於テハ前第廿一條ノ手續ニ據ル

第卅四條　封緘又ハ披封保護預ケノ申込アルキハ第三拾三號書式ノ依頼書ヲ差出サシメ之ニ筆頭書記認印シテ局長ノ檢印ヲ得而テ總裁ノ決判ヲ受ケ各其假規定承諾簿ヘ預ケ主並ニ紹介人ヲシテ署名捺印セシメ主任及筆頭書記認印シテ重役ノ檢印ヲ受ケ現品調查ノ上預ケ入ヲナシ文書局長ノ副署アル總裁署名ノ預リ證書ト俱ニ通券ヲ製シ通券ハ規定承諾簿ト行印ヲ以テ割

印シテ交付シ其通券ハ預ケ品出入ノ都度持參セシムルモノトス

第卅五條　披封保護預ケ品ノ内戻シ交換又ハ預ケ増ヲ爲サントスルトキハ第三拾四號書式ニ據リ依頼書ヲ差出サシメ之ニ主任及筆頭書記認印シテ局長ノ檢印ヲ受ケタル後現品ノ授受ヲ爲スモノトス

但本條ノ場合ニ於テハ預リ品ニ增減ヲ來スヲ以テ保護預リ證書ノ更正ヲ要ス

第卅六條　披封保護預リ期限中公債證書又ハ株券ニ屬スル利賦札ヲ截斷セント請フトキハ第三十五號書式ノ請求書ヲ差出サシメ局員ノ面前ニ於テ本人ヲシテ之ヲ截斷セシメ又ハ時宜ニ依リ局員ニ於テ截斷ノ上之ヲ授與シ其請求書ノ餘白若クハ裏面ニ利賦札領收ノ證印ヲナサシメ預リ品ハ再調査シテ請取ルモノトス

第卅七條　封緘及披封保護預ケ滿期ニ至リ尚其約束ヲ繼續セントスルトキハ第三拾六號書式ノ依頼書ヲ差出サシメ前第三十四條ノ通券ヲ交換シ又期限中若クハ滿期ニ至リ解約セントスルトキハ第卅七號書式ノ請求書ヲ差出サシメ保護預リ證書及通券ト引換ニ現品ヲ還付スルモノトス

但本條依頼書及請求書ハ筆頭書記認印ノ上前第卅四條ノ順序ニ依リ總裁及局長ノ回覽ニ供シ檢印ヲ請ケ且不用ニ歸シタル保護預リ證及通券等ハ消印ヲ受クヘシ

第卅八條　預ケ主ニ於テ封緘保護預リ品ノ出入ヲ爲サントスルトキハ同假規定第三條ニ揭ケタル物品ノ外入函セシメサル爲メ局員一名必ス立會フモノトシ而テ預リ期限中一時函内ノ物品ヲ悉皆引出サントスルトキハ第三拾八號書式ノ依頼書ヲ差出サシメ預リ證及通券ハ其物品代リト見做シ預ケ主本人ヲシテ之ヲ函内ニ納メシメ鎖鑰ヲ施シ其鍵ハ本局ヘ預ケ置クモノトス

但契約期限已ニ經過スルモ尚物品ノ納函ヲナサス且期限繼續ノ申出ナキトキハ自然解約ト見做シ適宜所分スルコアルヘシ

第卅九條　出納官吏身元保證金代用記名公債證書ヲ中央金庫ニ保管預ケヲナサント請フトキハ第三拾九號書式ノ依頼書ヲ差出サシメ主任及筆頭書記認印シテ之ヲ總裁及局長ノ回覽ニ供シ檢印ヲ受ケ之ニ對スル保管證書ハ大藏省訓令第十六號第一號書式ニ據リ之ヲ製シ其甲號保管證書ヲ預ケ主ニ交付シ書留簿其他ノ帳簿ニ記入ヲ了シタル後乙號保管證書ハ送達簿ヲ以テ大臣ニ納付スルモノトス

第四十條　各本支金庫取扱ニ係ル乙號保管證書ハ中央金庫ヲ經由シテ大藏大臣ヘ納付スルヲ以テ其保管證書ヲ本局ヘ配付サレタルトキハ帳簿ノ記入ヲ了シ該證書面ニ設ケタル中央金庫記帳濟印ノ枠内ニ主任認印シ前條ノ手續ニ據リ大藏大臣ヘ納付スルモノトス

第四十一條　中央金庫保管ノ公債證書下戻ヲ要スル場合ニ於テハ乙號保管證書裏面ニ(表面ノ公債證書ハ返却ス)ト記載シ大藏大臣署名捺印ノ上中央金庫ニ下渡サレ之ヲ本局ニ配付サレタルトキハ出納官吏ヨリ甲號保管證書ヲ納付スルヲ待チ甲乙號保管證書ヲ對照ノ上相違ナキヲ認メタル後甲號保管證書引換ニ現品ヲ還付シ各帳簿ニ拂戻ノ事由ヲ記入スルモノトス

第四十二條　各本支金庫仕出ニ係ル乙號保管證書ハ本局ニ配付サレタルトキハ前條ニ據リ拂戻ノ記帳ヲ了シ直チニ乙號保管證書ヲ各所屬ノ本金庫ニ送達スルモノトス

但中央金庫所屬ノ支金庫仕出ニ係ルモノハ直チニ其支金庫ニ送達スヘシ

第四十三條　中央金庫ニ預リタル出納官吏身元保證保管ノ各種公債證書ニ屬スル利札ハ其利子渡期限ニ於テ大藏省訓令第十六號第二號書式ノ領收證ヲ徵シ之ニ押捺シタル印鑑ト最初預ケ入ノ時差出シタル依賴書ノ印鑑トヲ照査シ其確實ナルヲ見認メ利札ヲ截斷シテ之ヲ預ケ主ニ交付スルモノトス

第四十四條　保護預リ品並ニ出納官吏身元保證保管品ハ第五章各種保管品ト同一ノ手續ニ依リ取扱フモノトス

第五章　各種保管品取扱手續

第四十五條　保管品トハ本行所有各種公債證書銀行紙幣消却準備同差益及同元資積立同差益ニ屬スル各種公債證書定期貸抵當品割引保證品同擔保品當座勘定並ニ「コルレスポンデンス」根抵當品金庫事務及公債事務又ハ金庫雜口ニ屬スル保證品等ヲ總稱スルモノニシテ各主務局課ノ通知ニ依リ之ヲ出入スルモノトス

第四十六條　本行所有公債證書並ニ當座勘定貸根抵當品ハ營業局第二課ニ於テ銀行紙幣消却準備同元資積立及差益ニ屬スル各種公債證書ハ銀券局ニ於テ定期貸抵當、割引保證及擔保品ハ營業局第一課ニ於テ「コルレスポンデンス」根抵當、金庫事務及公債事務保證品ハ文書局ニ於テ金庫雜口保管品ハ國庫局第二課ニ於テ其手續ヲ經タル後本局ニ現品ノ回付ヲ受クルモノトス

第四十七條　前條ノ各種保管品ハ通知書又ハ添付書類等ニ照シ其種類員數眞贋等ヲ精密ニ調査シテ委任狀及承諾證アルモノハ現品添付ノ儘之ヲ本局ニ請取領收濟ノ旨ヲ主務局ニ通知シ其抵當保證又ハ擔保品ニ係ルモノハ各項目ヲ分チ其番號及氏名等ヲ保管品金庫出入帳ニ記入シ而テ其通知書ヲ以テ各帳簿ノ登載ヲ了シタル後通知書ハ主任檢印シテ其主務局課ニ還付スルモノトス

第四十八條　各種保管品ハ金庫內紛雜混亂ノ憂ナキ樣各其保管目ノ區別ニ依リ置場ヲ一定シ現品ノ大小種類ニ應シ大ナルモノハ函中ニ納メ或ハ板ニ挾ミ又小ナルモノハ紙袋ニ封入シ之ニ種類要件等ヲ記載シタル貼紙ヲ貼付シ孰レモ封印ヲ施シ嚴重ニ保管スルモノトス

第四十九條　本行所有各種公債證書賣渡ノ場合ニ於テハ營業局第二課ヨリ其種類員額ノ通知ヲ得テ現品ヲ金庫ヨリ出シ代金收納濟ノ上記帳ヲ了シタル後之ヲ買主ニ交付スルモノトス

第五十條　各抵當保證又ハ擔保ニ係ル保管品ノ返付ヲ要スル場合ニ於テハ主務局課ヨリ其引揚ケタル預リ證書ト豫テ預ケ主ヨリ差入置キシ添書トヲ本局ヘ回付シ保管品返付ノ旨ヲ通知シ來ルトキハ直ニ金庫ヨリ現品ヲ出シ其貼紙ヲ剝取リ之ニ返付ノ年月日ヲ記シ且前第四十七條ノ金庫出入帳ニ同シク返付ノ年月日ヲ記入シ之レト貼紙トニ割印シ預リ證書裏面ニモ亦返付ノ年月日ヲ記載シ之ニ返付濟ノ印ヲ捺シ其證據書類ニ主任檢印或ハ消印シテ之ヲ記帳ノ材料ニ供シ帳簿ノ登載ヲ了シタル後返付ヲ要スヘキ添書及現品ハ本人ニ交付シ引揚ニ係ル預リ證書ハ之ヲ主務局課ニ還付スルモノトス

第五十一條　各保管品ノ內戻又ハ交換ノ場合ニ於テハ總テ前各條新規受授ノ手續ニ準シ取扱フモノトス

第五十二條　保管品ハ出入アル毎ニ其摘要員額等ヲ假リニ塗板ニ記シ置キ事務終結ニ臨ミ之ヲ保管品有高控簿ヘ轉記シ其增減シタル有高ヲ正確ナラシムルモノトス

第五十三條　前第四十五條ニ掲ケタル營業局第二課並ニ銀券局保管ニ係ル公債證書ノ内當籤シタルモノアルトキハ官報登載ノ記番號ニ就キ公債證書現券ヲ調査シ當籤シタル證書ハ之ヲ一括ノ中ヨリ拔キ取リ種類別帶封ヲナシ之ニ其額面枚數等ヲ記載シ置クモノトス

第五十四條　前條當籤證書ノ調査ヲ終リ記番號調書ヲ調製シタルトキハ營業局第三課ノ報告ニ係ル當籤證書調書ト照査シ全ク脫漏ナキヲ見認メ其調書ハ銀券局及營業局第二課合評ノ回議ヲ以テ重役ノ回覽ニ供スルモノトス

第五十五條　公債當籤證書引渡ハ其主務局課ノ通知ヲ受ケ直ニ營業局第三課ニ回付スルモノトス

第五十六條　銀券局及營業局第二課ニ屬スル保管ノ各種公債證書附屬ノ利賦札ハ利賦金渡リ期前局務ノ都合ヲ圖リ適宜時日ヲ定メ臨時職人ヲ傭使シテ之ヲ截斷セシムルヲ以テ此場合ニ於テハ局員一名若クハ二名現場ニ立會諸事ヲ監督シ其截斷シタル利賦札員數ノ過不足斷チ損等ノ有無ヲ精査シ各百枚毎ニ帶封ヲ施シ其中央ヲ打拔キ元結ヲ以テ貫結シ尙其結ヒ目ニ封紙ヲ貼付シ之レニ封印シテ各種類ヲ區別シ置クモノトス

但截斷シタル利札ノ百枚ニ滿タサルモノハ總テ本條ノ手續ヲナシ封紙ニ其員數ヲ記載スヘシ

第五十七條　截斷シタル利札ハ截斷利札控簿ニ其項目種類員額發行年度等ヲ類別明記シテ他日ノ參考ニ供スルモノトス

第五十八條　公債證書利賦金渡期ニ至リ銀券局及營業局第二課ノ通知ニ依リ前第五十四條ノ截斷利賦札ハ直チニ營業局第三課ニ回付引渡ヲ了スルモノトス

第五十九條　各抵當保證及擔保品トシテ保管シタル各種公債證書及株券ニ屬スル利賦札ノ交付ヲ請求スルトキハ利札請求書ヲ主務局課ニ差出シ各主任認印ノ上之ヲ本局ニ回付シ來ルトキハ前第四章第三十六條ノ手續ニ據リ利札ヲ交付スルモノトス

株式局事務取扱手續附屬書式

第壹號書式　（官報並ニ日々新聞公告文）

一　日本銀行株式ノ内何株

右ハ華族位爵何ノ某所有ノ分今般世襲財産ト爲シ度旨同人ヨリ願出候趣宮内大臣ヨリ被達候條故障アル者ハ何月何日迄ニ當銀行ヘ申出アルヘシ

但株券番號承知致度者ハ當銀行株式局ヘ申出アルヘシ

年　月　日

日本銀行

第貳號書式　（宮内大臣ヘ上申文）

華族位爵何某世襲財産故障申出ノ義ニ付上申

華族位爵何某所有日本銀行株式何個今般世襲財産ト爲シ度旨願出候趣御達ニ付夫々公告取計候處右株式ニ對シ何某ヨリ別紙寫ノ通故障申出候此段上申候也

年　月　日

日本銀行總裁

宮内大臣爵姓名殿

第三號書式　（宮内大臣へ上申文）

華族位爵何某所有ノ日本銀行株式何個今般世襲財産ト爲シ度旨願出候趣御達ニ付夫々公告取計候處公告後三十日間經過候得共何等故障申出無之候此段上申候也

年　月　日

宮内大臣爵姓名殿

日本銀行總裁

第四號書式　（爵位局へ照會文）

華族位爵何某所有ノ本行株式今般世襲財産ト爲シ度旨出願ノ義ニ付宮内大臣ヨリ御達ノ旨趣ニ基キ官報及府下定時刊行ノ一新聞紙ニ掲ケ七日間公告取計候費用別紙計算書ノ通リ本行ニ於テ仕拂候條御償還被下度此段致請求候也

年　月　日

爵位局長官爵姓名殿

日本銀行總裁

第五號書式

華族世襲財産公告費用計算書

一金何圓也

内譯

金何圓　官報局公告料

但何行分壹行ニ付金何錢

金何圓　日報社同斷

但何行分壹行ニ付金何錢

右ハ華族位爵何某所有ノ日本銀行株式今般世襲財産ニ可相成旨七日間公告費用書面之通有之候也

年　月　日

日本銀行

第六號書式　（宮内大臣命令書）

明治何年何月何日付ヲ以テ公告ノ儀命令ニ及ヒタル華族位爵何某所有ノ株券明治何年何月何日同家ノ世襲財産ト爲スコトヲ認可シ爵位局ヲシテ世襲財産臺帳ニ記入セシメ認可證下付候條其旨株式帳簿ヘ記入スヘシ

年　月　日

宮内大臣爵姓名印

此命令書ニ對シ請書上呈ノ手續ハ總テ文書局ニ於テ取扱フモノトス

第七號雛形　（帳簿押捺ノ印）

資本金株式及利益金　株式賣買讓與及種類交換

明治　年　月　日
爲華族世襲財産

世襲

第八號書式

株式賣讓渡ニ付依頼書

一　株式何個

但自第何號至第何號

右者拙者所有之處今回何府縣何市郡區何町村何番地何某ヘ賣讓渡可申示談相整候間貴行ノ成規ニ據リ可然御取計被下度此段及御依頼候也

何府縣何市郡區何町村何番地

明治　年　月　日　　何　某　印

若シ代理人ナル時ハ（代理　何　某　印）

日本銀行總裁姓名殿

第九號書式　（代理人ヲシテ所理セシムルトキ委任狀ノ凡例）

印紙

委　任　狀

拙者儀何某ヲ以テ部理代人ト相定メ左ノ權限ヲ代理爲致候事

一　日本銀行株式何個也賣讓渡シ候ニ付名義書換總テ代印調理ノ事

右委任狀仍テ如件

年　月　日　　住　所

姓　名　印

第拾號書式　（大藏大臣ヘ上申文）

株式賣買讓與之儀上申

本行株式賣買讓與之儀別紙ノ通雙方示談相整候旨申出候本行ニ於テハ敢テ不都合無之ト認定候間御許可被下度候也

年　月　日　　日本銀行總裁姓名　印

大藏大臣爵姓名殿

別紙添付ノ書

記

一　株式何個

何府縣何市郡區何町村何番地

賣讓渡人　何　之　誰

何府縣何市郡區何町村何番地

買讓受人　何　之　誰

第拾壹號書式

資本金株式及利益金　株式賣買讓與及種類交換

印紙

記

一　株式何個

但自第何號至第何號

右之株式何某所持ノ分今般何某ヘ（賣讓渡ノ儀御承認相成候ニ付則（株券賣買代金受渡相濟候）爾後
賣買）請人ハ前株主同樣ノ責任ヲ負擔シ總テ貴行ノ成規ヲ遵守可致候也

明治　年　月　日

何府縣何市郡區何町村何番地
（賣讓渡人　何　某　印

何府縣何市郡區何町村何番地
（買讓受人　何　某　印

日本銀行總裁姓名殿

壹個ニ付
代金何程（讓渡ニ係ルモノハ之ヲ除ク）

第拾貳號樣式　（株券裏面記名枠內賣讓渡人及買讓受人並本行役員名印ノ樣式）

年月日	賣讓渡人名印	買讓受人名印	總裁名印	文書局長名印	株式局長名印
明治何年何月何日	何某印	何某印	何某印	何某印	何某印

第拾三號書式

昨何年下本年上半季中當銀行株主間ニ於ケル株式ノ增減別紙ノ通候條十八年十二月七日御指令濟ノ旨ニ據リ此段御屆仕候也

年　月　日

大藏大臣爵姓名殿

別紙添付

日本銀行總裁姓名　印

府縣	身分	賣讓渡人	株數	府縣	身分	買讓受人
	華士族平民	姓名	何個		華士族平民	姓名

第拾四號書式

株式讓渡ニ付依賴書

一　株式何個

但自第何號至第何號

右者拙者所持ノ處今回隱居致候ニ付家督相續人何某ヘ讓渡度候間貴行ノ成規ニ據リ可然御取計被下度此段及御依賴候也

明治　年　月　日

何府縣何市郡區何町村何番地
讓渡人　何　某　印

日本銀行總裁姓名宛

第拾五號書式

印紙　　記

一　株式何個
　但自第何號至第何號
右之株式何某所持ノ分今般家督相續人何某ヘ讓渡ノ儀御承認相成候ニ付則株券授受相濟候爾後讓受人ハ前株主同樣ノ責任ヲ負擔シ總テ貴行ノ成規ヲ遵守可致候也

明治　年　月　日

何府縣何市郡區何町村何番地
讓渡人　何　某　印

何府縣何市郡區何町村何番地
家督相續讓受人　何　某　印

日本銀行總裁姓名殿

第拾六號樣式（株券裏面記名枠内授受ノ樣式）

年月日	讓渡人名印	讓受人名印
明治何年何月何日	何某印	家督相續人何某印

以下略ス

第拾七號書式

株式讓受記名替依賴書

一　株式何個
　但自第何號至第何號
右之株式何某所持ノ處同人儀明治何年何月何日死去致候ニ付今般家督相續人何某ヘ遺留物トシテ讓受候間貴行ノ成規ニ據リ可然御取計被下度依テ親族連署ヲ以テ此段及御依賴候也

明治　年　月　日

何府縣何市郡區何町村何番地
故何某家督相續人　何　某　印

遺留物讓受人　何　某　印
住所

親族　何　某　印
住所

親族　何　某　印
住所

親族　何　某　印

日本銀行總裁姓名殿

第拾八號書式

印紙　　記

資本金株式及利益金　株式賣買讓與及種類交換

一　株式何個

但自第何號至第何號

右之株式故何某所持ノ分今般家督相續人何某ヘ遺留物トシテ讓受ノ儀御承認相成候ニ付爾後讓受人ハ前株主同樣ノ責任ヲ負擔シ總テ貴行ノ成規ヲ遵守可致候依テ親族連署證書如件

明治　年　月　日　　遺留物讓受人　何府縣何市郡區何町村何番地　何　某　印

親族　住所　何　某　印

親族　住所　何　某　印

日本銀行總裁姓名宛

第拾九號樣式（株券裏面記名枠内遺留物讓受ノ樣式）

年　月　日	賣讓渡人名印	買讓受人名印
明治何年何月何日	故何某	家督相續人何某印

以下略ス

第貳拾號書式　　株式記名替依賴書

一　株式何個

但自第何號至第何號

右之株式何某所持ノ處同人儀何年何月何日死去致候ニ就テハ同人存命中遺言ニ據リ何某ヘ贈遺讓受候間貴行ノ成規ニ據リ可然御取計被下度依テ家督相續人及親族連署ヲ以テ此段及御依賴候也

何府縣何市郡區何町村何番地　贈遺讓受人　何　某　印

故何某（妻又ハ男兄弟姉妹其他緣故ノ次第ヲ記載スヘシ）　住所

何府縣何市郡區何町村何番地　故何某家督相續人　何　某　印

親族　住所　何　某　印

親族　住所　何　某　印

親族　住所　何　某　印

日本銀行總裁姓名殿

資本金株式及利益金　株式賣買讓與及種類交換

第貳拾壹號書式

印紙　記

一　株式何個

但自第何號至第何號

右之株式故何某所持之處同人存命中遺言ニ據リ何某ヘ贈遺讓受ノ儀御承認相成候ニ付則前株主同樣ノ責任ヲ負擔シ總テ貴行ノ成規ヲ遵守可致候依テ家督相續人及親族連署證書如件

何府縣何市郡區何町村何番地

故何某（妻次三男兄弟姉妹其他緣故ノ次第ヲ記載スヘシ）

住所　何　某　印

贈遺讓受人　住所　何　某　印

故何某家督相續人　住所　何　某　印

親族　住所　何　某　印

親族　何　某　印

明治　年　月　日

第三拾九號書式

身元保證公債證書保管預依賴書

明治　年　月　日

日本銀行總裁姓名殿

住所　何　某　印

第三拾八號書式

封緘保護預ヶ契約据置依賴書

一　第何號保護函

右函內ノ物品今般都合ニ依リ悉皆引出シ進テ再ヒ納函可致ニ付テハ契約期限中御規定ノ手數料相納ヲ可申ニ因リ該契約ハ其儘御据置相成度若シ滿期ニ至リ繼續ノ義不申出時ハ適宜解約ノ手續可然御取計被下度併テ此段及御依賴候也

住所　何　某　印

壹個

一　何公債證書額面何圓

右ハ豫テ貴行ヘ披封保護預ヶ致置候處今般解約之上悉皆引戻申度此段及請求候也

住所　何　某　印

明治　年　月　日

日本銀行總裁姓名殿

此券何枚

書

此券何枚
此券何枚

債證書(又ハ株券)ニ添ヘ

住　所　何　某　印

住　所　何　某　印

第三拾六號書式

抵封保護預ケ品引戻請求書

資本金株式及利益金　株式賣買讓與及種類交換

一何公債證書額面何圓
一何會社株券何株
預ケ置候前書公債證書ニ添ヘ何年何月渡シ利札截斷致度此段及請求候也

明治　年　月　日

日本銀行總裁姓名殿

第三拾六號書式

抵封保護預ケ切取證券引戻請求書

抵封繩保護ヲ貰行ヘ封緘保護預ケ置候處何年何月何日滿期ニ付更ニ向フ何年間繼續御預ケ申度此段及御依賴候也

明治　年　月　日

住　所　何　某　印

日本銀行總裁姓名殿

第三拾七號書式

抵封保護預ケ品引戻請求書

資本金株式及利益金　株式賣買讓與及種類交換

明治　年　月　日

日本銀行總裁姓名殿

第貳拾五號樣式　(株券裏面記名枠内受授ノ樣式)

年　月　日	賣讓渡人名印	買讓受人名印
明治何年何月何日	故何某家督相續人何某	何某後見人何某印

以下略ス

後見人　何某　印
住　所
親族　何某　印
住　所
親族　何某　印

幼年(又ハ何々事故)ニ付

第貳拾六號書式

株式賣讓渡ニ付依賴書

一　株式何個

但自第何號至第何號

右ハ拙者所持ノ處今回何府縣何郡區何町村何番地何某(賣讓)渡可申示談相整候間貴行ノ成規ニ

據リ可然御取計被下度依テ親族(又ハ親族會議員)連署ヲ以テ此段及御依頼候也

明治　年　月　日

何府縣何市郡區何町村何番地
何某後見人
何　某　印

住所
親族何某印

住所
親族何某印

日本銀行總裁姓名殿

第貳拾七號書式

後見人解除届

拙者儀今般後見ヲ被解候ニ付貴行株式ニ係ル諸事項自今總テ拙者ニ於テ取扱候條御承認相成度依テ元後見人並親族連署ヲ以豫テ此段及御届候也

明治　年　月　日

何府縣何市郡區何町村何番地
株主何某印

住所
元後見人何某印

住所
親族何某印

日本銀行總裁姓名殿

第貳拾八號書式

株式改姓名依頼書

一　株式何個
但自第何號至第何號

右ハ拙者儀今般其筋ヘ願濟ノ上改姓名致候ニ付株券名義更正御取計被下度依テ(親族連署ヲ以テ)此段及御依頼候也

明治　年　月　日

何府縣何市郡區何町村何番地
何某改姓名
何　某　印

住所
親族何某印

住所
親族何某印

日本銀行總裁姓名殿

日本銀行總裁姓名殿

親族何某印

第貳拾八號樣式　（株券裏面記名枠内改姓名記入ノ樣式）

年月日	賣渡人名印	買受人名印
明治何年何月何日	何某改姓名	何某印
	以下略ス	

第貳拾九號書式

株券交換依頼書

一　株式何個

但自第何號至第何號

右ハ株券裏面記名調印ノ所場相盡何々ノ事由ノ爲メ毀損（汚染相成）候ニ付本株券差出候間代リ株券御交付相成度此段及御依頼候也

明治　年　月　日

何府縣何郡市區何町村何番地

何某印

日本銀行總裁姓名殿

第三拾號書式

株券紛失届書

一　日本銀行株式（假）券狀何株

但自第何號至第何號

右ハ何々（事實詳記）ノ爲メ（委任狀添付ノ儘）致紛失候ニ付所轄警察署ヘモ及届出置候條一般廣告方御取扱ノ上更ニ同數ノ株券御調製御交付被成下度則チ保證人連署ヲ以御届旁此段及請求候也

明治　年　月　日

何府縣何市郡區何町村何番地

株主　何某印

住所

保證人　何某印

住所

保證人　何某印

日本銀行總裁姓名殿

第三拾一號書式　（官報及新聞廣告書式）

一　日本銀行株式（假）券狀何株

但番號自第何號至第何號　株券發付日附　明治何年何月何日

資本金株式及利益金　株式賣買讓與及種類交換

此枚數何枚

何某記名

右ハ何年何月何日何々ノ爲メ委任狀添付ノ儘紛失候旨本人ヨリ届出代リ株券交付スヘキニ付向後發見候トモ無効ニ屬ス此段廣告ス

明治　年　月　日

日本銀行

第三拾二號書式

印紙

證

一　日本銀行株式(假)券狀　何株

但　番號自第何號至第何號

株券發行日附明治何年何月何日

客本年何月何日付ヲ以御屆及置候拙者所有株券何々(事實記)ノ爲メ紛失致候處右代リトシテ前記ノ株券更ニ御交付相成正ニ致領收候ニ付テハ紛失ニ係ル株券ニ對シ他日如何樣ノ故障出來候共本人ハ勿論保證人ニ於テ都テ負擔所辨可致候仍テ爲後日保證人連署ヲ以テ證書差入申候也

住所　株主　何某印

住所　保證人　何某印

明治　年　月　日

第三拾三號圖式

明治　年　月　日ニ因リ更ニ交付

日本銀行總裁姓名殿

保證人　何某印

第三十三號書式

封緘 披封 保護預ヶ依賴書

一　公債證書幷ニ諸證文類

一　金銀貨並ニ貴金屬(寶玉類金銀製諸器物共)

以上封緘保護預リ

一　各種公債證書其他政府ノ保證ニ係ル諸手形類

一　銀行會社株券

以上披封保護預リ物品ノ種類員額詳記ヲ要ス

右ハ貴行封緘披封保護預リ假規定ノ旨趣ニ基キ本日ヨリ何年間御預ケ致度此段及御依賴候也

住所　預ケ主　何某印

明治　年　月　日

住所
紹介人　何　某　印

日本銀行總裁姓名殿

第三拾四號書式

披封保護預ヶ品（內戻交換預ヶ增）依頼書

一　何公債證書額面何圓　此券何枚
但何某記名（記名證書ナルトキ）　引戻分（交換ノ場合ニ於テ）
一　何公債證書額面何圓　此券何枚
但何某記名（仝　上）　差入分（仝　上）

豫テ貴行ヘ披封保護預ヶ致置候公債證書ノ內（「前書ノ分入用ニ付御渡相成度」「前書ノ通交換方御取計相成度」「ヘ更ニ前書ノ分預ヶ增シ致度」）此段及御依頼候也

住處
明治　年　月　日　何　某　印

日本銀行總裁姓名殿

第三拾五號書式

利札請求書

住所
遺留物讓受人　何　某

故何某家督相續人
何府縣何市郡區何町村何番地

右之株式故何某所持ノ分今般家督相續人何某ヘ遺留物トシテ讓受ノ義御承認相成候ニ付爾後讓受人ハ前株主同樣ノ責任ヲ負擔シ總テ貴行ノ成規ヲ遵守可致候依テ親族連署證書如件

印紙

第貳拾四號書式

一　株式何個
但自第何號至第何號
記

日本銀行總裁姓名殿

明治　年　月　日

後見人　何　某　印
住所
親族　何　某　印
住所
親族　何　某　印

七四〇

幼年(又ハ何々ノ事故)ニ付

住　所　　何　某

遺留物讓渡人　何　某

故何某家督相續人

何府縣何市郡區何町村何番地

右之株式何某所持ノ處同人儀明治何年何月何日死去致候ニ付今般家督相續人何某ヘ遺留物ヲ御取計被下度依テ親族連署ヲ以テ此段及御願候也

年　月　日　　讓渡人　何　某　印

明治何年何月何日　　故何某　遺　印

以下略ス

第貳拾貳號樣式　（株券裏面記名枠内授受ノ樣式）

株券裏面記名替依賴書

株式讓受記名替三號書式

一株式何個

但自第何號至第何號

右之株式何某所持ノ處同人儀明治何年何月何日ヲ以テ何某ヘ讓受候間名義書換相成度此段及御依賴候也

年　月　日　　讓渡人　何　某　印

明治何年何月何日　　故何某　遺　印

以下略ス

日本銀行總裁姓名殿

一　何歩利付金祿公債證書額面何圓

一　何公債證書額面何圓　　記番號詳記

右ハ拙者現金出納ヲ取扱フ爲メ身元保證金代用トシテ預ケ入候條保管證書御交付有之度此段及御依賴候也

此券何枚

此券何枚

明治　年　月　日

中央金庫

金庫出納役姓名殿

住　所

何府縣又ハ何局出納官吏

官　姓　名　印

本行株主ヨリ差出セル印鑑ノ中年ヲ經テ印影分明ナラサルモノ少カラス且市町村制施行以來町村名ノ變更アルモ往々屆出ナキモノアリ依テ明治二十五年二月二十日ヲ以テ印鑑差出方心得ヲ制定シ之ヲ各株主ニ通知シ且支店出張所ヘ右ノ趣ヲ通報スルト同時ニ印鑑用紙ヲ送付シ此際更ニ印鑑ヲ徵スルコトヽセリ

株主印鑑差出方心得

一　住所ハ何府縣何市郡區町村何番地ト詳記スヘキ事

一　身分ハ華族士族平民ト記入スヘキ事

一　職業ハ農工商僧醫神官官吏代言人銀行者會社員傭雜業又ハ無業ト記入スヘキ事

一　日附ハ印鑑差出ノ當日ヲ記入スヘキ事

一　銀行又ハ會社等ニ在テハ頭取社長ノ印鑑ト共ニ行印又ハ社印ヲ併捺スヘキ事

一　豫メ代理人ヲ定メ置キ割賦金ヲ請取ラントスル時ハ其旨ノ届書ヘ代理人ノ印鑑（用紙横壹寸竪三寸）相添ヘ届出ヘキ事

一　當行支店又ハ出張所ノ内ニテ割賦金請取タキ向ハ其旨用紙摘要欄内ヘ記入シ別ニ壹葉當行本店ヘ差出スヘキ事

一　改印シタル時ハ新舊兩印併捺ノ上其旨ノ届書差出スヘキ事

一　盜難紛燒失等ノ爲メ改印シタル時ハ市町村長ノ證明ヲ要スル歟又ハ他ノ當行株主ノ連署ヲ以テ届出ヘキ事

一　印鑑差出後身分職業及住所姓名ニ變更ヲ來シタル時ハ必ス其旨届出ヘキ事

住所	姓名	身分	印
		職業	

其後修正民法實施セラレ株主中往々同法ニ準據シ家督相續（家督相續人未成年ノ場合）ニ關スル株券記名書替ヲ請求スルモノアリ依テ明治三十一年九月二十七日ヲ以テ曩ニ株式局事務取扱手續ニ依リテ定メタル書式第二十三號乃至第二十五號ヲ左ノ通訂正實施スルコトヽセリ

鑑	摘要	明治　年　月　日

第二十三號書式

株式讓受記名替依賴書

一　株式何個

但　自第何號
　　至第何號

右之株式何某所持ノ處同人儀明治何年何月何日死去致候ニ付今般家督相續人何某讓受候間貴資本金株式及利益金　株式賣買讓與及種類交換

行ノ成規ニ據リ可然御取計被下度依テ親族連署ヲ以テ此段及御依頼候也

明治　年　月　日

何府縣何市郡區何町村何番地
故何某家督相續人
何　某

住所

未成年者（又ハ禁治産者）ニ付
親權者（又ハ後見人）

何　某　印

住所

親族何　某　印

住所

親族何　某　印

日本銀行總裁姓名殿

記

一　株式何個
但自第何號至第何號

第二十四號書式

右之株式何某所持ノ分今般家督相續人何某讓受ノ義御承認相成候ニ付爾後讓受人ハ前株主同様ノ責任ヲ負擔シ總テ貴行ノ成規ヲ遵守可致候依テ親族連署證書如件

明治　年　月　日

何府縣何市郡區何町村何番地
故何某家督相續人
何　某

住所

未成年者（又ハ禁治産者）ニ付
親權者（又ハ後見人）

何　某　印

住所

親族何　某　印

住所

親族何　某　印

日本銀行總裁姓名殿

第二十五號書式　株券裏面記名枠内授受ノ樣式

年月日	賣讓渡人名印	買讓受人名印
明治何年何月何日	故何某家督相續人何某親權者（又ハ後見人）某印	以下略

資本金株式及利益金　株式賣買讓與及種類交換